

大学番号：047

注3

[平成28年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

事前伺い

名古屋工業大学 工学部

生命・応用化学科、理工学科、電気・機械工学科、
情報工学科、社会工学科、創造工学教育課程

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人名古屋工業大学

令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 企画広報課

職名・氏名 企画・評価係主任 加藤 雄史郎

電話番号 052-735-5005

（夜間） 052-735-5005

F A X 052-735-5009

e-mail kcyosa@adm.nitech.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について
(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

工学部

<生命・応用化学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	16
4. 既設大学等の状況	17
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	32

<物理工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	36
2. 授業科目の概要	40
3. 施設・設備の整備状況、経費	48
4. 既設大学等の状況	49
5. 教員組織の状況	51
6. 附帯事項等に対する履行状況等	59
7. その他全般的事項	60

<電気・機械工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	63
2. 授業科目の概要	67
3. 施設・設備の整備状況、経費	78
4. 既設大学等の状況	79
5. 教員組織の状況	81
6. 附帯事項等に対する履行状況等	92
7. その他全般的事項	93

<情報工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	96
2. 授業科目の概要	100
3. 施設・設備の整備状況、経費	111
4. 既設大学等の状況	112
5. 教員組織の状況	114
6. 附帯事項等に対する履行状況等	124
7. その他全般的事項	125

<社会工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	128
2. 授業科目の概要	132
3. 施設・設備の整備状況、経費	143
4. 既設大学等の状況	144
5. 教員組織の状況	146
6. 附帯事項等に対する履行状況等	158
7. その他全般的事項	159

<創造工学教育課程>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	162
2. 授業科目の概要	166
3. 施設・設備の整備状況、経費	183
4. 既設大学等の状況	184
5. 教員組織の状況	186
6. 附帯事項等に対する履行状況等	206
7. その他全般的事項	207

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋工業大学

(2) 大学名

名古屋工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒466-8555

愛知県名古屋市昭和区御器所町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ウカイヒロキ) 鵜飼 裕之 (平成26年4月)	—	—
学部長	—	—	—
学科長等	フクダ コウイチロウ 福田 功一郎 (平成28年4月)	スズキ 将人大北 雅一 鈴木 将人大北 雅一 (平成30年4月平成31年4月)	平成30年3月31日 任期満了 平成30年4月1日 就任(30) 平成31年3月31日 任期満了 平成31年4月1日 就任(元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください）。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
工学部 生命・応用化学科 学士(工学) 学士(学術)	工学関係	4年	210人	3年次 2人	844人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	210 (-) [-]	-	210 (-) [-]	-	210 (2) [-]	-	210 (2) [-]	-	1.03倍		
志願者数	920 (-) [32]	-	937 (-) [24]	-	974 (5) [27]	-	845 (6) [35]	-			
受験者数	652 (-) [30]	-	670 (-) [22]	-	702 (5) [26]	-	604 (5) [28]	-			
合格者数	248 (-) [10]	-	245 (-) [8]	-	252 (2) [8]	-	247 (2) [7]	-			
B 入学者数	216 (-) [3]	-	216 (-) [5]	-	220 (2) [3]	-	225 (0) [2]	-			
入学定員超過率 B/A	1.02		1.02		1.04		1.07				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度				備 考		
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
1年次	216 [3] (-)	- [-] (-)	216 [5] (-)	- [-] (-)	219 [3] (-)	- [-] (-)	225 [2] (-)	- [-] (-)			編入学生数 H30: 3名 (3年) H31: 3名 (4年)		
2年次	/		213 [3] (-)	- [-] (-)	211 [5] (-)	- [-] (-)	215 [3] (-)	- [-] (-)					
3年次			/		/		215 [3] (-)	- [-] (-)	210 [4] (-)	- [-] (-)			
4年次							/		/			214 [3] (-)	- [-] (-)
計			216 [3] (-)	429 [8] (-)	645 [11] (-)	864 [12] (-)							

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	216 人	3 人	平成28年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学(3人)
平成29年度	429 人	6 人	平成28年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)
			平成29年度	5 人	0 人	他の教育機関への入学(5人)
平成30年度	646 人	7 人	平成28年度	1 人	0 人	一身上の都合(1人)
			平成29年度	1 人	1 人	授業料未納(1人)
			平成30年度	5 人	0 人	死亡(1人)、他の教育機関への入学(2人)、本学転学科(2人)
令和元年度	864 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人	
			平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
合 計		16 人		16 人	1 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(0人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数 (a)}}{\text{平成28年度の在学者数 (b)}} = \frac{3}{216} = \boxed{1.38} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数 (a)}}{\text{平成29年度の在学者数 (b)}} = \frac{6}{429} = \boxed{1.39} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数 (a)}}{\text{平成30年度の在学者数 (b)}} = \frac{7}{646} = \boxed{1.08} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数 (a)}}{\text{令和元年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{864} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工学部 生命・応用化学科>

(1) 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科共通科目	生命・応用化学概論	1前	2			14						
	基礎有機化学Ⅰ	1後	2			1						
	基礎無機化学	1後	2				1					
	固体化学基礎	1後	2			2						
生命・物質化学	物理化学	2前	2				1					1
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2			1						
	分析化学	2前	2				1					
	無機化学	2前	2			1						
	基礎化学工学	2前	2			1						
	高分子化学	2前	2			1						
	生化学	2前	2				2					
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2				1					
	高分子物理化学Ⅰ	2前	2									1
	高分子物理化学Ⅱ	2前	2			1						
基礎科目	高分子科学Ⅰ	2前	2					1				
	高分子材料物性Ⅰ	2前	2					1				
	高分子合成化学Ⅰ	2前	2			1						
	有機合成化学Ⅰ	2後	2				1					
	高分子合成化学Ⅱ	2後	2				1					1
	高分子科学Ⅱ	2後	2					1				
	高分子材料物性Ⅱ	2後	2									1
	固体熱科学Ⅰ	2前	2			1						
	量子科学基礎	2前	2				1					
	物質科学Ⅰ	2前	2			1						
環境セラミックス	無機・有機ハイブリッド化学Ⅰ	2前	2			1						
	無機構造化学Ⅰ	2前	2			1						
	アモルファス構造化学	2前	2									1
	固体熱科学Ⅱ	2後	2				1					
	材料組織構造化学	2後	2									1
	無機構造化学Ⅱ	2後	2				1					
	物質科学Ⅱ	2後	2									1
	構造分子化学	2後	2				1					
	有機化学Ⅰ	2後	2				1					
	分離分析化学	2後	2			1						
生命・物質化学	錯体化学	2後		2				1				
	輸送現象	2後		2			1					
	高分子基礎物性	2後		2		1						
	分子生物学	2後		2			2					
	有機物理化学	3前		2			1					
	有機化学Ⅱ	3前		2			1					
	分光分析化学	3前		2			1					
	電気化学	3前		2		1	1					
	反応工学	3前		2		1	1					
	生命機能化学Ⅰ	3前		2			1					
	薬科学概論	3前		2			1					
	生命機能化学Ⅱ	3前		2			1					
	量子化学	3後		2			1					
	有機化学Ⅲ	3後		2			1					
	電気分析化学	3後		2			1					
	生物無機化学	3後		2				1				
	分離工学	3後		2		1						
	生物物理化学	3後		2		1						
	有機化学Ⅳ	3後		2		1						
	環境化学	3後		2				3				
機能性高分子化学	3後		2		1							
専門教育科目	高分子材料分析化学	2後	2				1					
	高分子科学Ⅲ	2後	2				1					
	環境調和材料	3前		2			1					
	高分子材料科学	3前		2		1						
	計算機化学	3前		2			1					
	生命現象科学	3前		2			1					
	生体分子化学	3前		2			1					
	有機合成化学Ⅱ	3前	2				1					
	ソフトマテリアル化学Ⅰ	3前	2			5	3					
	生体材料設計	3後		2				1				1
展開科目	機能材料設計	3後		2			1					
	生体模倣工学	3後		2		2						
	生体分子システム	3後		2		1						
	生体物質特性評価	3後		2			1					
	ソフトマテリアル化学Ⅱ	3後	2			5	3					
	無機・有機ハイブリッド化学Ⅱ	2後	2				1					
	計算科学基礎	2後	2					1				
	セラミックス材料強度学	3前	2				1					
	機能性ハイブリッド材料	3前		2			1					
	固体イオニクス	3前	2				1					
環境セラミックス	固体反応速度学	3前	2				1					
	セラミックス構造評価学	3前		2			1					
	セラミックスナノ構造設計	3後		2			1					
	エネルギー創成セラミックス	3後		2		1	1					
	高温極限環境セラミックス	3後		2			1					
	環境調和セラミックス	3後		2		1						1
	生体セラミックス材料	3後		2			1					1
	電子セラミックス応用	3後		2								1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科共通科目	生命・応用化学概論	1前	2						12	2		
	基礎有機化学Ⅰ	1後	2						1			
	基礎無機化学	1後	2						1	1		
	固体化学基礎	1後	2						3			
生命・物質化学	物理化学	2前	2									1
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2					1				
	分析化学	2前	2							1		
	無機化学	2前	2					1		1		
	基礎化学工学	2前	2					1		1		
	高分子化学	2前	2					1				
	生化学	2前	2					1		1		
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2							1		
	高分子物理化学Ⅰ	2前	2					1				1
	高分子物理化学Ⅱ	2前	2							1		
基礎科目	高分子科学Ⅰ	2前	2									1
	高分子材料物性Ⅰ	2前	2									1
	高分子合成化学Ⅰ	2前	2			1						
	有機合成化学Ⅰ	2後	2						1			
	高分子合成化学Ⅱ	2後	2									1
	高分子科学Ⅱ	2後	2							1		
	高分子材料物性Ⅱ	2後	2									1
	固体熱科学Ⅰ	2前	2					1				
	量子科学基礎	2前	2							1		
	物質科学Ⅰ	2前	2					1				
環境セラミックス	無機・有機ハイブリッド化学Ⅰ	2前	2					1				
	無機構造化学Ⅰ	2前	2					1				
	アモルファス構造化学	2前	2									1
	固体熱科学Ⅱ	2後	2						1			
	材料組織構造化学	2後	2									1
	無機構造化学Ⅱ	2後	2							1		
	物質科学Ⅱ	2後	2							1		1
	構造分子化学	2後	2								1	
	有機化学Ⅰ	2後	2									1
	分離分析化学	2後	2							1		
生命・物質化学	錯体化学	2後		2						1		
	輸送現象	2後		2						1		
	高分子基礎物性	2後		2						1		
	分子生物学	2後		2				2				
	有機物理化学	3前		2				1				
	有機化学Ⅱ	3前		2				1				
	分光分析化学	3前		2					1			
	電気化学	3前		2		1	1					
	反応工学	3前		2		1	1					
	生命機能化学Ⅰ	3前		2					1			
	薬科学概論	3前		2						1		
	生命機能化学Ⅱ	3前		2						1		
	量子化学	3後		2							1	
	有機化学Ⅲ	3後		2						1		
	電気分析化学	3後		2						1		
	生物無機化学	3後		2							1	
	分離工学	3後		2		1						
	生物物理化学	3後		2		1						
	有機化学Ⅳ	3後		2		1						
	環境化学	3後		2						2	1	
機能性高分子化学	3後		2						1			
専門教育科目	高分子材料分析化学	2後	2									
	高分子科学Ⅲ	2後	2							1		
	環境調和材料	3前		2						1		
	高分子材料科学	3前		2							2	
	計算機化学	3前		2				1				
	生命現象科学	3前		2							1	
	生体分子化学	3前		2						1		
	有機合成化学Ⅱ	3前	2								1	

実験・物質化学	物理化学実験	3前	2			2	5		2		1										
	有機化学実験	3前	2			2	2				1										
	分析化学実験	3前	2			1	3			1											
	無機化学実験	3後	2			1	3			2											
	化学工学実験	3後	2			2	1			2											
	高分子化学実験	3後	2			2	2			2											
	生命・物質化学演習Ⅰ	4前		1		9	16			7		3									
	生命・物質化学演習Ⅱ	4後		1		9	16			7		3									
	ソフトマテリアル	ソフトマテリアル化学実験Ⅰ	3前	4				5			1		1								
	ソフトマテリアル化学実験Ⅱ	3後	4				5			1		1									
ソフトマテリアル化学演習Ⅰ	4前		1			5	8					3									
ソフトマテリアル化学演習Ⅱ	4後		1			5	8					3									
セラミックス基礎科学演習	2前		1				1					1									
セラミックス応用学演習Ⅰ	2後	1					3					1									
セラミックス応用学演習Ⅱ	3前		1				3	4				1									
セラミックス応用学実験Ⅰ	3前		3				6	2				2									
セラミックス応用学実験Ⅱ	3前		3				6	2				2									
実践研究セミナー	卒業研究	3後	2				19	32			10										
	卒業研究	4通	8				19	32			10										
小計 (102科目)		-	130	79	0	19	32	0	10	0	8										
フレッシュマンセミナー	異文化理解	1前~2後	2																		
	感性と社会	1前~2後	2																		
	心理学	1前~2後	2																		
	生物と環境	1前~2後	2																		
	対人コミュニケーション論	1前~2後	2																		
	日本文化論	1前~2後	2																		
	人間行動学	1前~2後	2																		
	人間社会ゼミナール	1前~2後	2																		
	アジア・太平洋史	1前~2後	2																		
	科学技術史	1前~2後	2																		
科学思想史	1前~2後	2																			
科学と哲学	1前~2後	2																			
共生社会論	1前~2後	2																			
近現代史	1前~2後	2																			
公共の哲学	1前~2後	2																			
宗教文化論	1前~2後	2																			
経済学	1前~2後	2																			
現代社会論	1前~2後	2																			
現代政治論	1前~2後	2																			
公共政策論	1前~2後	2																			
生涯学習論	1前~2後	2																			
情報社会論	1前~2後	2																			
地域研究Ⅰ	1前~2後	2																			
地域研究Ⅱ	1前~2後	2																			
日本国憲法	1前~2後	2																			
自然科学基礎科目	線形代数Ⅰ	1前	2																		
	線形代数Ⅱ	1後	2																		
	微分積分Ⅰ及び演習	1前	3																		
	微分積分Ⅱ及び演習	1後	3																		
	力学	1前	2																		
	電磁気学	1後	2																		
	物理学実験	2前	2			3	8			5		2									
	基礎化学	1前	2				2														
	化学結合論	1前	2				1	3													
	化学実験	2後	2				1	32			10		6								
地球科学	2前	2										1									
生体機能科学	2後	2				1	3					2									
産業・経営リテラシー	産業論	2後	2				1														
	金融学	3前	2																		
	法工学	3前・後	2				1														
	知的財産権	3前・後	2																		
	マーケティング	3前・後	2																		
	経営戦略	3前・後	2																		
	政策科学	3前・後	2																		
	会計学	3前・後	2																		
	工学倫理	3前・後	2																		
	管理工学	3後	2																		
産業社会	労働者管理基礎論	2後	2																		
	ものづくりとデザイン	2後	2																		
	コミュニティと技術	2後・3前	2																		
	男女共同参画社会論	2後・3前	2																		
	企業経営	2後・3前	2																		
	食糧工学	3前	2																		
	キャリアデザイン	3前	2				2														
	キャリアデザイン	3前	2				1														
	グローバルコミュニケーション	Academic English I	1前	2																	
		Academic English II	1後	2																	
English Seminar I		1前	1																		
English Seminar II		1後	1																		
Academic English III		2前	2																		
Academic English IV		2後	2																		
Global English I		3前	1																		
Global English II		3後	1																		
健康		体育実技Ⅰ	1前	1					2												

実験・物質化学	物理化学実験	3前	2			2	3													
	有機化学実験	3前	2			2	2													
	分析化学実験	3前	2			1	3			1										
	無機化学実験	3後	2			1	3			2										
	化学工学実験	3後	2			2	1			2										
	高分子化学実験	3後	2			2	2			2										
	生命・物質化学演習Ⅰ	4前		1		9	16			7		3								
	生命・物質化学演習Ⅱ	4後		1		9	16			7		3								
	ソフトマテリアル	ソフトマテリアル化学実験Ⅰ	3前	4				5			1		5							
	ソフトマテリアル化学実験Ⅱ	3後	4				5			1		5								
ソフトマテリアル化学演習Ⅰ	4前		1			5	8					3								
ソフトマテリアル化学演習Ⅱ	4後		1			5	8					3								
セラミックス基礎科学演習	2前		1				1					1								
セラミックス応用学演習Ⅰ	2後	1					3					1	1							
セラミックス応用学演習Ⅱ	3前		1				3	4				6	2							
セラミックス応用学実験Ⅰ	3前		3				6	2				2	4							
セラミックス応用学実験Ⅱ	3前		3																	

運動科学	体育実技Ⅱ	1後	1			2				4	
	健康運動科学演習A	1前	1		3	2		1		8	
	健康運動科学演習B	1後	1		2	3				2	
	専門基礎科学Ⅰ	1前	2							1	
留學生科目	専門基礎科学Ⅱ	1後		2						1	
	日本語表現法	1前		2						1	
	日本語日本文化	1前		2						1	
	日本語日本社会	1後		2						1	
小計(72科目)			31	107	0	15	32	0	10	0	##
合計(174科目)			161	186	0	19	32	0	10	0	##
卒業要件及び履修方法											
(卒業要件) 次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。 ○共通科目 以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。 人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上 自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上 産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上 グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上 健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上 ○専門教育科目 以下の要件を満たす74単位以上を学科の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。 学科共通科目 すべての必修科目 基盤科目 選択したコースのすべての必修科目 展開科目 選択したコースのすべての必修科目 実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目 実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位											
ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学科の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)											
(履修方法) 入学後、共通科目の履修と共に学科共通科目を学ばせ、2年開始時までには分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。											

運動科学	体育実技Ⅱ	1後	1			1	1				3
	健康運動科学演習A	1前	1		2	3			2		8
	健康運動科学演習B	1後	1		2	3					3
	専門基礎科学Ⅰ	1前	2								1
留學生科目	専門基礎科学Ⅱ	1後		2							1
	日本語表現法	1前		2							1
	日本語日本文化	1前		2							1
	日本語日本社会	1後		2							1
小計(75科目)			31	113	0	20	27	0	13	0	##
合計(177科目)			161	192	0	32	27	0	13	0	##
卒業要件及び履修方法											
(卒業要件) 次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。 ○共通科目 以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。 人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上 自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上 産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上 グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上 健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上 ○専門教育科目 以下の要件を満たす74単位以上を学科の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。 学科共通科目 すべての必修科目 基盤科目 選択したコースのすべての必修科目 展開科目 選択したコースのすべての必修科目 実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目 実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位											
ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学科の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)											
(履修方法) 入学後、共通科目の履修と共に学科共通科目を学ばせ、2年開始時までには分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科共通科目	生命・応用化学概論	1前	2			14						
	基礎有機化学Ⅰ	1後	2			1						
	基礎無機化学	1後	2				1					
	固体化学基礎	1後	2			2						
生命・物質化学	物理化学	2前	2				1					1
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2				1					
	分析化学	2前	2				1					
	無機化学	2前	2			1						
	基礎化学工学	2前	2			1						
	高分子化学	2前	2			1						
	生化学	2前	2				2					
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2			1						
	高分子物理化学Ⅰ	2前	2									1
	高分子物理化学Ⅱ	2前	2			1						
基礎科目	高分子科学Ⅰ	2前	2				1					
	高分子材料物性Ⅰ	2前	2				1					
	高分子合成化学Ⅰ	2前	2			1						
	有機合成化学Ⅰ	2後	2			1						
	高分子合成化学Ⅱ	2後	2			1						1
	高分子科学Ⅱ	2後	2			1						
	高分子材料物性Ⅱ	2後	2									1
	固体熱科学Ⅰ	2前	2			1						
	量子科学基礎	2前	2				1					
	物質科学Ⅰ	2前	2			1						
環境セラミックス	無機・有機ハイブリッド化学Ⅰ	2前	2			1						
	無機構造化学Ⅰ	2前	2			1						
	アモルファス構造化学	2前	2									1
	固体熱科学Ⅱ	2後	2				1					
	材料組織構造化学	2後	2									1
	無機構造化学Ⅱ	2後	2			1						
	物質科学Ⅱ	2後	2									1
	構造分子化学	2後	2				1					
	有機化学Ⅰ	2後	2				1					
	分離分析化学	2後	2			1						
専門教育科目	錯体化学	2後	2	2			1					
	輸送現象	2後	2			1						
	高分子基礎物性	2後	2			1						
	分子生物学	2後	2				2					
	有機物理化学	3前	2	2			1					
	有機化学Ⅱ	3前	2			1						
	分光分析化学	3前	2			1						
	電気化学	3前	2			1						
	反応工学	3前	2			1						
	生命機能化学Ⅰ	3前	2			2						
	薬科学概論	3前	2			1						3
	生命機能化学Ⅱ	3前	2			1						
	量子化学	3後	2			1						
	有機化学Ⅲ	3後	2			1						
	電気分析化学	3後	2			1						
	生物無機化学	3後	2			1						
	分離工学	3後	2			1						
	生物物理化学	3後	2			1						
	有機化学Ⅳ	3後	2			1						
	環境化学	3後	2				3					
機能性高分子化学	3後	2			1							
展開科目	高分子材料分析化学	2後	2				1					
	高分子科学Ⅲ	2後	2				1					1
	環境調和材料	3前	2	2			1					
	高分子材料科学	3前	2			1						
	計算機化学	3前	2			1						
	生命現象科学	3前	2			1						
	生体分子化学	3前	2			1						
	有機合成化学Ⅱ	3前	2			1						
	ソフトマテリアル化学Ⅰ	3前	2			5	3					
	生体材料設計	3後	2									1
環境セラミックス	機能材料設計	3後	2			1						
	生体模倣工学	3後	2			2						
	生体分子システム	3後	2			1						
	生体物質特性評価	3後	2			1						
	ソフトマテリアル化学Ⅱ	3後	2			5	3					
	無機・有機ハイブリッド化学Ⅱ	2後	2			1						
	計算科学基礎	2後	2			1						
	セラミックス材料強度学	3前	2				1					
	機能性ハイブリッド材料	3前	2	2			1					
	固体イオニクス	3前	2			1						
環境セラミックス	3後	2			1						1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科共通科目	生命・応用化学概論	1前	2					12	2			
	基礎有機化学Ⅰ	1後	2				1					
	基礎無機化学	1後	2					1				
	固体化学基礎	1後	2			2						
生命・物質化学	物理化学	2前	2						1			1
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2				1					
	分析化学	2前	2				1					
	無機化学	2前	2			1						
	基礎化学工学	2前	2			1			1			
	高分子化学	2前	2			1						
	生化学	2前	2				1	1				
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2			1						
	高分子物理化学Ⅰ	2前	2					1				1
	高分子物理化学Ⅱ	2前	2			1						
基礎科目	高分子科学Ⅰ	2前	2				1					
	高分子材料物性Ⅰ	2前	2				1					
	高分子合成化学Ⅰ	2前	2			1						
	有機合成化学Ⅰ	2後	2			1						
	高分子合成化学Ⅱ	2後	2			1						1
	高分子科学Ⅱ	2後	2			1						
	高分子材料物性Ⅱ	2後	2									1
	固体熱科学Ⅰ	2前	2			1						
	量子科学基礎	2前	2				1					
	物質科学Ⅰ	2前	2			1						
環境セラミックス	無機・有機ハイブリッド化学Ⅰ	2前	2			1						
	無機構造化学Ⅰ	2前	2			1						
	アモルファス構造化学	2前	2									1
	固体熱科学Ⅱ	2後	2				1					
	材料組織構造化学	2後	2									1
	無機構造化学Ⅱ	2後	2			1						
	物質科学Ⅱ	2後	2									1
	構造分子化学	2後	2				1					
	有機化学Ⅰ	2後	2				1					
	分離分析化学	2後	2			1						
専門教育科目	錯体化学	2後	2						1			
	輸送現象	2後	2			1						
	高分子基礎物性	2後	2			1						
	分子生物学	2後	2				2			1		
	有機物理化学	3前	2	2			1					
	有機化学Ⅱ	3前	2			1						
	分光分析化学	3前	2			1						
	電気化学	3前	2			1						
	反応工学	3前	2			1						
	生命機能化学Ⅰ	3前	2			2						
	薬科学概論	3前	2			1						3
	生命機能化学Ⅱ	3前	2			1						
	量子化学	3後	2			1						
	有機化学Ⅲ	3後	2			1						
	電気分析化学	3後	2			1				1		
	生物無機化学	3後	2			1						
	分離工学	3後	2			1						
	生物物理化学	3後	2			1						
	有機化学Ⅳ	3後	2			1						
	環境化学	3後	2				3			1		2
機能性高分子化学	3後	2			1							
展開科目	高分子材料分析化学	2後	2				1					
	高分子科学Ⅲ	2後	2				1					1
	環境調和材料	3前	2	2			1					
	高分子材料科学	3前	2			1						
	計算機化学	3前	2			1						
	生命現象科学	3前	2			1						
	生体分子化学	3前	2			1						
	有機合成化学Ⅱ	3前	2			1						
	ソフトマテリアル化学Ⅰ	3前	2			5	3					
	生体材料設計	3後	2									1
環境セラミックス	機能材料設計	3後	2			1						
	生体模倣工学	3後	2			2						
	生体分子システム	3後	2			1						
	生体物質特性評価	3後	2			1						
	ソフトマテリアル化学Ⅱ	3後	2			5	3					
	無機・有機ハイブリッド化学Ⅱ	2後	2			1						
	計算科学基礎	2後	2									

健康運動科学	体育実技Ⅰ	1前	1			2				2	
	体育実技Ⅱ	1後	1			2				4	
	健康運動科学演習A	1前		1		3	2		1	8	
	健康運動科学演習B	1後		1		2	3			2	
留学生科目	専門基礎科学Ⅰ	1前		2						1	
	専門基礎科学Ⅱ	1後		2						1	
	日本語表現法	1前		2						1	
	日本語日本文化	1前		2						1	
人間社会	日本語日本社会	1後		2					1		
小計(74科目)		-	31	111	0	15	32	0	10	0	##
合計(176科目)		-	161	190	0	19	32	0	10	0	##

卒業要件及び履修方法

(卒業要件)
次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。
○共通科目
以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。
人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上
自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上
産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上
グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上
健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上
○専門教育科目
以下の要件を満たす74単位以上を学部の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。
学科共通科目 すべての必修科目
基盤科目 選択したコースのすべての必修科目
展開科目 選択したコースのすべての必修科目
実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目
実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位
ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学部の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)
(履修方法)
入学後、共通科目の履修と共に学科共通科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。

健康運動科学	体育実技Ⅰ	1前	1			1	1				3
	体育実技Ⅱ	1後	1			1	1				3
	健康運動科学演習A	1前		1		2	3		1	7	
	健康運動科学演習B	1後		1		2	3			3	
留学生科目	専門基礎科学Ⅰ	1前		2						1	
	専門基礎科学Ⅱ	1後		2						1	
	日本語表現法	1前		2						1	
	日本語日本文化	1前		2						1	
人間社会	日本語日本社会	1後		2					1		
小計(74科目)		-	31	111	0	19	32	0	14		##
合計(176科目)		-	161	190	0	26	32	0	14		##

卒業要件及び履修方法

(卒業要件)
次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。
○共通科目
以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。
人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上
自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上
産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上
グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上
健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上
○専門教育科目
以下の要件を満たす74単位以上を学部の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。
学科共通科目 すべての必修科目
基盤科目 選択したコースのすべての必修科目
展開科目 選択したコースのすべての必修科目
実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目
実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位
ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学部の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)
(履修方法)
入学後、共通科目の履修と共に学科共通科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科共通科目	生命・応用化学概論	1前	2			12	2					
	基礎有機化学Ⅰ	1後	2			1						
	基礎無機化学	1後	2				2					
	固体化学基礎	1後	2			3						
生命・物質化学	物理化学	2前	2									2
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2			1						
	分析化学	2前	2				1					
	無機化学	2前	2			1	1					
	基礎化学工学	2前	2			1	1					
	高分子化学	2前	2			1						
	生化学	2前	2			1	1					
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2				1					
基礎科目	高分子物理化学Ⅰ	2前	2			1						1
	高分子物理化学Ⅱ	2前	2				1					
	高分子科学Ⅰ	2前	2				1					
	高分子材料物性Ⅰ	2前	2				1					
	高分子合成化学Ⅰ	2前	2			1						
	有機合成化学Ⅰ	2後	2				1					
	高分子合成化学Ⅱ	2後	2									1
	高分子科学Ⅱ	2後	2				1					
環境セラミックス	固体熱科学Ⅰ	2前	2			1						
	量子科学基礎	2前	2				1					
	物質科学Ⅰ	2前	2			1						
	無機・有機ハイブリッド化学Ⅰ	2前	2			1						
	無機構造化学Ⅰ	2前	2			1						
	アモルファス構造化学	2前	2									1
	固体熱科学Ⅱ	2後	2			1						
	材料組織構造化学	2後	2									1
生命・物質化学	無機構造化学Ⅱ	2後	2				1					
	物質科学Ⅱ	2後	2				1					1
	構造分子化学	2後	2				1					
	有機化学Ⅰ	2後	2			1						
	分離分析化学	2後	2			1						
	錯体化学	2後	2	2			1					
	輸送現象	2後	2	2			1					
	高分子基礎物性	2後	2			1						
分子生物学	2後	2			1	1						
生命・物質化学	有機物理化学	3前	2			1						
	有機化学Ⅱ	3前	2				1					
	分光分析化学	3前	2				1					
	電気化学	3前	2			1	1					
	反応工学	3前	2				1					
	生命機能化学Ⅰ	3前	2			1						
	薬科学概論	3前	2				1					3
	生命機能化学Ⅱ	3前	2				1					
	量子化学	3後	2				1					
	有機化学Ⅲ	3後	2			1						
	電気分析化学	3後	2			1						
	生物無機化学	3後	2				1					
	分離工学	3後	2			1						
	生物物理化学	3後	2			1						
	有機化学Ⅳ	3後	2			1						
	環境化学	3後	2			1	2					
機能性高分子化学	3後	2			1							
展開科目	高分子材料分析化学	2後	2				1					
	高分子科学Ⅲ	2後	2			1						1
	環境調和材料	3前	2	2		1						
	高分子材料科学	3前	2	2			2					
	計算機化学	3前	2	2		1						
	生命現象科学	3前	2	2			1					
	生体分子化学	3前	2	2		1						
	有機合成化学Ⅱ	3前	2	2			1					
	ソフトマテリアル化学Ⅰ	3前	2	2			1					1
	生体材料設計	3後	2	2								1
	機能材料設計	3後	2	2		1	1					
	生体模倣工学	3後	2	2		1	1					
環境セラミックス	生体分子システム	3後	2	2		2						
	生体物質特性評価	3後	2	2		1						
	ソフトマテリアル化学Ⅱ	3後	2	2		2	1					
	無機・有機ハイブリッド化学Ⅱ	2後	2	2			1					
	計算科学基礎	2後	2	2		1						
	セラミックス材料強度学	3前	2	2			1					
	機能性ハイブリッド材料	3前	2	2		1						
	固体イオニクス	3前	2	2		1						
	固体反応速度学	3前	2	2			1					
	セラミックス構造評価学	3後	2	2		1						
	セラミックスナノ構造設計	3後	2	2		1						
	エネルギー創成セラミックス	3後	2	2		1	1					
高温極環境セラミックス	3後	2	2		1							
環境調和セラミックス	3後	2	2		1						1	
生体セラミックス材料	3後	2	2			1					1	
電子セラミックス応用	3後	2	2								1	
生命・物質化学	物理化学実験	3前	2			2	2			1		2
	有機化学実験	3前	2			3	1			2		1
	分析化学実験	3前	2			2	2			2		
	無機化学実験	3後	2			1	4			1		
	化学工学実験	3後	2			2	2			1		
	高分子化学実験	3後	2			3	1			1		
	生命・物質化学演習Ⅰ	4前	1			14	14			8		3

取 ・ 演 習 科 目	生命・物質化学演習Ⅱ	4後		1		14	14		8		3	
	ソフトマテリアル化学実験Ⅰ	3前	4			1	5				1	
	ソフトマテリアル化学実験Ⅱ	3後	4			1	5				1	
	ソフトマテリアル化学演習Ⅰ	4前		1		7	9		3		3	
	ソフトマテリアル化学演習Ⅱ	4後		1		7	9		3		3	
	セラミックス基礎科学演習	2前		1		1						
	セラミックス応用学演習Ⅰ	2後	1			1	1					
	セラミックス応用学演習Ⅱ	3前		1		5	2					
	セラミックス応用学実験Ⅰ	3前		3		2	4		2		1	
	セラミックス応用学実験Ⅱ	3前		3		2	4		2		1	
実践研究セミナー	3後	2			30	28		14				
卒業研究	4通	8			30	28		14				
小計（102科目）		-	130	79		30	28	0	14	0	8	
取 ・ 演 習 科 目	フレッシュマンセミナー	1前	2			1	4				3	
	技術と人間・心理	異文化理解	1前～2後	2								2
		感性と社会	1前～2後	2								1
		心理学	1前～2後	2								1
		生物と環境	1前～2後	2								2
		対人コミュニケーション論	1前～2後	2								1
		日本文化論	1前～2後	2								1
		人間行動学	1前～2後	2								2
		人間社会ゼミナール	1前～2後	2								1
	技術と歴史・哲学	アジア・太平洋史	1前～2後	2								2
科学技術史		1前～2後	2								1	
科学思想史		1前～2後	2								1	
科学と哲学		1前～2後	2								1	
共生社会論		1前～2後	2								2	
近現代史		1前～2後	2								1	
公共の哲学		1前～2後	2								1	
技術と社会・国際	宗教文化論	1前～2後	2								1	
	経済学	1前～2後	2								1	
	現代社会論	1前～2後	2								1	
	現代政治論	1前～2後	2								1	
	公共政策論	1前～2後	2								1	
	生涯学習論	1前～2後	2								1	
	情報社会論	1前～2後	2								2	
自然科学基礎科目	地域研究Ⅰ	1前～2後	2								3	
	地域研究Ⅱ	1前～2後	2								3	
	日本国憲法	1前～2後	2								1	
	線形代数Ⅰ	1前	2								4	
	線形代数Ⅱ	1後	2								4	
	微分積分Ⅰ及び演習	1前	3								4	
	微分積分Ⅱ及び演習	1後	3								4	
力学	1前	2				1				2		
電磁気学	1後	2	2							2		
物理学実験	2前	2			4	9		5		3		
基礎化学	1前	2				2						
化学総合論	1前	2			1					1		
化学実験	2後	2			1	27		14		6		
地球科学	2前	2	2							1		
生体機能科学	2後	2	2		1	2				3		
取 ・ 演 習 科 目	産業論	2後	2			2	3				1	
	経営リテラシー	金融学	3前	2								1
		法工学	3前・後	2			1					8
		知的財産権	3前・後	2								2
		マーケティング	3前・後	2								3
		経営戦略	3前・後	2								2
		政策科学	3前・後	2								3
		会計学	3前・後	2								1
		工学倫理	3前・後	2								2
		管理工学	3前・後	2								17
産業社会	労働者管理基礎論	3前	2								1	
	ものづくりとデザイン	2後	2								20	
	自治体行政	2後	2								1	
	コミュニティと技術	2後・3前	2								12	
	男女共同参画社会論	2後・3前	2								2	
	企業経営	2後・3前	2								1	
	キャリア・コミュニケーション論	2後・3前	2								1	
食糧工学	3前	2			1					4		
キャリアデザイン	3前	2			1							
取 ・ 演 習 科 目	グローバルコミュニケーション	Academic English I	1前	2							14	
		Academic English II	1後	2							14	
		English Seminar I	1前	1							14	
		English Seminar II	1後	1							14	
		Academic English III	2前	2							14	
		Academic English IV	2後	2	2						8	
		Global English I	3前	1							2	
		Global English II	3後	1							1	
取 ・ 演 習 科 目	健康運動科学	体育実技Ⅰ	1前	1			1				4	
		体育実技Ⅱ	1後	1			2				3	
		健康運動科学演習A	1前	1			2	2		2	8	
		健康運動科学演習B	1後	1			2	2			3	
取 ・ 演 習 科 目	留学生科目	専門基礎科学Ⅰ	1前	2							1	
		専門基礎科学Ⅱ	1後	2							1	
		日本語表現法	1前	2								1
		日本語日本文化	1前	2								1

会	日本語日本社会	1後		2							1
	小計 (74科目)	-	31	111		15	28	0	14	0	##
	合計 (176科目)	-	161	190		30	28	0	14	0	##

卒業要件及び履修方法

<p>(卒業要件) 次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。</p> <p>○共通科目 以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。 人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上 自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上 産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上 グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上 健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上</p> <p>○専門教育科目 以下の要件を満たす74単位以上を学部の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。 学科共通科目 すべての必修科目 基盤科目 選択したコースのすべての必修科目 展開科目 選択したコースのすべての必修科目 実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目 実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位</p> <p>ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学部の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)</p> <p>(履修方法) 入学後、共通科目の履修と共に学科共通科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。</p>											
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成28年度】

- ・履修機会の拡充のため、「管理工学」の配当年次を「3後」から「3前・後」に変更。
- ・開講年次の適正化のため、「労働者管理基礎論」の配当年次を「2後」から「3前」に変更。
- ・教育課程の充実のため、「自治体行政」「キャリア・コミュニケーション論」を追加。

【平成29年度】

- ・担当教員の見直しのため、「生命・応用化学概論」「生化学」「基礎化学工学」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

【平成30年度】

- ・担当教員の見直しのため、「基礎無機化学」「物理化学」「無機化学」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

【令和元年度】

- ・教育課程の充実のため、「価値創造論」を追加。
- ・担当教員の見直しのため、「基礎無機化学」「物理化学」「有機化学Ⅰ」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
77	97	0	174	77	100	0	177	
科目	科目	科目	科目	[0]	[3]	[0]	[3]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{174} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体		
	校舎敷地	159,206㎡	0㎡	0㎡	159,206㎡			
	運動場用地	44,982㎡	0㎡	0㎡	44,982㎡			
	小 計	204,188㎡	0㎡	0㎡	204,188㎡			
	そ の 他	14,182㎡	0㎡	0㎡	14,182㎡			
	合 計	218,370㎡	0㎡	0㎡	218,370㎡			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
		128,980㎡ (128,980㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	128,980㎡ (128,980㎡)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体	
		56室	170室	181室	7室 (補助職員 7人)	6室 (補助職員 3人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		人事異動等に伴い、研究室を整理したため。 (元)	
		工学部 生命・応用化学科			321 348 室			
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械・器 具	標 本	大学全体
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル				
		冊	種	[うち外国書]	点	点	点	
		工学部	461,783 [205,740] (461,783 [205,740])	12,933 [10,409] (12,933 [10,409])	7,343 [7,242] (7,343 [7,242])	1,311 (1,311)	0 (0)	
計	461,783 [205,740] 461,783 [205,740]	12,933 [10,409] (12,933 [10,409])	7,343 [7,242] (7,343 [7,242])	1,311 (1,311)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数			
		5,595㎡		472	528,000			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		2,479㎡		グラウンド、テニスコート、プール、弓道場、馬場、ボート艇庫、ヨット艇庫				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋工業大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
【工学部】 (第一部)						1.04				
生命・応用化学科	4	210	3年次 2	844	学士(工学) 学士(学術)	1.03	-	平成28	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
物理工学科	4	105	3年次 2	424	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
電気・機械工学科	4	200	3年次 2	804	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
情報工学科	4	145	3年次 2	584	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
社会工学科	4	150	3年次 2	604	学士(工学) 学士(学術)	1.06	-	平成28	同上	
創造工学教育課程	4	100	-	400	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
生命・物質工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
環境材料工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
機械工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
電気電子工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
建築・デザイン工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
都市社会工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
(開設年度H16共通)			-	-						平成30年より 学生募集停止
(第二部)						1.15				
物質工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.16	-			
機械工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-			
電気情報工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.24	-			
社会開発工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.16	-			

【工学研究科】										
(博士前期課程)										
生命・応用化学専攻	2	165	-	330	修士(工学) 修士(学術)	1.11	-	平成28	愛知県名古屋 昭和区御器所町	
物理学専攻	2	78	-	156	修士(工学) 修士(学術)	1.06	-	平成28	同上	
電気・機械工学専攻	2	138	-	276	修士(工学) 修士(学術)	1.56	-	平成28	同上	
情報工学専攻	2	110	-	220	修士(工学) 修士(学術)	1.21	-	平成28	同上	
社会工学専攻	2	95	-	180	修士(工学) 修士(学術)	1.25	-	平成28	同上	
物質工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
機能工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
社会工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
未来材料創成工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
創成シミュレーション工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
(博士後期課程)										
生命・応用化学専攻	3	9	-	27	博士(工学) 博士(学術)	1.10	-	平成28	愛知県名古屋 昭和区御器所町	
物理学専攻	3	5	-	15	博士(工学) 博士(学術)	1.20	-	平成28	同上	
電気・機械工学専攻	3	9	-	27	博士(工学) 博士(学術)	1.10	-	平成28	同上	
情報工学専攻	3	7	-	21	博士(工学) 博士(学術)	0.66	-	平成28	同上	
社会工学専攻	3	7	-	21	博士(工学) 博士(学術)	1.51	-	平成28	同上	
共同ナノメーション科学専攻	3	3	-	9	博士 (ナノメーション科 学)	0.99	-	平成25	同上	
名古屋工業大学・ウーロンゴン大 学国際連携情報学専攻	3	2	-	6	博士(学術)	0.33	-	平成29	同上	
物質工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
機能工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
社会工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
未来材料創成工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
創成シミュレーション工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

【前期(2023年度)】				【前期(2023年度)】				【前期(2023年度)】				【前期(2023年度)】			
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	
岡本 英二	小坂 卓	青木 隆	岡田 信	岡本 英二	小坂 卓	青木 隆	岡田 信	岡本 英二	小坂 卓	青木 隆	岡田 信	岡本 英二	小坂 卓	青木 隆	
平定28年4月	平定28年4月	平定28年4月	平定28年4月	平定28年4月	平定28年4月	平定28年4月	平定28年4月	平定28年4月	平定28年4月	平定28年4月	平定28年4月	平定28年4月	平定28年4月	平定28年4月	
博士(情報学)	博士(工学)	博士(工学)	博士(工学)	博士(情報学)	博士(工学)	博士(工学)	博士(工学)	博士(情報学)	博士(工学)	博士(工学)	博士(工学)	博士(情報学)	博士(工学)	博士(工学)	
情報理論	電気回路論	電気回路論	電気回路論	情報理論	電気回路論	電気回路論	電気回路論	情報理論	電気回路論	電気回路論	電気回路論	情報理論	電気回路論	電気回路論	
...	

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成28年度】

特になし。

【平成29年度】

- ・中西英二教授退職に伴い、「高分子材料科学」について築地真也教授に変更。
- ・尾崎芳昭准教授退職に伴い、「物理化学」について井上圭一准教授に、「物理化学実験」について猪股智彦准教授に変更。
- ・岩田達也助教退職に伴い、「物理化学実験」について近藤政晴助教に、「物理学実験」について高柳真司助教に変更。
- ・五味學教授退職に伴い、「固体化学基礎」について早川知克教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

【平成30年度】

- ・仁科健教授退職に伴い、「金融学」について川村大伸准教授に、「法工学」について渡辺研司教授に、「マーケティング」について藤田素弘教授に、「管理工学」について川村大伸准教授に変更。
- ・永淵康之教授退職に伴い、「人間社会ゼミナール」について川橋範子教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

【令和元年度】

- ・森万也香助教退職に伴い、「化学実験」について古谷祐詞准教授に変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
19	32	0	10	61	32	27	0	13	72
(29)	(36)	(0)	(12)	(77)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
32	27	0	13	72	32	27	0	13	72
[13]	[Δ5]	[0]	[3]	[11]	[13]	[Δ5]	[0]	[3]	[11]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
63	4	4
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{72}{61} = \boxed{118.03} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{4}{72} = \boxed{5.55} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1		該当なし					
2							
合計 (D)			後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1		該当なし					
2							
合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)								
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)			②の合計数 (b)			③の合計数 (c)		
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - \text{③合計(D)+(F)}}{(2) - \text{②設置時の計画(A)}} = \frac{0}{61} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	大桑 哲男	選択	健康運動科学演習A	①	退職のため(29)			
			選択	健康運動科学演習B	①				
2	教授	中西 英二	選択	健康運動科学演習A	②	退職のため(29)			
			選択	高分子材料科学	①				
3	教授	多田 豊	選択	食糧工学	②	退職のため(29)			
4	准教授	尾崎 芳昭	必修	物理化学	①	退職のため(29)			
			必修	物理化学実験	①				
5	助教	岩田 達也	必修	物理化学実験	①	退職のため(29)			
			選択	生命・物質化学演習 I	①				
			選択	生命・物質化学演習 II	①				
			必修	実践研究セミナー	①				
			必修	卒業研究	①				
			必修	物理学実験	①				
			必修	化学実験	①				
6	教授	五味 學	必修	固体化学基礎	①	退職のため(29)			
7	教授	多賀 圭次郎	必修	物理化学実験	③	退職のため(30)			
8	准教授	井上 圭一	必修	物理化学	②	退職のため(30)			
			必修	物理化学実験	③				
			選択	生命・物質化学演習 I	③				
			選択	生命・物質化学演習 II	③				
			必修	実践研究セミナー	①				
			必修	卒業研究	①				
			必修	物理学実験	③				
			必修	化学結合論	②				
9	助教	森 万也香	必修	化学実験	①	退職のため(令和元年)			
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
9	人	必修	17 科目	必修	11 科目	必修	2 科目	必修	4 科目
		選択	9 科目	選択	5 科目	選択	2 科目	選択	2 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	26 科目	計	16 科目	計	4 科目	計	6 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員辞任等による学生の履修等への重大な影響は認められない。
 各授業における担当教員情報についてはシラバスや授業時間割表にて周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (28年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (30年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (31年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工学部 生命・応用化学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	1～6の項目に記入した事項以外の変更なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>工学教育総合センターの創造教育開発オフィスにおいて、工学教育の質的向上に資することを目的として、ファカルティ・ディベロップメントの推進及び授業評価を行う教育機能開発部門を設置している。また全学的な視点からファカルティ・ディベロップメント活動の推進を図ることを目的として、平成29年11月1日</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>工学教育総合センター会議を3回、ファカルティ・ディベロップメント委員会を1回、ファカルティ・ディベロップメント委員会専門部会を1回実施した。（約40名の教員が参加）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>全学のFDに関する基本方針の策定及び活動の総括、企画・立案・実施及び評価の総括等。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 大学院共通科目のあり方について・ 高等学校新課程「物理」・「英語」の現状について・ 理工系の授業を英語でおこなうための実務とポイント・ アクティブラーニングを推進する学習活動の「見てます化」
--

・ 工学系人材育成のためのアクティブラーニング

b 実施方法

チラシを作成し事前アナウンスを行い、時に学外講師を招いて実施している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

平成30年度は「a 実施内容」の通り開催し、参加人数はそれぞれ、41名、30名、20名、15名、30名であった。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

各教員において、授業改善に取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期末及び後期末において実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

一般的な集計結果についてはHPにて公開し、授業科目ごとの詳細結果については個別に学内の授業評価システムにて公開している。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

現状把握と分析を行いつつ、全学評価室を中心に評価する予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成31年4月 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (有 無)

b 公表有の場合の公表（予定）時期 (令和元年6月28日)

b 公表無の場合の特段の理由 ()

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋工業大学

(2) 大学名

名古屋工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒466-8555
愛知県名古屋市昭和区御器所町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(カイヒロキ) 鵜飼 裕之 (平成26年4月)	—	—
学部長	—	—	—
学科長等	ニシ ヨウイチ 西野 洋一 (平成28年4月)	ヒナラニキコカクタシユウジ 目原一岳彦 尾形 修司 (平成30年4月平成31年4月)	平成30年3月31日 任期満了 平成30年4月1日 就任(30) 平成31年3月31日 任期満了 平成31年4月1日 就任(元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
工学部 物理工学科 学士(工学) 学士(学術)	工学関係	4年	105人	3年次 2人	424人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	105 (-) [-]	-	105 (-) [-]	-	105 (2) [-]	-	105 (2) [-]	-	1.04倍		
志願者数	530 (-) [3]	-	397 (-) [5]	-	573 (6) [7]	-	504 (5) [21]	-			
受験者数	408 (-) [2]	-	284 (-) [5]	-	403 (6) [7]	-	361 (5) [16]	-			
合格者数	119 (-) [1]	-	124 (-) [2]	-	121 (4) [4]	-	119 (3) [5]	-			
B 入学者数	110 (-) [0]	-	112 (-) [0]	-	109 (0) [3]	-	109 (0) [3]	-			
入学定員超過率 B/A	1.04		1.06		1.03		1.03				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度				備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
1年次	110 [-] (-)	- [-] (-)	112 [-] (-)	- [-] (-)	109 [3] (-)	- [-] (-)	109 [3] (-)	[] [] (-)	[] [] ()	[] [] ()	
2年次	/		110 [-] (-)	- [-] (-)	108 [-] (-)	- [-] (-)	109 [3] (-)	[] [] (-)	[] [] ()	[] [] ()	
3年次			/		/		109 [-] (-)	- [-] (-)	108 [0] (-)	[] [] (-)	[] [] ()
4年次	/						/		/		109 [0] (-)
計			110 [-] (-)		222 [-] (-)						326 [3] (-)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	110 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
平成29年度	222 人	5 人	平成28年度	1 人	0 人	授業料未納(1人)
			平成29年度	4 人	0 人	他の教育機関への入学(4人)
平成30年度	326 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	435 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人	
			平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
合 計		5 人		5 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{110} = \boxed{0} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{222} = \boxed{2.25} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{326} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{435} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工学部 物理工学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					※1 単位 評価		
			必修	選択	自由	教	授	准教授	講師	助教	助手			
学 科 共 通 科 目	物理学序論	1前	2			4	4							
	材料物性基礎	1後	2			2	2	1						
	物理現象と微分方程式	1後	2			2	2					1		
	物理・材料数学Ⅰ	1後	2			2	2	1				1		
	材 料 機 能	熱力学	2前	2			1							
		解析力学	2前	2	2		1							
		回折結晶学	2前	2									1	
		材料物理学	2前	2			1							
		物理・材料数学Ⅱ	2前	2			2							
		量子力学Ⅰ	2前	2				1						
		移動速度論	2後	2				1						
		材料平衡論	2後	2				1						
		材料組織学	2後	2										1
		力学物性論	2後	2			1	1						
	基 礎 科 目	固体物理Ⅰ	2後	2										1
固体物理Ⅱ		3前	2										1	
量子力学Ⅱ		2後	2	2		1								
熱力学		2前	2				1							
解析力学		2前	2					1						
量子力学Ⅰ		2後	2			1								
固体物理Ⅰ		3前	2			1							1	
固体物理Ⅱ		3後	2										1	
応用電磁気学Ⅰ		2前	2										1	
計測工学Ⅰ		2前	2										1	
専 門 教 育 科 目	材料工学Ⅰ	2前	2				1							
	統計学Ⅰ	2後	2										1	
	連続体力学	2後	2				1							
	量子力学Ⅱ	3前	2			1								
	電気・電子材料	3前	2			1								
	材料強度学	3前	2			1								
	電気化学	3前	2				1						1	
	反応速度論	3前	2				1							
	エネルギー材料	3後	2				1						1	
	熱物性論	3後	2			1								
展 開 科 目	溶解プロセス工学	3後	2										2	
	構造・機械材料	3後	2										2	
	磁性材料	3後	2							1			1	
	応用電磁気学Ⅱ	2後	2	2		1							1	
	物理数学Ⅱ	2後	2			1								
	計測工学Ⅱ	2後	2				1							
	計測工学Ⅲ	3前	2				1							
	シミュレーション工学	3前	2			1							1	
	光学Ⅰ	3前	2										1	
	流体物理Ⅰ	3前	2			1							1	
実 験 ・ 演 習 科 目	光学Ⅱ	3後	2				1						1	
	流体物理Ⅱ	3後	2				1						1	
	流体物理Ⅲ	3後	2							1			1	
	固体物理Ⅲ	3後	2										1	
	量子ナノ計測	3後	2			1							1	
	材料プロセス工学	4前	2			2	1							
	応用光学	4前	2				1						1	
	材料機能工学演習Ⅰ	3前	1				3				4		1	
	材料機能工学演習Ⅱ	3後	1				3				4		1	
	材料機能工学実験Ⅰ	3前	3				3				4		1	
実 験 ・ 演 習 科 目	材料機能工学実験Ⅱ	3後	3				3				4		1	
	材料機能工学セミナー	4通	2			3	3				5		5	
	力学・電磁気学演習	2前	2				2							
	統計熱力学演習	2後	2				2							
	量子力学演習	3前	2				2							
	応用物理学実験Ⅰ	2後	2			2	3				3		1	
	応用物理学実験Ⅱ	3前	2			2	4				3			
	実践研究セミナー	3後	2			8	10				8			
	卒業研究	4通	8			8	10				8			
	小計(62科目)	-	86	44	0	8	10	0	8	0	8	0	16	

【令和元年度】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					※1 単位 評価		
			必修	選択	自由	教	授	准教授	講師	助教	助手			
学 科 共 通 科 目	物理学序論	1前	2			4	4						2	
	材料物性基礎	1後	2			2	2	1						
	物理現象と微分方程式	1後	2			2	2					1		
	物理・材料数学Ⅰ	1後	2			2	2	1				1		
	材 料 機 能	熱力学	2前	2			1							1
		解析力学	2前	2	2		1							
		回折結晶学	2前	2										1
		材料物理学	2前	2			1							
		物理・材料数学Ⅱ	2前	2			2							2
		量子力学Ⅰ	2前	2				1						
		移動速度論	2後	2				1						
		材料平衡論	2後	2				1						
		材料組織学	2後	2										1
		力学物性論	2後	2			1	1						
	基 礎 科 目	固体物理Ⅰ	2後	2										1
固体物理Ⅱ		3前	2										1	
量子力学Ⅱ		2後	2	2		1								
熱力学		2前	2					1						
解析力学		2前	2						1					
量子力学Ⅰ		2後	2			1								
固体物理Ⅰ		3前	2										1	
固体物理Ⅱ		3後	2										1	
応用電磁気学Ⅰ		2前	2							1			1	
計測工学Ⅰ		2前	2								2			
専 門 教 育 科 目	材料工学Ⅰ	2前	2											
	統計学Ⅰ	2後	2										1	
	連続体力学	2後	2				1							
	量子力学Ⅱ	3前	2			1								
	電気・電子材料	3前	2			1								
	材料強度学	3前	2			1								
	電気化学	3前	2				1						1	
	反応速度論	3前	2				1							
	エネルギー材料	3後	2				1						1	
	熱物性論	3後	2			1								
展 開 科 目	溶解プロセス工学	3後	2										2	
	構造・機械材料	3後	2										2	
	磁性材料	3後	2							1			1	
	応用電磁気学Ⅱ	2後	2	2		1							1	
	物理数学Ⅱ	2後	2			1								
	計測工学Ⅱ	2後	2				1							
	計測工学Ⅲ	3前	2				1							
	シミュレーション工学	3前	2			1							1	
	光学Ⅰ	3前	2										1	
	流体物理Ⅰ	3前	2			1							1	
実 験 ・ 演 習 科 目	光学Ⅱ	3後	2				1						1	
	流体物理Ⅱ	3後	2				1						1	
	流体物理Ⅲ	3後	2							1			1	
	固体物理Ⅲ	3後	2										1	
	量子ナノ計測	3後	2			1							1	
	材料プロセス工学	4前	2			2	1							
	応用光学	4前	2				1						1	
	材料機能工学演習Ⅰ	3前	1				3				3		1	
	材料機能工学演習Ⅱ	3後	1				3				3		1	
	材料機能工学実験Ⅰ	3前	3				3				3		1	
実 験 ・ 演 習 科 目	材料機能工学実験Ⅱ	3後	3				3				3		1	
	材料機能工学セミナー	4通	2			3	3				3		5	
	力学・電磁気学演習	2前	2				2							
	統計熱力学演習	2後	2				2							
	量子力学演習	3前	2				2							
	応用物理学実験Ⅰ	2後	2			2	4						2	
	応用物理学実験Ⅱ	3前	2			2	4				3		6	
	実践研究セミナー	3後	2			8	10				10			
	卒業研究	4通	8			8	10				10			
	小計(62科目)	-	86	44	0	10	12	0	10	12	0	10	0	16

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					単位数		
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学 科 共 通 科 目	物理学序論	1前	2				4	4						
	材料物性基礎	1後	2				2	1						
	物理現象と微分方程式	1後	2				2					1		
	物理・材料数学Ⅰ	1後	2				2	1				1		
	材 料 機 能	熱力学	2前	2				1						
		解析力学	2前	2	2			1						
		回折結晶学	2前	2									1	
		材料物理学	2前	2				1						
		物理・材料数学Ⅱ	2前	2				2						
		量子力学Ⅰ	2前	2					1					
		移動速度論	2後	2					1					
		材料平衡論	2後	2					1					
		材料組織学	2後	2						1				1
		力学物性論	2後	2				1	1					
	基 盤 科 目	固体物理Ⅰ	2後	2									1	
固体物理Ⅱ		3前	2									1		
量子力学Ⅱ		3後	2	2			1							
応 用 物 理		熱力学	2前	2					1					
		解析力学	2前	2					1					
		量子力学Ⅰ	2後	2				1						
専 門 教 育 科 目		電気・電子材料	3前		2			1						
	材料強度学	3前		2			1							
	電気化学	3前		2				1						
	反応速度論	3前		2				1						
	エネルギー材料	3後		2				1						
	熱物性論	3後		2				1						
	溶融プロセス工学	3後		2								2		
展 開 科 目	構築・機械材料	3後		2								1		
	磁性材料	3後		2			1					1		
	応用電磁気学Ⅱ	2後		2			1							
	物理数学Ⅱ	2後	2				1							
	計測工学Ⅱ	2後		2				1						
	計測工学Ⅲ	3前		2				1						
	シミュレーション工学	3前	2				1						1	
	光学Ⅰ	3前		2									1	
	流体物理Ⅰ	3前		2			1						1	
	光学Ⅱ	3後		2					1				1	
実 験 ・ 演 習 科 目	流体物理Ⅱ	3後		2			1						1	
	固体物理Ⅲ	3後		2								1		
	量子ナノ計測	3後		2			1						1	
	材料プロセス工学	4前		2			2	1					1	
	応用光学	4前		2			1						1	
	材料機能工学演習Ⅰ	3前	1				3		4			1		
	材料機能工学演習Ⅱ	3後	1				3		4		1			
	材料機能工学実験Ⅰ	3前	3				3		4		1			
	材料機能工学実験Ⅱ	3後	3				3		4		1			
	材料機能工学セミナー	4通				3	3					5		
専 門 教 育 科 目	力学・電磁気学演習	2前	2						2				1	
	統計熱力学演習	2後	2						2				1	
	量子力学演習	3前	2						2				1	
	応用物理学実験Ⅰ	2後	2				2	3		3			2	
	応用物理学実験Ⅱ	3前	2				2	4		3			3	
実践研究セミナー	3後	2				8	10		8					
卒業研究	4通	8				8	10		8					
小計(62科目)			-	86	44	0	8	10	0	8	0	16		

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					単位数		
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学 科 共 通 科 目	物理学序論	1前	2										3	
	材料物性基礎	1後	2						6					
	物理現象と微分方程式	1後	2						2	1			1	
	物理・材料数学Ⅰ	1後	2						2				1	
	材 料 機 能	熱力学	2前	2						1				
		解析力学	2前	2	2					1				
		回折結晶学	2前	2										1
		材料物理学	2前	2						1				
		物理・材料数学Ⅱ	2前	2										2
		量子力学Ⅰ	2前	2							1			
		移動速度論	2後	2							1			
		材料平衡論	2後	2							1			
		材料組織学	2後	2								1		1
		力学物性論	2後	2					1	1				
	基 盤 科 目	固体物理Ⅰ	2後	2										1
固体物理Ⅱ		3前	2										1	
量子力学Ⅱ		3後	2	2					1					
応 用 物 理		熱力学	2前	2						1				
		解析力学	2前	2						1				
		量子力学Ⅰ	2後	2				1						
専 門 教 育 科 目		電気・電子材料	3前		2					1				
	材料強度学	3前		2					1					
	電気化学	3前		2						1				
	反応速度論	3前		2						1				
	エネルギー材料	3後		2						1				
	熱物性論	3後		2						1				
	溶融プロセス工学	3後		2									2	
展 開 科 目	構築・機械材料	3後		2									1	
	磁性材料	3後		2									1	
	応用電磁気学Ⅱ	2後		2					1					
	物理数学Ⅱ	2後	2						1					
	計測工学Ⅱ	2後		2						1				
	計測工学Ⅲ	3前		2						1				
	シミュレーション工学	3前	2						1				1	
	光学Ⅰ	3前		2									1	
	流体物理Ⅰ	3前		2					1				1	
	光学Ⅱ	3後		2						1			1	
実 験 ・ 演 習 科 目	流体物理Ⅱ	3後		2						1			1	
	固体物理Ⅲ	3後		2									1	
	量子ナノ計測	3後		2					1				1	
	材料プロセス工学	4前		2				2	1				1	
	応用光学	4前		2				1					1	
	材料機能工学演習Ⅰ	3前	1				3		3		4		1	
	材料機能工学演習Ⅱ	3後	1				3		3		4		1	
	材料機能工学実験Ⅰ	3前	3				3		3		4		1	
	材料機能工学実験Ⅱ	3後	3				3		3		4		1	
	材料機能工学セミナー	4通				3	3						5	
専 門 教 育 科 目	力学・電磁気学演習	2前	2										1	
	統計熱力学演習	2後	2										1	
	量子力学演習	3前	2										1	
	応用物理学実験Ⅰ	2後	2				2	3		3			2	
	応用物理学実験Ⅱ	3前	2				2	4		3			3	
実践研究セミナー	3後	2				9	11				13			
卒業研究	4通	8				8	11				13			
小計(62科目)			-	86	44	0	9	11	0	13	0	16		

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	担当 年次	単位数				専任教員等の配置					※ ※ ※	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
学 科 共 通 科 目	物理学序論	1前	2			5						2	
	材料物性基礎	1後	2			2	1						
	物理現象と微分方程式	1後	2			2						1	
	物理・材料数学Ⅰ	1後	2				1					1	
基 盤 科 目	熱力学	2前	2									1	
	解析力学	2前	2	2		1							
	回折結晶学	2前	2									1	
	材料物理学	2前	2			1							
	物理・材料数学Ⅱ	2前	2									2	
	量子力学Ⅰ	2前	2				1						
	移動速度論	2後	2				1						
	材料平衡論	2後	2				1						
	材料組織学	2後	2									1	
	力学物性論	2後	2			1							
	固体物理Ⅰ	2後	2									1	
	固体物理Ⅱ	3前	2									1	
	量子力学Ⅱ	2後	2	2		1							
	応 用 物 理	熱力学	2前	2				1					
解析力学		2前	2				1						
量子力学Ⅰ		2後	2			1						1	
固体物理Ⅰ		3前	2										
固体物理Ⅱ		3後	2			1							
応用電磁気学Ⅰ		2前	2									1	
計測工学Ⅰ		2前	2									1	
物理数学Ⅰ		2前	2				1						
統計力学		2後	2									1	
連続体力学		2後	2				1						
量子力学Ⅱ		3前	2			1							
材 料 機 能	電気・電子材料	3前	2	2		1							
	材料強度学	3前	2			1							
	電気化学	3前	2				1					1	
	反応速度論	3前	2				1						
	エネルギー材料	3後	2				1					1	
	熱物性論	3後	2			1							
	溶融プロセス工学	3後	2									2	
	構造・機械材料	3後	2									2	
	磁性材料	3後	2			1						1	
	展 開 科 目	応用電磁気学Ⅱ	2後	2	2		1						
物理数学Ⅱ		2後	2	2		1							
計測工学Ⅱ		2後	2	2			1						
計測工学Ⅲ		3前	2	2			1						
シミュレーション工学		3前	2	2		1	1					1	
光学Ⅰ		3前	2	2								1	
流体物理Ⅰ		3前	2	2			1						
光学Ⅱ		3後	2	2			1					1	
流体物理Ⅱ		3後	2	2		1							
固体物理Ⅲ		3後	2	2								1	
量子ナノ計測		3後	2	2		2							
材料プロセス工学	4前	2	2		2	1							
応用光学	4前	2	2			1					1		
実 験 ・ 演 習 科 目	材料機能工学演習Ⅰ	3前	1				3			4		1	
	材料機能工学演習Ⅱ	3後	1				3			4		1	
	材料機能工学実験Ⅰ	3前	3				3			4		1	
	材料機能工学実験Ⅱ	3後	3				3			4		1	
	材料機能工学セミナー	4通	2			3	3					5	
	力学・電磁気学演習	2前	2							1			
応 用 物 理	統計熱力学演習	2後	2				1			1			
	量子力学演習	3前	2							2			
	応用物理学実験Ⅰ	2後	2			2	4			1		2	
	応用物理学実験Ⅱ	3前	2			2	5			3			
実践研究セミナー	3後	2			9	12			13				
卒業研究	4通	8			9	12			13				
小計(62科目)			-	86	44	0	9	12	0	13	0	16	
技 術 と 人 間 ・ 心 理	フレッシュマンセミナー	1前	2			2	2					4	
	異文化理解	1前～2後	2									2	
	感性と社会	1前～2後	2									1	
	心理学	1前～2後	2									1	
	生物と環境	1前～2後	2									2	
	対人コミュニケーション論	1前～2後	2									1	
	日本文化論	1前～2後	2									2	
	人間行動学	1前～2後	2									2	
	人間社会ゼミナール	1前～2後	2									1	
	技 術 と 歴 史 ・ 哲 学	アジア・太平洋史	1前～2後	2									2
		科学技術史	1前～2後	2									1
		科学思想史	1前～2後	2									1
		科学と哲学	1前～2後	2									1
		共生社会論	1前～2後	2									2
		近現代史	1前～2後	2									1
		公共の哲学	1前～2後	2									1
	宗教文化論	1前～2後	2									1	
	技 術 と 社 会 ・ 国 際	経済学	1前～2後	2									1
		現代社会論	1前～2後	2									1
		現代政治論	1前～2後	2									1
公共政策論		1前～2後	2									1	
生涯学習論		1前～2後	2									1	
情報社会論		1前～2後	2									2	
地域研究Ⅰ		1前～2後	2									3	
地域研究Ⅱ		1前～2後	2									3	

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成28年度】

・履修機会の拡充のため、「管理工学」の配当年次を「3後」から「3前・後」に変更。
 ・開講年次の適正化のため、「労働者管理基礎論」の配当年次を「2後」から「3前」に変更。
 ・教育課程の充実のため、「自治体行政」「キャリア・コミュニケーション論」を追加。

【平成29年度】

・担当教員の見直しのため、「物理工学序論」「物理・材料数学Ⅱ」「応用物理学実験Ⅰ」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

【平成30年度】

・担当教員の見直しのため、「物理工学序論」「熱力学」「固体物理Ⅱ」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

【令和元年度】

・教育課程の充実のため、「価値創造論」を追加。
 ・担当教員の見直しのため、「物理工学序論」「計測工学Ⅰ」「応用電磁気学Ⅱ」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

(注) ・ ②(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

必修	設置時の計画				変更状況				備考
	選択	自由	計(A)		必修	選択	自由	計	
57	79	0	136	57	82	0	139		
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目
					[0]	[3]	[0]	[3]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{136} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
	校舎敷地	159,206㎡	0㎡	0㎡	159,206㎡			
	運動場用地	44,982㎡	0㎡	0㎡	44,982㎡			
	小 計	204,188㎡	0㎡	0㎡	204,188㎡			
	そ の 他	14,182㎡	0㎡	0㎡	14,182㎡			
	合 計	218,370㎡	0㎡	0㎡	218,370㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	128,980㎡ (128,980㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	128,980㎡ (128,980㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	56室	170室	181室	7室 (補助職員 7人)	6室 (補助職員 3人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			人事異動等に伴い、研究室を整理したため。 (元)		
	工学部 物理工学科		143 138 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
		冊	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	工学部	461,783 [205,740] (461,783 [205,740])	12,933 [10,409] (12,933 [10,409])	7,343 [7,242] (7,343 [7,242])	1,311 (1,311)	0 (0)	0 (0)	
	計	461,783 [205,740] 461,783 [205,740]	12,933 [10,409] 12,933 [10,409]	7,343 [7,242] (7,343 [7,242])	1,311 (1,311)	0 (0)	0 (0)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	5,595㎡		472		528,000			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	2,479㎡		グラウンド、テニスコート、プール、弓道場、馬場、ボート艇庫、ヨット艇庫					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋工業大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
【工学部】 (第一部)						1.04				
生命・応用化学科	4	210	3年次 2	844	学士(工学) 学士(学術)	1.03	-	平成28	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
物理工学科	4	105	3年次 2	424	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
電気・機械工学科	4	200	3年次 2	804	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
情報工学科	4	145	3年次 2	584	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
社会工学科	4	150	3年次 2	604	学士(工学) 学士(学術)	1.06	-	平成28	同上	
創造工学教育課程	4	100	-	400	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
生命・物質工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
環境材料工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
機械工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
電気電子工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
建築・デザイン工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
都市社会工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
(開設年度H16共通)			-	-						平成30年より 学生募集停止
(第二部)						1.15				
物質工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.16	-			
機械工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-			
電気情報工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.24	-			
社会開発工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.16	-			

【工学研究科】										
(博士前期課程)										
生命・応用化学専攻	2	165	-	330	修士(工学) 修士(学術)	1.11	-	平成28	愛知県名古屋 昭和区御器所町	
物理学専攻	2	78	-	156	修士(工学) 修士(学術)	1.06	-	平成28	同上	
電気・機械工学専攻	2	138	-	276	修士(工学) 修士(学術)	1.56	-	平成28	同上	
情報工学専攻	2	110	-	220	修士(工学) 修士(学術)	1.21	-	平成28	同上	
社会工学専攻	2	95	-	180	修士(工学) 修士(学術)	1.25	-	平成28	同上	
物質工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
機能工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
社会工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
未来材料創成工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
創成シミュレーション工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
(博士後期課程)										
生命・応用化学専攻	3	9	-	27	博士(工学) 博士(学術)	1.10	-	平成28	愛知県名古屋 昭和区御器所町	
物理学専攻	3	5	-	15	博士(工学) 博士(学術)	1.20	-	平成28	同上	
電気・機械工学専攻	3	9	-	27	博士(工学) 博士(学術)	1.10	-	平成28	同上	
情報工学専攻	3	7	-	21	博士(工学) 博士(学術)	0.66	-	平成28	同上	
社会工学専攻	3	7	-	21	博士(工学) 博士(学術)	1.51	-	平成28	同上	
共同ナノメーション科学専攻	3	3	-	9	博士 (ナノメーション科 学)	0.99	-	平成25	同上	
名古屋工業大学・ウーロンゴン大 学国際連携情報学専攻	3	2	-	6	博士(学術)	0.33	-	平成29	同上	
物質工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
機能工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
社会工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
未来材料創成工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
創成シミュレーション工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成28年度】

特になし。

【平成29年度】

- ・松本裕司助教退職に伴い、「化学実験」について知場三周助教に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

【平成30年度】

- ・吉成修教授退職に伴い、「熱物性論」について林好一教授に変更。
- ・仁科健教授退職に伴い、「金融学」について川村大伸准教授に、「法工学」について渡辺研司教授に、「マーケティング」について藤田素弘教授に、「管理工学」について川村大伸准教授に変更。
- ・永淵康之教授退職に伴い、「人間社会ゼミナール」について川橋範子教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

【令和元年度】

- ・ベイジョンソク教授退職に伴い、「応用電磁気学Ⅱ」について田村友幸准教授に、「電磁気学」について禰部雅晴准教授に変更。
- ・知場三周助教退職に伴い、「物理学演習Ⅱ」「物理学実験」について中村翔太助教に変更。
- ・高柳真司助教退職に伴い、「物理学実験」について本林健太助教に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
9	5
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
8	10	0	8	26	10	12	0	10	32
(11)	(11)	(0)	(12)	(34)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
10	12	0	10	32	10	12	0	10	32
[2]	[2]	[0]	[2]	[6]	[2]	[2]	[0]	[2]	[6]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
63	3	3
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 []内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{32}{26} = \boxed{123.07} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{32} = \boxed{9.37} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1		該当なし					
2							
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1		該当なし					
2							
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{26} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
1	助教	青柳 倫太郎	必修	力学・電磁気学演習	③	退職のため (29)		
			必修	実践研究セミナー	①			
			必修	卒業研究	①			
2	助教	松本 裕司	必修	材料機能工学演習 I	①	退職のため (29)		
			必修	材料機能工学演習 II	①			
			必修	材料機能工学実験 I	①			
			必修	材料機能工学実験 II	①			
			必修	実践研究セミナー	①			
			必修	卒業研究	①			
			必修	化学実験	①			
3	教授	吉成 修	選択	熱物性論	①	退職のため (30)		
4	教授	ベイ ジョンソク	必修	電磁気学	①	退職のため (令和元年)		
			選択	応用電磁気学 II	①			
5	助教	知場 三周	必修	物理学実験	①	退職のため (令和元年)		
			選択	物理学演習 II	①			
6	教授	高柳 真司	必修	物理学実験	①	退職のため (令和元年)		
合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
6 人	必修	13 科目	必修	12 科目	必修	0 科目	必修	1 科目
	選択	3 科目	選択	3 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	16 科目	計	15 科目	計	0 科目	計	1 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員辞任等による学生の履修等への重大な影響は認められない。
各授業における担当教員情報についてはシラバスや授業時間割表にて周知している。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (28年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (30年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (31年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工学科 物理工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	1～6の項目に記入した事項以外の変更なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

工学教育総合センターの創造教育開発オフィスにおいて、工学教育の質的向上に資することを目的として、ファカルティ・ディベロップメントの推進及び授業評価を行う教育機能開発部門を設置している。また全

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

工学教育総合センター会議を3回、ファカルティ・ディベロップメント委員会を1回、ファカルティ・ディベロップメント委員会専門部会を1回実施した。（約40名の教員が参加）

c 委員会の審議事項等

全学のFDIに関する基本方針の策定及び活動の総括、企画・立案・実施及び評価の総括等。

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 大学院共通科目のあり方について
- ・ 高等学校新課程「物理」・「英語」の現状について
- ・ 理工系の授業を英語でおこなうための実務とポイント
- ・ アクティブラーニングを推進する学習活動の「見てまず化」
- ・ 工学系人材育成のためのアクティブラーニング

b 実施方法

チラシを作成し事前アナウンスを行い、時に学外講師を招いて実施している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

平成30年度は「a 実施内容」の通り開催し、参加人数はそれぞれ、41名、30名、20名、15名、30名であった。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

各教員において、授業改善に取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期末及び後期末において実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

一般的な集計結果についてはHPにて公開し、授業科目ごとの詳細結果については個別に学内の授業評価システムにて公開している。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

現状把握と分析を行いつつ、全学評価室を中心に評価する予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成31年4月 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年6月28日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋工業大学

(2) 大学名

名古屋工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒466-8555

愛知県名古屋市昭和区御器所町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(カイヒロキ) 鵜飼 裕之 (平成26年4月)	—	—
学部長	—	—	—
学科長等	イサキ マコト 岩崎 誠 (平成28年4月)	イムラ マサキハセガワ ユカ 市村 正也 長谷川 豊 (平成30年4月平成31年4月)	平成30年3月31日 任期満了 平成30年4月1日 就任(30) 平成31年3月31日 任期満了 平成31年4月1日 就任(元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
工学部 電気・機械工学科 学士（工学） 学士（学術）	工学関係	4	200	3年次 2	804	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 200 (-) [-]	人 - (-) [-]	人 200 (-) [-]	人 - (-) [-]	人 200 (2) [-]	人 - (-) [-]	人 200 (2) [-]	人 - (-) [-]	人 200 (2) [-]	人 - (-) [-]	1.04倍	-	
志願者数	1203 (-) [45]	- (-) [-]	926 (-) [45]	- (-) [-]	1060 (40) [40]	- (-) [-]	992 (46) [38]	- (-) [-]	992 (46) [38]	- (-) [-]			
受験者数	857 (-) [42]	- (-) [-]	655 (-) [43]	- (-) [-]	758 (36) [38]	- (-) [-]	698 (41) [35]	- (-) [-]	698 (41) [35]	- (-) [-]			
合格者数	238 (-) [11]	- (-) [-]	240 (-) [13]	- (-) [-]	235 (13) [9]	- (-) [-]	236 (22) [10]	- (-) [-]	236 (22) [10]	- (-) [-]			
B 入学者数	214 (-) [10]	- (-) [-]	207 (-) [11]	- (-) [-]	211 (7) [7]	- (-) [-]	208 (13) [2]	- (-) [-]	208 (13) [2]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A	1.07		1.03		1.05		1.04						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度				備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
1年次	214 [10] (-)	- [-] (-)	207 [11] (-)	- [-] (-)	211 [7] (-)	- [-] (-)	208 [2] (-)	- [-] (-)	[]	[]	編入学生数 H30: 15名(3年) H31: 20名(3年)、15名(4年)
2年次			213 [10] (-)	- [-] (-)	205 [11] (-)	- [-] (-)	208 [6] (-)	- [-] (-)	[]	[]	再入学 H30: 1名(2年次) 転学科 H31: 1名(2年次)
3年次					226 [17] (-)	- [-] (-)	225 [18] (-)	- [-] (-)	[]	[]	
4年次							226 [17] (-)	- [-] (-)	[]	[]	
計	214 [10] (-)		420 [21] (-)		642 [35] (-)		867 [43] (-)		[]	[]	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	214 人	1 人	平成28年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)
平成29年度	420 人	5 人	平成28年度	2 人	0 人	授業料未納(1人)、一身上の都合(1人)
			平成29年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学(3人)
平成30年度	642 人	4 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	4 人	1 人	他の教育機関への入学(4人)
令和元年度	867 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人	
			平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
合 計		10 人		10 人	1 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{214} = \boxed{0.46} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{420} = \boxed{1.19} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{642} = \boxed{0.62} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{867} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工学部 電気・機械工学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					※ 履修 制限	
			必修	選択	目由	教	准教授	講師	助教	助手			
学科共通科目	電気・機械工学入門	1前	2			21	23			9		12	
	常微分方程式	1後	2				3						
	プログラミングⅠ	1後	2									1	
	熱力学Ⅰ	1後	2			1	1						
	電気回路Ⅰ	1後	2			1	1					1	
	基盤科目	機械工学	2前	2				1					1
		流体力学Ⅰ	2前	2			1						1
		工業力学	2前	2									1
		材料力学Ⅰ	2前	2			1	1					
		熱力学Ⅱ	2前	2			1	2					
機械力学		2後	2				1						
材料科学		2後	2									1	
伝熱学Ⅰ		2後	2				2						
流体力学Ⅱ		2後	2			1	1						
材料力学Ⅱ		2後	2				2						
電気電子	制御工学Ⅰ	2後	2			1							
	材料加工の力学	3前	2				2						
	計算機基礎	2前	2			1						1	
	電気回路Ⅱ	2前	2			2							
	電気磁気学Ⅰ	2前	2			2							
	電子回路Ⅰ	2前	2			1	1						
	プログラミングⅡ	2前	2				1						
	システム制御基礎	2後	2									1	
	情報理論	2後	2			1						1	
	電気回路Ⅲ	2後	2									2	
専門教育科目	電気磁気学Ⅱ	2後	2			1						1	
	電子物性	2後	2			1	1						
	機械工学実習	2前		1		1	1						
	偏微分方程式	2前		2			2						
	確率・統計	2前		2			3						
	ベクトル解析	2前		2		1	2						
	機械工学基礎Ⅰ	2後	1				3					1	
	機械工学基礎Ⅱ	2後	1				2					1	
	機械製図Ⅱ	2後	2			2	2			1			
	複素解析	2後		2			2						
展開科目	エンジン工学Ⅰ	3前		2			1						
	エンジン工学Ⅱ	3前		2			1						
	システムデザイン	3前		2								1	
	固体力学	3前		2			1						
	制御工学Ⅱ	3前		2			1						
	伝熱学Ⅱ	3前		2			1						
	電子機械工学Ⅰ	3前		2			1						
	流体力学Ⅲ	3前		2			1					1	
	設計製図	3後		1				3					
	ターボ機械基礎	3後		2								1	
電気電子	トライボロジー	3後		2								1	
	バイオメカニクス	3後		2			1						
	ロボット工学	3後		2			1						
	応用流体力学	3後		2			1						
	機械要素デザイン工学	3後		2			1						
	機能材料工学	3後		2								1	
	成形プロセス工学	3後		2			1						
	精密プロセス工学	3後		2								1	
	電子機械工学Ⅱ	3後		2			1						
	燃焼工学	3後		2			1						
電気電子	特別講義	4前		2			1						
	確率・統計	2前		2			3						
	ベクトル解析	2前		2			1	2					
	複素解析	2前		2			1						
	電気電子計測	2前		2			1						
	振動波動	2後		2			1						
	電子回路Ⅱ	2後		2				1					
	デジタル電子回路	2後		2			1						
	システム制御設計	3前		2			1						
	信号処理回路	3前		2			1					1	
電気電子	通信工学	3前		2								1	
	電気機器	3前		2								1	
	電磁波工学	3前		2			1						
	半導体電子工学	3前		2			1						
	量子力学	3前		2				1					
	電力システム	3前		2								1	
	高電圧工学	3後		2			1						
	通信システム	3後		2			1					1	
	電子材料工学	3後		2				1					
	パワーエレクトロニクス	3後		2			1						
電気電子	半導体デバイス工学	3後		2			1						
	マイクロ波工学	3後		2			1						
	電波法規	4前		1								1	
	電気機械設計	4前		2								1	
	電気法規・施設管理	4前		1								1	
	実験・演習科目	機械製図Ⅰ	2前	2			2				2		1
		機械工学実験	3前	2			10	16			5		5
		電気電子工学実験実習	2前	2				2					1
		電気電子工学基礎実験	2後	2			11	7			4		7
		電気電子工学応用実験	3前	2			11	7			4		7
電気電子工学専門実験		3後	2			11	7			4		7	
機械製図Ⅱ		2前	2			2				2		1	
電気電子工学実験実習		2前	2				2					1	
電気電子工学基礎実験		2後	2			13	10			5		7	
電気電子工学応用実験		3前	2			13	10			5		7	
電気電子工学専門実験	3後	2			13	10			5		7		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					※ 履修 制限		
			必修	選択	目由	教	准教授	講師	助教	助手				
学科共通科目	電気・機械工学入門	1前	2					27	26			11	13	
	常微分方程式	1後	2						4					
	プログラミングⅠ	1後	2					1					1	
	熱力学Ⅰ	1後	2			1	1							
	電気回路Ⅰ	1後	2			1	1						1	
	基盤科目	機械工学	2前	2					1					
		流体力学Ⅰ	2前	2			1							1
		工業力学	2前	2										1
		材料力学Ⅰ	2前	2			1	1						
		熱力学Ⅱ	2前	2			2	1						
機械力学		2後	2				1							
材料科学		2後	2							1			1	
伝熱学Ⅰ		2後	2							2				
流体力学Ⅱ		2後	2			1	1						1	
材料力学Ⅱ		2後	2				1	1						
電気電子	制御工学Ⅰ	2後	2			1								
	材料加工の力学	3前	2				2						1	
	計算機基礎	2前	2			1							1	
	電気回路Ⅱ	2前	2			2								
	電気磁気学Ⅰ	2前	2			2								
	電子回路Ⅰ	2前	2			1	1							
	プログラミングⅡ	2前	2				1							
	システム制御基礎	2後	2										1	
	情報理論	2後	2			1							2	
	電気回路Ⅲ	2後	2										2	
専門教育科目	電気磁気学Ⅱ	2後	2			1							1	
	電子物性	2後	2							2				
	機械工学実習	2前		1		1	1							
	偏微分方程式	2前		2			2							
	確率・統計	2前		2			2						1	
	ベクトル解析	2前		2			2							
	機械工学基礎Ⅰ	2後	1				2						1	
	機械工学基礎Ⅱ	2後	1				2						1	
	機械製図Ⅱ	2後	2			2	2			1				
	複素解析	2後		2			2							
展開科目	エンジン工学Ⅰ	3前		2				1						
	エンジン工学Ⅱ	3前		2				1						
	システムデザイン	3前		2				2					1	
	固体力学	3前		2			1							
	制御工学Ⅱ	3前		2			1							
	伝熱学Ⅱ	3前		2						1				
	電子機械工学Ⅰ	3前		2			1							
	流体力学Ⅲ	3前		2			1						1	
	設計製図	3後		1							1			
	ターボ機械基礎	3後		2									1	
電気電子	トライボロジー	3後		2									1	
	バイオメカニクス	3後		2						2				
	ロボット工学	3後		2			1							
	応用流体力学	3後		2			1							
	機械要素デザイン工学	3後		2			1							
	機能材料工学	3後</												

卒業要件及び履修方法

<p>(卒業要件) 次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。</p> <p>○共通科目 以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。 人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上 自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上 産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上 グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上 健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上</p> <p>○専門教育科目 以下の要件を満たす74単位以上を学科の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。 学科共通科目 すべての必修科目 基盤科目 選択したコースのすべての必修科目 展開科目 選択したコースのすべての必修科目 実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目 実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位</p> <p>ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学科の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)</p> <p>(履修方法) 入学後、共通科目の履修と共に学科共通科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。</p>
--

卒業要件及び履修方法

<p>(卒業要件) 次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。</p> <p>○共通科目 以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。 人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上 自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上 産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上 グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上 健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上</p> <p>○専門教育科目 以下の要件を満たす74単位以上を学科の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。 学科共通科目 すべての必修科目 基盤科目 選択したコースのすべての必修科目 展開科目 選択したコースのすべての必修科目 実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目 実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位</p> <p>ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学科の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)</p> <p>(履修方法) 入学後、共通科目の履修と共に学科共通科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。</p>
--

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置						単位数	
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科共通科目	電気・機械工学入門	1前	2				21	23			9		12	
	常微分方程式	1後	2					3						
	プログラミングⅠ	1後	2									1		
	熱力学Ⅰ	1後	2				1	1						
	電気回路Ⅰ	1後	2				1	1					1	
	基礎科目	機械学	2前	2					1					
		流体力学Ⅰ	2前	2				1						1
		工業力学	2前	2										1
		材料力学Ⅰ	2前	2				1	1					
		熱力学Ⅱ	2前	2				1	2					
		機械力学	2後	2					1					
		材料科学	2後	2										1
伝熱学Ⅰ		2後	2					2						
流体力学Ⅱ		2後	2				1	1						
材料力学Ⅱ		2後	2					2						
制御工学Ⅰ		2後	2				1							
材料加工の力学		3前	2				2							
電気電子	計算機基礎	2前	2				1						1	
	電気回路Ⅱ	2前	2				2							
	電気磁気学Ⅰ	2前	2				2							
	電子回路Ⅰ	2前	2				1	1						
	プログラミングⅡ	2前	2					1						
	システム制御基礎	2後	2				1						1	
	情報理論	2後	2				1						1	
	電気回路Ⅲ	2後	2										2	
	電気磁気学Ⅱ	2後	2				1						1	
	電子物性	2後	2				1	1						
	専門教育科目	機械工学実習	2前		1			1	1					
		常微分方程式	2前		2				2					
確率・統計		2前		2				3						
ベクトル解析		2前		2			1	2						
機械工学基礎Ⅰ		2後	1					3					1	
機械工学基礎Ⅱ		2後	1					2						
機械製図Ⅱ		2後	2				2	2			1			
複素解析		2後		2				2						
エンジン工学Ⅰ		3前		2				1						
エンジン工学Ⅱ		3前		2				1						
システムデザイン		3前		2									1	
展開科目		固体力学	3前		2				1					
	制御工学Ⅱ	3前		2				1						
	伝熱学Ⅱ	3前		2				1						
	電子機械工学Ⅰ	3前		2				1						
	流体力学Ⅲ	3前		2				1					1	
	設計製図	3後		1				3			1			
	ターボ機械基礎	3後		2				2					1	
	トライボロジー	3後		2				2					1	
	バイオメカニクス	3後		2				1					1	
	ロボット工学	3後		2				1						
	応用流体力学	3後		2				1						
	機械要素デザイン工学	3後		2				1						
電気電子	機能材料工学	3後		2				2					1	
	成形プロセス工学	3後		2				1						
	精密プロセス工学	3後		2				2					1	
	電子機械工学Ⅱ	3後		2				1						
	燃焼工学	3後		2				1						
	特別講義	4前		2				1						
	確率・統計	2前		2				3						
	ベクトル解析	2前		2				2						
	複素解析	2前		2				1						
	電気電子計測	2前		2				1						
	振動波動	2後		2				1						
	電子回路Ⅱ	2後		2				1					1	
デジタル電子回路	2後		2				1							
システム制御設計	3前		2				1							
信号処理回路	3前		2				1							
通信工学	3前		2									1		
電気機器	3前		2									1		
電磁波工学	3前		2					1						
半導体電子工学	3前		2					1						
量子力学	3前		2					1						
電力システム	3前		2									1		
高電圧工学	3後		2				1							
通信システム	3後		2				1							
電子材料工学	3後		2				1							
パワーエレクトロニクス	3後		2				1							
半導体デバイス工学	3後		2				1							
マイクロ波工学	3後		2				1							
電波法規	4前		1									1		
電気機械設計	4前		2									1		
電気法規・施設管理	4前		1									1		
実験・演習科目	機械製図Ⅰ	2前		2			2				2		1	
	機械工学実験	3前		2			10	16		5			5	
実践・演習科目	電気電子工学実験実習	2前		2				2						
	電気電子工学基礎実験	2後		2			11	7		4			7	
	電気電子工学応用実験	3前		2			11	7		4			7	
	電気電子工学専門実験	3後		2			11	7		4			7	
実践研究セミナー	3後		2			21	23		9					
卒業研究	4通		8			21	23		9					
小計(88科目)		-	80	96	0	21	23	0	9	0	12			

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置						単位数	
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科共通科目	電気・機械工学入門	1前	2						24	24		10		13
	常微分方程式	1後	2											
	プログラミングⅠ	1後	2						1				1	
	熱力学Ⅰ	1後	2					1	1					
	電気回路Ⅰ	1後	2					1	1				1	
	基礎科目	機械学	2前	2							1			
		流体力学Ⅰ	2前	2					1					1
		工業力学	2前	2										1
		材料力学Ⅰ	2前	2					1	1				
		熱力学Ⅱ	2前	2					2	1				
		機械力学	2後	2						1				
		材料科学	2後	2										1
伝熱学Ⅰ		2後	2					2	2					
流体力学Ⅱ		2後	2					1	1					
材料力学Ⅱ		2後	2						1					
制御工学Ⅰ		2後	2					1						
材料加工の力学		3前	2					2						
電気電子	計算機基礎	2前	2					1					1	
	電気回路Ⅱ	2前	2					2						
	電気磁気学Ⅰ	2前	2					2						
	電子回路Ⅰ	2前	2					1	1					
	プログラミングⅡ	2前	2						1					
	システム制御基礎	2後	2					1					1	
	情報理論	2後	2					1					1	
	電気回路Ⅲ	2後	2										2	
	電気磁気学Ⅱ	2後	2					1			2		1	
	電子物性	2後	2					1						
	専門教育科目	機械工学実習	2前		1				1	1				
		常微分方程式	2前		2				2					
確率・統計		2前		2					2					
ベクトル解析		2前		2				1	2					
機械工学基礎Ⅰ		2後	1						1				1	
機械工学基礎Ⅱ		2後	1						2				1	
機械製図Ⅱ		2後	2					2	2			1		
複素解析		2後		2					1					
エンジン工学Ⅰ		3前		2					1					
エンジン工学Ⅱ		3前		2					1					
システムデザイン		3前		2									1	
固体力学		3前		2					1					
制御工学Ⅱ	3前		2					1						
伝熱学Ⅱ	3前		2					1						
電子機械工学Ⅰ	3前		2					1						
流体力学Ⅲ	3前		2					1				1		
設計製図	3後		1						3			1		
ターボ機械基礎	3後		2					2						
トライボロジー	3後		2					2						
バイオメカニクス	3後		2					1				1		
ロボット工学	3後		2					1						
応用流体力学	3後		2					1						
機械要素デザイン工学	3後													

卒業要件及び履修方法

<p>(卒業要件) 次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。</p> <p>○共通科目 以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。 人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上 自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上 産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上 グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上 健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上</p> <p>○専門教育科目 以下の要件を満たす74単位以上を学科の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。 学科共通科目 すべての必修科目 基盤科目 選択したコースのすべての必修科目 展開科目 選択したコースのすべての必修科目 実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目 実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位</p> <p>ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学科の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)</p> <p>(履修方法) 入学後、共通科目の履修と共に学科共通科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。</p>
--

卒業要件及び履修方法

<p>(卒業要件) 次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。</p> <p>○共通科目 以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。 人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上 自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上 産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上 グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上 健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上</p> <p>○専門教育科目 以下の要件を満たす74単位以上を学科の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。 学科共通科目 すべての必修科目 基盤科目 選択したコースのすべての必修科目 展開科目 選択したコースのすべての必修科目 実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目 実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位</p> <p>ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学科の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)</p> <p>(履修方法) 入学後、共通科目の履修と共に学科共通科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。</p>
--

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					※
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
学科共通科目	電気・機械工学入門	1前	2			26	26		8			13
	常微分方程式	1後	2				4					
	プログラミングⅠ	1後	2			1					1	
	熱力学Ⅰ	1後	2			1	1					
	電気回路Ⅰ	1後	2				1				1	
基盤科目	機械学	2前	2				1					
	流体力学Ⅰ	2前	2			1					1	
	工業力学	2前	2								1	
	材料力学Ⅰ	2前	2			1	1					
	熱力学Ⅱ	2前	2			2	1					
	機械力学	2後	2			1						
	材料科学	2後	2				1				1	
	伝熱学Ⅰ	2後	2				2					
	流体力学Ⅱ	2後	2			1					1	
	材料力学Ⅱ	2後	2			1	1					
	制御工学Ⅰ	2後	2				1					
	材料加工の力学	3前	2			1					1	
	電気電子	計算機基礎	2前	2			1					1
電気回路Ⅱ		2前	2			2						
電気磁気学Ⅰ		2前	2			2						
電子回路Ⅰ		2前	2			1	1					
プログラミングⅡ		2前	2				1					
システム制御基礎		2後	2			1					1	
情報理論		2後	2								2	
電気回路Ⅲ		2後	2								2	
電気磁気学Ⅱ		2後	2			1					1	
電子物性		2後	2				2					
専門教育科目	機械工学実習	2前		1			1					1
	偏微分方程式	2前		2			1					
	確率・統計	2前		2			2					
	ベクトル解析	2前		2		1	1				1	
	機械工学基礎Ⅰ	2後	1				1				1	
	機械工学基礎Ⅱ	2後	1				2			1		
	機械製図Ⅱ	2後	2			1	3			1		
	複素解析	2後		2			1					
	エンジン工学Ⅰ	3前		2			1					
	エンジン工学Ⅱ	3前		2			1					
	システムデザイン	3前		2							1	
	固体力学	3前		2		1						
	制御工学Ⅱ	3前		2		1						
	伝熱学Ⅱ	3前		2			1					
	電子機械工学Ⅰ	3前		2		1						
	流体力学Ⅲ	3前		2			1					
	設計製図	3後	1				1			1		
	ターボ機械基礎	3後		2							1	
	トライボロジー	3後		2							1	
	バイオメカニクス	3後		2		1	1					
	ロボット工学	3後		2		1						
	応用流体工学	3後		2		1						
	機械要素デザイン工学	3後		2		1						
	機能材料工学	3後		2							2	
	成形プロセス工学	3後		2		1						
	精密プロセス工学	3後		2							1	
	電子機械工学Ⅱ	3後		2		1						
	燃焼工学	3後		2		1						
	特別講義	4前		2		1						
	展開科目	確率・統計	2前		2			2				
ベクトル解析		2前		2		1	1				1	
複素解析		2前		2		1						
電気電子計測		2前		2		1						
振動波動		2後		2		1						
電子回路Ⅱ		2後		2			1					
デジタル電子回路		2後		2		1						
システム制御設計		3前		2		1						
信号処理回路		3前		2			1					
通信工学		3前		2							1	
電気機器		3前		2			1					
電磁波工学		3前		2		1						
半導体電子工学		3前		2		1						
量子力学		3前		2			1					
電力システム		3前		2							1	
高電圧工学		3後		2		1						
通信システム		3後		2		1						
電子材料工学		3後		2		1						
パワーエレクトロニクス		3後		2		1						
半導体デバイス工学		3後		2		1						
マイクロ波工学	3後		2		1							
電波法規	4前		1							1		
電気機械設計	4前		2							1		
電気法規・施設管理	4前		1							1		
実験・演習科目	機械製図Ⅰ	2前	2				2	1				
	機械工学実験	3前	2				13	15		4	6	
	電気電子工学実験実習	2前	2							1		
	電気電子工学基礎実験	2後	2				13	10		4	7	
	電気電子工学応用実験	3前	2				13	10		4	7	
電気電子工学専門実験	3後	2				13	10		4	7		
実践研究セミナー	3後	2				26	26		8			
卒業研究	4通	8				26	26		8			
小計(88科目)	-		80	96	0	26	26	0	8	0	12	
フレッシュマンセミナー	1前	2				3	2				5	

人間社会科目	技術と人間・心理	異文化理解	1前~2後	2																2	
		感性と社会	1前~2後	2																	1
		心理学	1前~2後	2																	1
		生物と環境	1前~2後	2																	2
		対人コミュニケーション論	1前~2後	2																	1
	技術と歴史・哲学	日本文化論	1前~2後	2																	1
		人間行動学	1前~2後	2																	2
		人間社会ゼミナール	1前~2後	2																	1
		アジア・太平洋史	1前~2後	2																	2
		科学技術史	1前~2後	2																	1
技術と社会・国際	科学思想史	1前~2後	2																	1	
	科学と哲学	1前~2後	2																	1	
	共生社会論	1前~2後	2																	2	
	近現代史	1前~2後	2																	1	
	公共の哲学	1前~2後	2																	1	
自然科学基礎科目	宗教文化論	1前~2後	2																	1	
	経済学	1前~2後	2																	1	
	現代社会論	1前~2後	2																	1	
	現代政治論	1前~2後	2																	1	
	公共政策論	1前~2後	2																	1	
	生涯学習論	1前~2後	2																	1	
	情報社会論	1前~2後	2																	2	
	地域研究 I	1前~2後	2																	3	
	地域研究 II	1前~2後	2																	4	
	日本国憲法	1前~2後	2																	1	
産業・経営	線形代数 I	1前	2																	2	
	線形代数 II	1後	2																	2	
	微分積分 I 及び演習	1前	3																	2	
	微分積分 II 及び演習	1後	3																	2	
	力学	1前	2																	2	
	物理学演習 I	1前	1																	2	
	電磁気学	1後	2																	2	
	物理学演習 II	1後	1																	2	
	基礎化学	1前	2																	1	
	化学結合論	1前	2																	3	
地球科学	2前	2																	1		
生体機能科学	2後	2																	3		
産業・経営	産業論	2後	2																	6	
	金融学	3前	2																	1	
	法工学	3前・後	2																	7	
	知的財産権	3前・後	2																	2	
	マーケティング	3前・後	2																	3	
	経営戦略	3前・後	2																	2	
	政策科学	3前・後	2																	2	
	会計学	3前・後	2																	1	
	工学倫理	3前・後	2																	2	
	管理工学	3前・後	2																	17	
産業・経営	労働者管理基礎論	3前	2																	1	
	ものづくりとデザイン	2後	2																	20	
	自治体行政	2後	2																	1	
	コミュニティと技術	2後・3前	2																	12	
	男女共同参画社会論	2後・3前	2																	2	
	企業経営	2後・3前	2																	1	
	キャリア・コミュニケーション論	2後・3前	2																	1	
	食糧工学	3前	2																	5	
	キャリアデザイン	3前	2																	1	
	グローバルコミュニケーション	Academic English I	1前	2																	14
Academic English II		1後	2																	14	
English Seminar I		1前	1																	14	
English Seminar II		1後	1																	14	
Academic English III		2前	2																	14	
Academic English IV		2後	2																	8	
Global English I		3前	1																	2	
Global English II		3後	1																	1	
健康運動科		体育実技 I	1前	1																	5
		体育実技 II	1後	1																	5
	健康運動科学演習A	1前	1																	13	
	健康運動科学演習B	1後	1																	6	
留学生科目	専門基礎科学 I	1前	2																	1	
	専門基礎科学 II	1後	2																	1	
	日本語表現法	1前	2																	1	
	日本語日本文化	1前	2																	1	
日本語日本社会	1後	2																	1		
小計 (74科目)		-	30	110	0	20	18	0	4	0										#	
合計 (162科目)		-	110	206	0	26	26	0	8	0										#	

卒業要件及び履修方法

<p>(卒業要件) 次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。</p> <p>○共通科目 以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。 人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上 自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上 産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上 グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上 健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上</p> <p>○専門教育科目 以下の要件を満たす74単位以上を学部の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。 学科学通科目 すべての必修科目 基盤科目 選択したコースのすべての必修科目 展開科目 選択したコースのすべての必修科目 実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目 実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位</p> <p>ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学部の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)</p> <p>(履修方法) 入学後、共通科目の履修と共に学科学通科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。</p>
--

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成28年度】

- ・履修機会の拡充のため、「管理工学」の配当年次を「3後」から「3前・後」に変更。
- ・開講年次の適正化のため、「労働者管理基礎論」の配当年次を「2後」から「3前」に変更。
- ・教育課程の充実のため、「自治体行政」「キャリア・コミュニケーション論」を追加。

【平成29年度】

- ・担当教員の見直しのため、「電気・機械工学入門」「常微分方程式」「プログラミングI」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

【平成30年度】

- ・担当教員の見直しのため、「電気・機械工学入門」「機械力学」「材料科学」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

【令和元年度】

- ・教育課程の充実のため、「価値創造論」を追加。
- ・担当教員の見直しのため、「電気・機械工学入門」「機械製図II」「バイオメカニクス」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

- (注) ・ 2 (1) 一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
55 科目	105 科目	0 科目	160 科目	55 科目	108 科目	0 科目	163 科目	
				[0]	[3]	[0]	[3]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{160} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	159,206㎡	0㎡	0㎡	159,206㎡				
	運動場用地	44,982㎡	0㎡	0㎡	44,982㎡				
	小 計	204,188㎡	0㎡	0㎡	204,188㎡				
	そ の 他	14,182㎡	0㎡	0㎡	14,182㎡				
	合 計	218,370㎡	0㎡	0㎡	218,370㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	128,980㎡ (128,980㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	128,980㎡ (128,980㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	56室	170室	181室	7室 (補助職員 7人)	6室 (補助職員 3人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			人事異動等に伴い、研究室を整理したため。 (元)			
	工学部 電気・機械工学科		260 255 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体	
		冊	種	種	点	点	点		
	工学部	461,783 [205,740] (461,783 [205,740])	12,933 [10,409] (12,933 [10,409])	7,343 [7,242] (7,343 [7,242])	1,311 (1,311)	0 (0)	0 (0)		
	計	461,783 [205,740] 461,783 [205,740]	12,933 [10,409] 12,933 [10,409]	7,343 [7,242] (7,343 [7,242])	1,311 (1,311)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	5,595㎡		472		528,000				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	2,479㎡		グラウンド、テニスコート、プール、弓道場、馬場、ボート艇庫、ヨット艇庫						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋工業大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
【工学部】 (第一部)						1.04				
生命・応用化学科	4	210	3年次 2	844	学士(工学) 学士(学術)	1.03	-	平成28	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
物理工学科	4	105	3年次 2	424	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
電気・機械工学科	4	200	3年次 2	804	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
情報工学科	4	145	3年次 2	584	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
社会工学科	4	150	3年次 2	604	学士(工学) 学士(学術)	1.06	-	平成28	同上	
創造工学教育課程	4	100	-	400	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
生命・物質工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
環境材料工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
機械工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
電気電子工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
建築・デザイン工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
都市社会工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
(開設年度H16共通)			-	-						平成30年より 学生募集停止
(第二部)						1.15				
物質工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.16	-			
機械工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-			
電気情報工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.24	-			
社会開発工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.16	-			

【工学研究科】										
(博士前期課程)										
生命・応用化学専攻	2	165	-	330	修士(工学) 修士(学術)	1.11	-	平成28	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
物理学専攻	2	78	-	156	修士(工学) 修士(学術)	1.06	-	平成28	同上	
電気・機械工学専攻	2	138	-	276	修士(工学) 修士(学術)	1.56	-	平成28	同上	
情報工学専攻	2	110	-	220	修士(工学) 修士(学術)	1.21	-	平成28	同上	
社会工学専攻	2	95	-	180	修士(工学) 修士(学術)	1.25	-	平成28	同上	
物質工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
機能工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
社会工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
未来材料創成工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
創成シミュレーション工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
(博士後期課程)										
生命・応用化学専攻	3	9	-	27	博士(工学) 博士(学術)	1.10	-	平成28	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
物理学専攻	3	5	-	15	博士(工学) 博士(学術)	1.20	-	平成28	同上	
電気・機械工学専攻	3	9	-	27	博士(工学) 博士(学術)	1.10	-	平成28	同上	
情報工学専攻	3	7	-	21	博士(工学) 博士(学術)	0.66	-	平成28	同上	
社会工学専攻	3	7	-	21	博士(工学) 博士(学術)	1.51	-	平成28	同上	
共同ナノメーション科学専攻	3	3	-	9	博士 (ナノメーション科 学)	0.99	-	平成25	同上	
名古屋工業大学・ウーロンゴン大 学国際連携情報学専攻	3	2	-	6	博士(学術)	0.33	-	平成29	同上	
物質工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
機能工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
社会工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
未来材料創成工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
創成シミュレーション工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成28年度】

特になし。

【平成29年度】

- ・松本健郎教授退職に伴い、「電気・機械工学入門」について前田佳弘准教授に、「力学」について浅野勝宏教授に、「生態機能科学」について和坂俊昭准教授に変更。
- ・出口真次准教授退職に伴い、「電気・機械工学入門」について若土弘樹准教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

【平成30年度】

- ・岩波保則教授退職に伴い、「情報理論」について安在大祐准教授に変更。
- ・中村隆教授退職に伴い、「材料加工の力学」について糸魚川文広教授に変更。
- ・土田陽一教授退職に伴い、「流体力学Ⅱ」「ベクトル解析」について牛島達夫准教授に変更。
- ・仁科健教授退職に伴い、「金融学」について川村大伸准教授に、「法工学」について渡辺研司教授に、「マーケティング」について藤田素弘教授に、「管理工学」について川村大伸准教授に変更。
- ・永淵康之教授退職に伴い、「人間社会ゼミナール」について川橋範子教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

【令和元年度】

- ・担当教員見直しによる変更。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
21	23	0	9	53	27	26	0	11	64
(23)	(26)	(0)	(10)	(59)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
27	26	0	11	64	27	26	0	11	64
[6]	[3]	[0]	[2]	[11]	[6]	[3]	[0]	[2]	[11]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
63	4	4
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{64}{53} = \boxed{120.75} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{4}{64} = \boxed{6.25} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1		該当なし					
2							
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1		該当なし					
2							
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目		
		選択	0	科目	選択	0	科目		
		自由	0	科目	自由	0	科目		
		計	0	科目	計	0	科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)\text{合計}(D)+(F)}{(2)-(2)\text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{53} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	松本 健郎	必修	電気・機械工学入門	①	退職のため (29)			
			選択	バイオメカニクス	②				
			必修	機械工学実験	①				
			必修	実践研究セミナー	①				
			必修	卒業研究	①				
			選択	生体機能科学	①				
2	准教授	出口 真次	必修	電気・機械工学入門	①	退職のため (29)			
			必修	材料力学Ⅱ	③				
			必修	機械工学基礎Ⅰ	③				
			必修	機械工学実験	①				
			必修	実践研究セミナー	①				
			必修	卒業研究	①				
3	教授	岩波 保則	必修	情報理論	②	退職のため (30)			
4	教授	中村 隆	必修	材料加工の力学	②	退職のため (30)			
5	教授	土田 陽一	必修	流体力学Ⅱ	②	退職のため (30)			
			選択	ベクトル解析	②	退職のため (30)			
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
5	人	必修	14 科目	必修	9 科目	必修	3 科目	必修	2 科目
		選択	4 科目	選択	1 科目	選択	2 科目	選択	1 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	18 科目	計	10 科目	計	5 科目	計	3 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>専任教員辞任等による学生の履修等への重大な影響は認められない。 各授業における担当教員情報についてはシラバスや授業時間割表にて周知している。</p>

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (28年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (30年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (31年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工学部 電気・機械工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	1～6の項目に記入した事項以外の変更なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>工学教育総合センターの創造教育開発オフィスにおいて、工学教育の質的向上に資することを目的として、ファカルティ・ディベロップメントの推進及び授業評価を行う教育機能開発部門を設置している。また全学的な視点からファカルティ・ディベロップメント活動の推進を図ることを目的として、平成29年11月1日より名古屋工業大学ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置した。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>工学教育総合センター会議を3回、ファカルティ・ディベロップメント委員会を1回、ファカルティ・ディベロップメント委員会専門部会を1回実施した。（約40名の教員が参加）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>全学のFDに関する基本方針の策定及び活動の総括、企画・立案・実施及び評価の総括等。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院共通科目のあり方について ・ 高等学校新課程「物理」・「英語」の現状について ・ 理工系の授業を英語でおこなうための実務とポイント ・ アクティブラーニングを推進する学習活動の「見えます化」 ・ 工学系人材育成のためのアクティブラーニング <p>b 実施方法</p> <p>チラシを作成し事前アナウンスを行い、時に学外講師を招いて実施している。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>平成30年度は「a 実施内容」の通り開催し、参加人数はそれぞれ、41名、30名、20名、15名、30名であった。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>各教員において、授業改善に取り組んでいる。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>前期末及び後期末において実施している。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>一般的な集計結果についてはHPにて公開し、授業科目ごとの詳細結果については個別に学内の授業評価システムにて公開している。</p>

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

現状把握と分析を行いつつ、全学評価室を中心に評価する予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成31年4月 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年6月28日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋工業大学

(2) 大学名

名古屋工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒466-8555
愛知県名古屋市昭和区御器所町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(カイヒロキ) 鵜飼 裕之 (平成26年4月)	—	—
学部長	—	—	—
学科長等	マツオ ヒロシ 松尾 啓志 (平成28年4月)	伊藤 孝行 本谷 秀堅 (平成29年4月平成31年4月)	平成29年3月31日 任期満了 平成29年4月1日 就任(29) 平成31年3月31日 任期満了 平成31年4月1日 就任(元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。）
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
工学部 情報工学科 学士(工学) 学士(学術)	工学関係	4年	145人	3年次 2人	584人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	145 (-) [-]	-	145 (-) [-]	-	145 (2) [-]	-	145 (2) [-]	-	1.04倍		
志願者数	768 (-) [21]	-	804 (-) [26]	-	668 (14) [43]	-	787 (8) [42]	-			
受験者数	586 (-) [21]	-	631 (-) [24]	-	502 (12) [37]	-	600 (8) [37]	-			
合格者数	164 (-) [6]	-	167 (-) [8]	-	167 (5) [9]	-	166 (3) [7]	-			
B 入学者数	147 (-) [3]	-	154 (-) [4]	-	154 (2) [6]	-	150 (2) [2]	-			
入学定員超過率 B/A	1.01		1.06		1.06		1.03				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度				備 考		
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
1年次	147 [3] (-)	- [-] (-)	154 [4] (-)	- [-] (-)	154 [6] (-)	- [-] (-)	150 [2] (-)	- [-] (-)			編入学生数 H30: 2名(3年) H31: 2名(3年)、2名(4年)		
2年次	/		147 [3] (-)	- [-] (-)	153 [4] (-)	- [-] (-)	152 [6] (-)	- [-] (-)					
3年次			/		/		148 [3] (-)	- [-] (-)	155 [4] (-)	- [-] (-)			
4年次							/		/			147 [3] (-)	- [-] (-)
計			147 [3] (-)	301 [7] (-)	455 [13] (-)	604 [15] (-)							

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	147 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
平成29年度	301 人	2 人	平成28年度	1 人	0 人	一身上の都合(1人)
			平成29年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)
平成30年度	455 人	3 人	平成28年度	1 人	0 人	就職(1人)
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	2 人	0 人	他の教育機関への受験(1人)、死亡(1人)
令和元年度	604 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人	
			平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
合 計		5 人		5 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{147} = \boxed{0} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{301} = \boxed{0.66} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{455} = \boxed{0.65} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{604} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工学部 情報工学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手			
学科共通科目	コンピュータ入門	1後	2			1	2						
	プログラミングⅠ	1後	2			1	1					1	
	確率	1後	2			1	2						
	プログラミングⅡ	2前	2			1	3					2	
ネットワー	プログラミングⅢ	2後	2				2						1
	情報工学概論	1前	2				2						1
	デジタル回路	1前	2				2						1
	情報数学Ⅰ	1後	2			1	1						2
基盤情報	情報数学Ⅱ	2前	2			1	1						2
	コンピュータアーキテクチャⅠ	2前	2				2						1
	情報理論	2前	2			1	1						1
	データ構造とアルゴリズム	2前	2			1	1						1
	フーリエ解析	2前	2			2	1						1
	形式言語とオートマトン	2後	2				2						1
	情報工学概論	1前	2				2						1
	デジタル回路	1前	2				2						1
	情報数学Ⅰ	1後	2			1	1						2
	情報数学Ⅱ	2前	2			1	1						2
メディア情報	コンピュータアーキテクチャⅠ	2前	2				2						1
	情報理論	2前	2			1	1						1
	データ構造とアルゴリズム	2前	2			1	1						1
	フーリエ解析	2前	2			2	1						1
	形式言語とオートマトン	2後	2				2						1
	情報工学概論	1前	2				2						1
	デジタル回路	1前	2				2						1
	情報数学Ⅰ	1後	2			1	1						2
	情報数学Ⅱ	2前	2			1	1						2
	コンピュータアーキテクチャⅠ	2前	2				2						1
ネットワー	情報理論	2前	2			1	1						1
	データ構造とアルゴリズム	2前	2			1	1						1
	フーリエ解析	2前	2			2	1						1
	形式言語とオートマトン	2後	2				2						1
	オペレーティングシステム	2後	2			1							1
	コンピュータアーキテクチャⅡ	2後	2			1	1						1
	データサイエンス	2後	2			2							2
	科学技術計算	2後	2			2	1						1
	情報ネットワーク	3前	2			2	2						2
	情報通信技術政策	3前	2			1	1						1
	ソフトウェア工学	3前	2										1
	パターン認識	3前	2										1
	プログラミング応用	3前	2				1						2
	画像情報処理	3前	2			1							1
	ソフトウェア工学セミナーⅠ	3前	2			1	1						1
	ソフトウェア工学セミナーⅡ	3後	2			1	1						1
	情報セキュリティ	3後	2			1	1						1
	音声情報処理	3後	2			2							1
	情報工学特別講義	3後	1			1	1						1
	データベース論	3後	2			1							1
微分方程式	4前	2			2							1	
計算幾何学	2後	2			1							1	
コンパイル	2後	2				1						2	
システムプログラム	2後	2			1							1	
信号処理	2後	2										1	
電気電子回路	3前	2				1						1	
プログラミング言語論	3前	2										1	
分散システム論	3後	2			1							1	
知識表現と推論	3後	2										1	
専門教育科目	オペレーティングシステム	2後	2			1							1
	コンピュータアーキテクチャⅡ	2後	2			1	1						1
	データサイエンス	2後	2			2							2
	科学技術計算	2後	2			2	1						1
	情報ネットワーク	3前	2			2	2						2
	情報通信技術政策	3前	2			1	1						1
	ソフトウェア工学	3前	2										1
	パターン認識	3前	2										1
	プログラミング応用	3前	2				1						2
	画像情報処理	3前	2			1							1
	ソフトウェア工学セミナーⅠ	3前	2			1	1						1
	ソフトウェア工学セミナーⅡ	3後	2			1	1						1
	情報セキュリティ	3後	2			1	1						1
	音声情報処理	3後	2			2							1
	情報工学特別講義	3後	1			1	1						2
	データベース論	3後	2			1							2
	微分方程式	4前	2			2							1
	知識表現と推論	2後	2										1
	知能処理学	2後	2			1	1						2
	機械学習論	3前	2			1							1
ウェビリティ	3前	2			1							1	
マルチエージェントシステム	3前	2										1	
知識システム	3後	2			1							1	
知能ロボット制御論	3後	2										1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手			
学科共通科目	コンピュータ入門	1後	2							3			
	プログラミングⅠ	1後	2							2			1
	確率	1後	2							2			1
	プログラミングⅡ	2前	2							3			
ネットワー	プログラミングⅢ	2後	2							2			1
	情報工学概論	1前	2							3			
	デジタル回路	1前	2							1	2		
	情報数学Ⅰ	1後	2			1	1						2
基盤情報	情報数学Ⅱ	2前	2			1	1						1
	コンピュータアーキテクチャⅠ	2前	2				2						1
	情報理論	2前	2			1	1						1
	データ構造とアルゴリズム	2前	2			1	1						1
	フーリエ解析	2前	2			2	1						1
	形式言語とオートマトン	2後	2				2						1
	情報工学概論	1前	2				2						1
	デジタル回路	1前	2				2						2
	情報数学Ⅰ	1後	2			1	1						2
	情報数学Ⅱ	2前	2			1	1						1
メディア情報	コンピュータアーキテクチャⅠ	2前	2				2						1
	情報理論	2前	2			1	1						1
	データ構造とアルゴリズム	2前	2			1	1						1
	フーリエ解析	2前	2			2	1						1
	形式言語とオートマトン	2後	2				2						1
	情報工学概論	1前	2				2						1
	デジタル回路	1前	2				2						2
	情報数学Ⅰ	1後	2			1	1						2
	情報数学Ⅱ	2前	2			1	1						1
	コンピュータアーキテクチャⅠ	2前	2				2						1
ネットワー	情報理論	2前	2			1	1						1
	データ構造とアルゴリズム	2前	2			1	1						1
	フーリエ解析	2前	2			2	1						1
	形式言語とオートマトン	2後	2				2						1
	オペレーティングシステム	2後	2			1							1
	コンピュータアーキテクチャⅡ	2後	2			1	1						1
	データサイエンス	2後	2			2							2
	科学技術計算	2後	2			2	1						1
	情報ネットワーク	3前	2			2	2						2
	情報通信技術政策	3前	2			1	1						1
	ソフトウェア工学	3前	2										1
	パターン認識	3前	2										1
	プログラミング応用	3前	2				1						2
	画像情報処理	3前	2			1							1
	ソフトウェア工学セミナーⅠ	3前	2			1	1						1
	ソフトウェア工学セミナーⅡ	3後	2			1	1						1
	情報セキュリティ	3後	2			1	1						1
	音声情報処理	3後	2			2							1
	情報工学特別講義	3後	1			1	1						2
	データベース論	3後	2			1							2
微分方程式	4前	2			2							1	
計算幾何学	2後	2			1							1	
コンパイル	2後	2				1						2	
システムプログラム	2後	2			1							1	
信号処理	2後	2										1	
電気電子回路	3前	2				1						1	

リテラシー	労働者管理基礎論	2後		2																3	
	ものづくりとデザイン	2後		2																19	
	産業社会	コミュニティと技術	2後・3前		2				1												11
		男女共同参画社会論	2後・3前		2																2
		企業経営	2後・3前		2																1
	食糧工学	3前			2															12	
	キャリアデザイン	3前			2															1	
	グローバル・バシコム・ニケイ	Academic English I	1前	2																	13
		Academic English II	1後	2																	13
		English Seminar I	1前	1																	13
English Seminar II		1後	1																	13	
Academic English III		2前	2																	12	
Academic English IV		2後		2																12	
Global English I		3前	1																	3	
Global English II	3後	1																	3		
健康運動科学	体育実技 I	1前	1																	5	
	体育実技 II	1後	1																	5	
	健康運動科学演習A	1前		1			1													13	
	健康運動科学演習B	1後		1																7	
留学生科目	専門基礎科学 I	1前		2																1	
	専門基礎科学 II	1後		2																1	
	日本語表現法	1前		2																1	
	日本語日本文化	1前		2																1	
日本語日本社会	1後		2																1		
小計 (71科目)	-		26	111	0	10	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	##	
合計 (190科目)	-	144	234	0	11	17	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	##	

卒業要件及び履修方法

(卒業要件)
次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。

○共通科目
以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。
人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたる8単位以上
自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上
産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上
グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上
健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上

○専門教育科目
以下の要件を満たす74単位以上を学科の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。
学科共通科目 すべての必修科目
基盤科目 選択したコースのすべての必修科目
展開科目 選択したコースのすべての必修科目
実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目
実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位

ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学科の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)

(履修方法)
入学後、共通科目の履修と共に学科共通科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。

リテラシー	労働者管理基礎論	3前																		1	
	ものづくりとデザイン	2後		2																21	
	産業社会	自治体行政	2後		2																1
		コミュニティと技術	2後・3前		2				1												9
		男女共同参画社会論	2後・3前		2																2
	企業経営	2後・3前		2																1	
	キャリア・コミュニケーション論	2後・3前		2																1	
	衝動創造論	2後・3前		2																1	
	食糧工学	3前			2															5	
	キャリアデザイン	3前			2															1	
グローバル・バシコム・ニケイ	Academic English I	1前	2																	15	
	Academic English II	1後	2																	15	
	English Seminar I	1前	1																	15	
	English Seminar II	1後	1																	15	
	Academic English III	2前	2																	13	
	Academic English IV	2後		2																6	
	Global English I	3前	1																	1	
Global English II	3後	1																	1		
健康運動科学	体育実技 I	1前	1																	6	
	体育実技 II	1後	1																	6	
	健康運動科学演習A	1前		1																15	
	健康運動科学演習B	1後		1																8	
留学生科目	専門基礎科学 I	1前		2																1	
	専門基礎科学 II	1後		2																1	
	日本語表現法	1前		2																1	
	日本語日本文化	1前		2																1	
日本語日本社会	1後		2																1		
小計 (74科目)	-		26	117	0	13	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	##	
合計 (195科目)	-	144	240	0	17	18	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	##	

卒業要件及び履修方法

(卒業要件)
次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。

○共通科目
以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。
人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたる8単位以上
自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上
産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上
グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上
健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上

○専門教育科目
以下の要件を満たす74単位以上を学科の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。
学科共通科目 すべての必修科目
基盤科目 選択したコースのすべての必修科目
展開科目 選択したコースのすべての必修科目
実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目
実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位

ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学科の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)

(履修方法)
入学後、共通科目の履修と共に学科共通科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科共通科目	コンピュータ入門	1後	2			1	2						1
	プログラミングⅠ	1後	2			1	1						
	確率	1後	2			1	2						1
	プログラミングⅡ	2前	2			1	3						2
	プログラミングⅢ	2後	2			2	2						1
基礎情報	情報工学概論	1前	2			2							1
	デジタル回路	1前	2				2						1
	情報数学Ⅰ	1後	2			1							2
	情報数学Ⅱ	2前	2			1	1						1
	コンピュータアーキテクチャⅠ	2前	2				2						1
	情報理論	2前	2			1	1						1
	データ構造とアルゴリズム	2前	2			1	1						1
フーリエ解析	2前	2			2	1							
形式言語とオートマトン	2後	2				2							1
メデム情報	情報工学概論	1前	2			2							1
	デジタル回路	1前	2				2						1
	情報数学Ⅰ	1後	2			1							2
	情報数学Ⅱ	2前	2			1	1						1
	コンピュータアーキテクチャⅠ	2前	2				2						1
	情報理論	2前	2			1	1						1
	データ構造とアルゴリズム	2前	2			1	1						1
フーリエ解析	2前	2			2	1							
形式言語とオートマトン	2後	2				2							1
ネットワーキング	オペレーティングシステム	2後	2			1							
	コンピュータアーキテクチャⅡ	2後	2			1	1						
	データサイエンス	2後	2			2							
	科学技術計算	2後	2			2	1						
	情報ネットワーク	3前	2			2							1
	情報通信技術政策	3前	2			1	1						
	ソフトウェア工学	3前	2										1
	パターン認識	3前	2										1
	プログラミング応用	3前	2				1						2
	画像情報処理	3前	2			1							
	ソフトウェア工学セミナーⅠ	3前	2			1	1						1
	ソフトウェア工学セミナーⅡ	3後	2			1	1						1
	情報セキュリティ	3後	2			1	1			1			1
	音声情報処理	3後	2										1
	情報工学特別講義	3後	1			1	1						1
	データベース論	3後	2			1							1
	微分方程式	4前	2			1							
専門教育科目	オペレーティングシステム	2後	2			1							
	コンピュータアーキテクチャⅡ	2後	2			1	1						
	データサイエンス	2後	2			2							
	科学技術計算	2後	2			2	1						
	情報ネットワーク	3前	2			2							1
	情報通信技術政策	3前	2			1	1						
	ソフトウェア工学	3前	2										1
	パターン認識	3前	2										1
	プログラミング応用	3前	2				1						2
	画像情報処理	3前	2			1							
	ソフトウェア工学セミナーⅠ	3前	2			1	1						1
	ソフトウェア工学セミナーⅡ	3後	2			1	1						1
	情報セキュリティ	3後	2			1	1						1
	音声情報処理	3後	2										1
	情報工学特別講義	3後	1			1	1						1
	データベース論	3後	2			1							1
	微分方程式	4前	2			1							
展開科目	知識表現と推論	2後	2										1
	知能処理学	2後	2			1	1						1
	機械学習論	3前	2			1							
	ウェブインテリジェンス	3前	2			1							1
	マルチエージェントシステム	3前	2			2							1
	知識システム	3後	2			1							1
	知能ロボット制御論	3後	2										1

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科共通科目	コンピュータ入門	1後	2						3				
	プログラミングⅠ	1後	2					1	1				1
	確率	1後	2						3				
	プログラミングⅡ	2前	2						3				2
	プログラミングⅢ	2後	2						1				
基礎情報	情報工学概論	1前	2						3				
	デジタル回路	1前	2						2				1
	情報数学Ⅰ	1後	2			1							2
	情報数学Ⅱ	2前	2			1							1
	コンピュータアーキテクチャⅠ	2前	2				2						1
	情報理論	2前	2			1	1						1
	データ構造とアルゴリズム	2前	2			1	1						1
フーリエ解析	2前	2			2	1							
形式言語とオートマトン	2後	2				2		2	1				
メデム情報	情報工学概論	1前	2						3				
	デジタル回路	1前	2						2				1
	情報数学Ⅰ	1後	2			1							2
	情報数学Ⅱ	2前	2			1							1
	コンピュータアーキテクチャⅠ	2前	2				2						1
	情報理論	2前	2			1	1						1
	データ構造とアルゴリズム	2前	2			1	1						1
フーリエ解析	2前	2			2	1							
形式言語とオートマトン	2後	2				2		2	1				
ネットワーキング	オペレーティングシステム	2後	2						1				
	コンピュータアーキテクチャⅡ	2後	2							2			
	データサイエンス	2後	2			2				2			
	科学技術計算	2後	2			2	1						
	情報ネットワーク	3前	2			2							1
	情報通信技術政策	3前	2			1	1						
	ソフトウェア工学	3前	2										1
	パターン認識	3前	2										1
	プログラミング応用	3前	2				1						2
	画像情報処理	3前	2			1							
	ソフトウェア工学セミナーⅠ	3前	2			1	1						1
	ソフトウェア工学セミナーⅡ	3後	2			1	1						1
	情報セキュリティ	3後	2			1	1			1			1
	音声情報処理	3後	2										1
	情報工学特別講義	3後	1			1	1						1
	データベース論	3後	2			1							1
	微分方程式	4前	2			1							
展開科目	オペレーティングシステム	2後	2						1				
	コンピュータアーキテクチャⅡ	2後	2							2			
	データサイエンス	2後	2			2				2			
	科学技術計算	2後	2			2	1						
	情報ネットワーク	3前	2			2							1
	情報通信技術政策	3前	2			1	1						
	ソフトウェア工学	3前	2										1
	パターン認識	3前	2										1
	プログラミング応用	3前	2				1						2
	画像情報処理	3前	2			1							
	ソフトウェア工学セミナーⅠ	3前	2			1	1			2			1
ソフトウェア工学セミナーⅡ	3後	2			1	1			2			1	
情報セキュリティ	3後	2			1	1				1		1	
音声情報処理	3後	2										1	
情報工学特別講義	3後	1			1	1			2			1	
データベース論	3後	2			1				2			1	
微分方程式	4前	2			1								
知能処理学	2後	2			1	1						1	
機械学習論	3前	2			1								
ウェブインテリジェンス	3前	2			1							1	
マルチエージェントシステム	3前	2			2							1	
知識システム	3後	2			1					1		1	
知能ロボット制御論	3後	2								2		1	

リテラシー	労働者管理基礎論	3前																		3
	ものづくりとデザイン	2後																		19
	自治体行政	2後																		1
	コミュニティと技術	2後・3前							1											11
	男女共同参画社会論	2後・3前																		2
	企業経営	2後・3前																		1
	キャリア・コミュニケーション論	2後・3前																		1
	食糧工学	3前																		12
	キャリアデザイン	3前																		1
	グローバルコミュニケーション	Academic English I	1前	2																
Academic English II		1後	2																	13
English Seminar I		1前	1																	13
English Seminar II		1後	1																	13
Academic English III		2前	2																	12
Academic English IV		2後		2																12
健康運動科学	Global English I	3前																		3
	Global English II	3後																		3
	体育実技 I	1前	1																	5
健康運動科学	体育実技 II	1後	1																	5
	健康運動科学演習A	1前		1					1											13
健康運動科学	健康運動科学演習B	1後		1																7
	専門基礎科学 I	1前		2																1
健康運動科学	専門基礎科学 II	1後		2																1
	日本語表現法	1前		2																1
健康運動科学	日本語日本文化	1前		2																1
	日本語日本社会	1後		2																1
小計 (73科目)		-	-	26	115	0	10	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	##
合計 (194科目)		-	-	144	238	0	11	17	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	##

卒業要件及び履修方法

(卒業要件)
次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。
○共通科目
以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。
人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上
自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上
産学・経営リテラシー科目 産学論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上
グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上
健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上
○専門教育科目
以下の要件を満たす74単位以上を学部の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。
学科学科科目 すべての必修科目
基盤科目 選択したコースのすべての必修科目
展開科目 選択したコースのすべての必修科目
実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目
実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位

ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学部の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)

(履修方法)
入学後、共通科目の履修と共に学科学科科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。

リテラシー	労働者管理基礎論	3前																		3
	ものづくりとデザイン	2後																		20
	自治体行政	2後																		1
	コミュニティと技術	2後・3前																		11
	男女共同参画社会論	2後・3前																		2
	企業経営	2後・3前																		1
	キャリア・コミュニケーション論	2後・3前																		1
	食糧工学	3前																		12
	キャリアデザイン	3前																		1
	グローバルコミュニケーション	Academic English I	1前	2																
Academic English II		1後	2																	14
English Seminar I		1前	1																	14
English Seminar II		1後	1																	14
Academic English III		2前	2																	14
Academic English IV		2後		2																10
健康運動科学	Global English I	3前																		2
	Global English II	3後																		2
	体育実技 I	1前	1																	6
健康運動科学	体育実技 II	1後	1																	6
	健康運動科学演習A	1前		1																14
健康運動科学	健康運動科学演習B	1後		1																8
	専門基礎科学 I	1前		2																1
健康運動科学	専門基礎科学 II	1後		2																1
	日本語表現法	1前		2																1
健康運動科学	日本語日本文化	1前		2																1
	日本語日本社会	1後		2																1
小計 (73科目)		-	-	26	115	0	10	14	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	##
合計 (194科目)		-	-	144	238	0	14	17	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	##

卒業要件及び履修方法

(卒業要件)
次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。
○共通科目
以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。
人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上
自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上
産学・経営リテラシー科目 産学論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上
グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上
健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上
○専門教育科目
以下の要件を満たす74単位以上を学部の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。
学科学科科目 すべての必修科目
基盤科目 選択したコースのすべての必修科目
展開科目 選択したコースのすべての必修科目
実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目
実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位

ただし、履修上必要な場合は他のコース及び他の学部の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)

(履修方法)
入学後、共通科目の履修と共に学科学科科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成28年度】

・履修機会の拡充のため、「管理工学」の配当年次を「3後」から「3前・後」に変更。
 ・開講年次の適正化のため、「労働者管理基礎論」の配当年次を「2後」から「3前」に変更。
 ・教育課程の充実のため、「信等処理」を追加。
 ・教育課程の充実のため、「自治体行政」「キャリア・コミュニケーション論」を追加。

【平成29年度】

・担当教員の見直しのため、「コンピュータ入門」「確率」「プログラミングⅡ」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

【平成30年度】

・担当教員の見直しのため、「プログラミングⅠ」「情報セキュリティ」「プログラミング言語論」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

【令和元年度】

・教育課程の充実のため、「倫徳創造論」を追加。
 ・担当教員の見直しのため、「データ構造とアルゴリズム」「フーリエ解析」「実践研究セミナー」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

(注) ・ 2 (1) 一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
70 科目	120 科目	0 科目	190 科目	72 科目	123 科目	0 科目	195 科目	
				[2]	[3]	[0]	[5]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{190} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
	校舎敷地	159,206㎡	0㎡	0㎡	159,206㎡			
	運動場用地	44,982㎡	0㎡	0㎡	44,982㎡			
	小 計	204,188㎡	0㎡	0㎡	204,188㎡			
	そ の 他	14,182㎡	0㎡	0㎡	14,182㎡			
	合 計	218,370㎡	0㎡	0㎡	218,370㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	128,980㎡ (128,980㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	128,980㎡ (128,980㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	56室	170室	181室	7室 (補助職員 7人)	6室 (補助職員 3人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			人事異動等に伴い、研究室を整理したため。 (元)		
	工学部 情報工学科		144 129 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	
		冊	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	工学部	461,783 [205,740] (461,783 [205,740])	12,933 [10,409] (12,933 [10,409])	7,343 [7,242] (7,343 [7,242])	1,311 (1,311)	0 (0)	0 (0)	
	計	461,783 [205,740] 461,783 [205,740]	12,933 [10,409] 12,933 [10,409]	7,343 [7,242] (7,343 [7,242])	1,311 (1,311)	0 (0)	0 (0)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	5,595㎡		472		528,000			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	2,479㎡		グラウンド、テニスコート、プール、弓道場、馬場、ボート艇庫、ヨット艇庫					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋工業大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
【工学部】 (第一部)						1.04				
生命・応用化学科	4	210	3年次 2	844	学士(工学) 学士(学術)	1.03	-	平成28	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
物理工学科	4	105	3年次 2	424	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
電気・機械工学科	4	200	3年次 2	804	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
情報工学科	4	145	3年次 2	584	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
社会工学科	4	150	3年次 2	604	学士(工学) 学士(学術)	1.06	-	平成28	同上	
創造工学教育課程	4	100	-	400	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
生命・物質工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
環境材料工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
機械工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
電気電子工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
建築・デザイン工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
都市社会工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
(開設年度H16共通)			-	-						平成30年より 学生募集停止
(第二部)						1.15				
物質工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.16	-			
機械工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-			
電気情報工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.24	-			
社会開発工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.16	-			

【工学研究科】										
(博士前期課程)										
生命・応用化学専攻	2	165	-	330	修士(工学) 修士(学術)	1.11	-	平成28	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
物理学専攻	2	78	-	156	修士(工学) 修士(学術)	1.06	-	平成28	同上	
電気・機械工学専攻	2	138	-	276	修士(工学) 修士(学術)	1.56	-	平成28	同上	
情報工学専攻	2	110	-	220	修士(工学) 修士(学術)	1.21	-	平成28	同上	
社会工学専攻	2	95	-	180	修士(工学) 修士(学術)	1.25	-	平成28	同上	
物質工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
機能工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
社会工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
未来材料創成工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
創成シミュレーション工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
(博士後期課程)										
生命・応用化学専攻	3	9	-	27	博士(工学) 博士(学術)	1.10	-	平成28	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
物理学専攻	3	5	-	15	博士(工学) 博士(学術)	1.20	-	平成28	同上	
電気・機械工学専攻	3	9	-	27	博士(工学) 博士(学術)	1.10	-	平成28	同上	
情報工学専攻	3	7	-	21	博士(工学) 博士(学術)	0.66	-	平成28	同上	
社会工学専攻	3	7	-	21	博士(工学) 博士(学術)	1.51	-	平成28	同上	
共同ナノメーション科学専攻	3	3	-	9	博士 (ナノメーション科 学)	0.99	-	平成25	同上	
名古屋工業大学・ウーロンゴン大 学国際連携情報学専攻	3	2	-	6	博士(学術)	0.33	-	平成29	同上	
物質工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
機能工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
社会工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
未来材料創成工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
創成シミュレーション工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成28年度】

特になし。

【平成29年度】

- ・尾崎芳昭准教授退職に伴い、「化学結合論」について大北雅一准教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

【平成30年度】

- ・仁科健教授退職に伴い、「金融学」について川村大伸准教授に、「法工学」について渡辺研司教授に、「マーケティング」について藤田素弘教授に、「管理工学」について川村大伸准教授に変更。
- ・永淵康之教授退職に伴い、「人間社会ゼミナール」について川橋範子教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

【令和元年度】

- ・上野一男准教授退職に伴い、「フーリエ解析」について水澤靖准教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
10	5
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
11	17	0	11	39	17	18	0	10	45
(14)	(15)	(0)	(11)	(40)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
17	18	0	10	45	17	18	0	10	45
[6]	[1]	[0]	[△1]	[6]	[6]	[1]	[0]	[△1]	[6]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
63	2	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{45}{39} = \boxed{115.38} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{45} = \boxed{4.44} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1		該当なし					
2							
合計 (D)			後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1		該当なし					
2							
合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{0}{39} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	准教授	上野 一男	必修	フーリエ解析	①	退職のため(令和元年)
合計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		後任補充状況の集計		
				①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0 人	必修	1 科目	必修	1 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	1 科目	計	1 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員辞任等による学生の履修等への重大な影響は認められない。
各授業における担当教員情報についてはシラバスや授業時間割表にて周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (28年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (30年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (31年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工学部 情報工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	1～6の項目に記入した事項以外の変更なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>工学教育総合センターの創造教育開発オフィスにおいて、工学教育の質的向上に資することを目的として、ファカルティ・ディベロップメントの推進及び授業評価を行う教育機能開発部門を設置している。また全学的な視点からファカルティ・ディベロップメント活動の推進を図ることを目的として、平成29年11月1日より名古屋工業大学ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置した。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>工学教育総合センター会議を3回、ファカルティ・ディベロップメント委員会を1回、ファカルティ・ディベロップメント委員会専門部会を1回実施した。（約40名の教員が参加）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>全学のFDに関する基本方針の策定及び活動の総括、企画・立案・実施及び評価の総括等。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院共通科目のあり方について ・ 高等学校新課程「物理」・「英語」の現状について ・ 理工系の授業を英語でおこなうための実務とポイント ・ アクティブラーニングを推進する学習活動の「見えます化」 ・ 工学系人材育成のためのアクティブラーニング <p>b 実施方法</p> <p>チラシを作成し事前アナウンスを行い、時に学外講師を招いて実施している。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>平成30年度は「a 実施内容」の通り開催し、参加人数はそれぞれ、41名、30名、20名、15名、30名であった。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>各教員において、授業改善に取り組んでいる。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>前期末及び後期末において実施している。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>一般的な集計結果についてはHPにて公開し、授業科目ごとの詳細結果については個別に学内の授業評価システムにて公開している。</p>

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
現状把握と分析を行いつつ、全学評価室を中心に評価する予定である。
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表（予定）時期
・平成31年4月 公表
- b 公表方法
・大学ホームページ上に公開
- ③ 認証評価を受ける計画
・平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書（令和元年度）
- a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）
- b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年6月28日 ）
- b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋工業大学

(2) 大学名

名古屋工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒466-8555
愛知県名古屋市昭和区御器所町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(カイヒロキ) 鵜飼 裕之 (平成26年4月)	—	—
学部長	—	—	—
学科長等	マエダ ケンイチ 前田 健一 (平成28年4月)	ヨコヤマ ジュンシュウ 島 栄三 横山 淳 秀島 栄三 (平成30年4月平成31年4月)	平成30年3月31日 任期満了 平成30年4月1日 就任(30) 平成31年3月31日 任期満了 平成31年4月1日 就任(元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください）。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
工学部 社会工学科 学士(工学) 学士(学術)	工学関係	4年	150人	3年次 2人	604人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	150 (-) [-]	-	150 (-) [-]	-	150 (2) [-]	-	150 (2) [-]	-	1.06倍		
志願者数	725 (-) [29]	-	898 (-) [28]	-	828 (15) [30]	-	869 (8) [34]	-			
受験者数	528 (-) [26]	-	686 (-) [25]	-	641 (14) [23]	-	663 (7) [26]	-			
合格者数	175 (-) [9]	-	178 (-) [11]	-	172 (3) [7]	-	173 (3) [9]	-			
B 入学者数	155 (-) [3]	-	163 (-) [8]	-	164 (2) [3]	-	157 (3) [4]	-			
入学定員超過率 B/A	1.03		1.08		1.09		1.04				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度				備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
1年次	155 [3] (-)	- [-] (-)	163 [8] (-)	- [-] (-)	164 [3] (-)	- [-] (-)	157 [4] (-)	- [-] (-)			編入学生数 H30: 7名 (3年) H31: 5名 (3年)、7名 (4年)	
2年次	/		154 [3] (-)	- [-] (-)	162 [7] (-)	- [-] (-)	163 [3] (-)	- [-] (-)			転学科学生数 H31: 1名 (2年次)	
3年次			/		/		158 [8] (-)	- [-] (-)	167 [9] (-)	- [-] (-)		
4年次							/		/		158 [8] (-)	- [-] (-)
計			155 [3] (-)	317 [11] (-)	484 [18] (-)	645 [24] (-)						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	155 人	1 人	平成28年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)
平成29年度	317 人	4 人	平成28年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学(2人)、一身上の都合(1人)
			平成29年度	1 人	1 人	他の教育機関への入学(1人)
平成30年度	484 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	2 人	0 人	他の教育機関への入学(2人)
令和元年度	645 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人	
			平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
合 計		5 人		7 人	1 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{155} = \boxed{0.64} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{317} = \boxed{1.26} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{484} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{645} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置						単位数
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手			
学科共通科目	社会工学概論	1前	2			10	10						2
	社会工学基礎Ⅰ	1前	2			2	2		2				1
	社会工学基礎Ⅱ	1後	2			1	2						1
	社会工学基礎Ⅲ	1後	2			1	1						2
建築・デザイン	社会工学基礎Ⅳ	1後	2			2	2		1				2
	構造デザインⅠ	1後	2										1
	建築・デザインⅠ	2前	2			2							
	建築・デザイン計画学	2前	2				2						
	環境デザインⅠ	2前	2			1	1						
	構造デザインⅡ	2前	2			1							1
	建築構法学	2前	2			1	1						
	建築材料デザイン学	2前	2			1	1						1
	平面・立体構成	2後	2	2									
	都市デザイン学	2後	2			1							1
	環境デザインⅡ	2後	2				2						
	建築・デザインⅡ	2後	2			2							
	構造デザインⅢ	2後	2			1	1						
	ビジュアルデザイン	3前	2				1			1			
基盤科目	測量学	1前	2										1
	環境水理学Ⅰ	2前	2			1							
	環境生態学	2前	2										1
	構造力学Ⅰ	2前	2			1				1			
	構築材質学	2前	2				1						
	地盤力学	2前	2			1							
	社会基盤計画学	2前	2				1						
	環境水理学Ⅱ	2後	2			1							1
	構造力学Ⅱ	2後	2			1							
	コンクリート構造学	2後	2			1							
	地盤解析学	2後	2			1							
	環境都市技術者倫理	3前	2			2							
	構造シミュレーション	3前	2										2
	交通環境計画学	3前	2			1							
経営システム	経営環境	2前	2			1	1						1
	システムマネジメント論	2前	2				1		1				
	数理計画	2前	2				1						
	プログラムデザイン	2前	2				1						
	確率・統計	2前	2			2				1			
	経営心理行動科学	2前	2			1	1						
	社会セキュリティ・マネジメント	2前	2				1						1
	生産管理	2後	2				1				1		
	マーケティング戦略	2後	2						1				
	品質管理	2後	2			1					1		
建築・デザイン	コンクリート材料学	2後	2			2			1				
	建築法規・行政	2後	2				1			1			1
	建築空間計画学	3前	2			1							
	現代建築論	3前	2										1
	建築歴史意匠学	3前	2			2	1						1
	荷重・振動学	3前	2			1	1						1
	鉄筋コンクリート構造学	3前	2			1							1
	耐用設計論	3前	2			1	2				2		3
	建築設備学	3前	2				1						
	ユニバーサルデザイン論	3前	2			2	2		1				1
	住文化論	3前	2			2							
	建築保存修復学	3後	2			1							
	耐震設計学	3後	2				1						
	鉄骨構造学	3後	2										1
都市環境学	3後	2				1							
建築設備設計論	3後	2				1				2		1	
建築施工学	3後	2			1							2	
環境デザインⅢ	3後	2										1	
メディアデザイン論	3後	2				1			1				
ランドスケープデザイン論	3後	2										3	
専門教育科目	維持管理工学	3前	2										
	環境地盤工学	3前	2			2	1						
	構造設計学	3前	2			1							
	都市・地域計画学	3前	2										2
	防災地質学	3前	2			2	1						1
	水域防災工学	3前	2				1						1
	建設マネジメント	3後	2										11
	交通システム工学	3後	2			1							1
	地震リスク工学	3後	2										1
	耐震工学	3後	2			3							
	橋工学	3後	2				1						
	流域環境工学	3後	2			1							
	人間工学	2後	2				1				1		
	プロジェクトマネジメント	2後	2			1							
モデリング	2後	2			1								
確率モデル	2後	2			1								
グローバル経営戦略	3前	2				1							
経営分析	3前	2										1	
組織行動論	3前	2			1								
ヒューマンファクターズ	3前	2				1							
工場管理	3前	2				1							
社会インフラマネジメント	3前	2										1	
最適化アルゴリズム	3前	2			1								
制御工学	3前	2			1								
創造的問題解決論	3後	2			2	2				2		2	
サービスマネジメント	3後	2			1								
経済性工学	3後	2				1							
ダイバーシティ・マネジメント	3後	2										1	
データサイエンス	3後	2			1							1	

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置						単位数
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手			
学科共通科目	社会工学概論	1前	2				11	9					1
	社会工学基礎Ⅰ	1前	2				1	1			2		2
	社会工学基礎Ⅱ	1後	2				2	2					1
	社会工学基礎Ⅲ	1後	2				1	1			1		2
	社会工学基礎Ⅳ	1後	2				2	2			3		1
	建築・デザイン	構造デザインⅠ	1後	2									
建築・デザインⅠ		2前	2			2							
建築・デザイン計画学		2前	2					2					
環境デザインⅠ		2前	2						3				
構造デザインⅡ		2前	2				1						1
建築構法学		2前	2					1					
建築材料デザイン学		2前	2				1	1					1
平面・立体構成		2後	2	2									
都市デザイン学		2後	2			1							1
環境デザインⅡ		2後	2					2					
建築・デザインⅡ		2後	2			2		2					
構造デザインⅢ		2後	2			1	1						
ビジュアルデザイン		3前	2				1				1		
基盤科目		測量学	1前	2									
	環境水理学Ⅰ	2前	2			1							
	環境生態学	2前	2										1
	構造力学Ⅰ	2前	2			1				1			1
	構築材質学	2前	2				1						
	地盤力学	2前	2			1							
	社会基盤計画学	2前	2				1						
	環境水理学Ⅱ	2後	2			1							1
	構造力学Ⅱ	2後	2			1							
	コンクリート構造学	2後	2			1							
	地盤解析学	2後	2			1							
	環境都市技術者倫理	3前	2			2							
	構造シミュレーション	3前	2										2
	交通環境計画学	3前	2			1							
経営システム	経営環境	2前	2					1					1
	システムマネジメント論	2前	2				1		1				
	数理計画	2前	2				1						
	プログラムデザイン	2前	2				1						
	確率・統計	2前	2			2		1	1				
	経営心理行動科学	2前	2			1	1						
	社会セキュリティ・マネジメント	2前	2				1						1
	生産管理	2後	2				1				1		
	マーケティング戦略	2後	2					1					
	品質管理	2後	2			1				1			
建築・デザイン	コンクリート材料学	2後	2			2		1					
	建築法規・行政	2後	2				1			1			1
	建築空間計画学	3前	2			1							
	現代建築論	3前	2										1
	建築歴史意匠学	3前	2			2	1						1
	荷重・振動学	3前	2										

産業論		2後	2			1			5	
産業・経営リテラシー	金融学	3前	2		1				5	
	法工学	3前・後	2		3	1			6	
	知的財産権	3前・後	2						2	
	マーケティング	3前・後	2		1				1	
	経営戦略	3前・後	2			1			1	
	政策科学	3前・後	2						2	
	会計学	3前・後	2						1	
	工学倫理	3前・後	2						1	
	管理工学	3前・後	2		7	4		2	3	
	労働者管理基礎論	3前	2						3	
産業社会	ものづくりとデザイン	2前	2		5	6		4	4	
	自治体行政	2後	2						1	
	コミュニティと技術	2後・3前	2		2				10	
	男女共同参画社会論	2後・3前	2						2	
	企業経営	2後・3前	2		1				1	
	キャリア・コミュニケーション論	2後・3前	2						1	
	食糧工学	3前	2						12	
	キャリアデザイン	3前	2						1	
	グローバルコミュニケーション	Academic English I	1前	2						13
		Academic English II	1後	2						13
English Seminar I		1前	1						13	
English Seminar II		1後	1						13	
Academic English III		2前	2						12	
Academic English IV		2後	2						12	
Global English I		3前	1						3	
Global English II		3後	1						3	
健康運動科学	体育実技 I	1前	1						4	
	体育実技 II	1後	1						4	
	健康運動科学演習A	1前	1		1				13	
	健康運動科学演習B	1後	1						7	
留学生科目	専門基礎科学 I	1前	2						1	
	専門基礎科学 II	1後	2						1	
	日本語表現法	1前	2						1	
	日本語日本文化	1前	2						1	
日本語日本社会	1後	2						1		
小計 (75科目)	-	23	119	0	14	14	0	11	0	
合計 (204科目)	-	140	241	0	14	14	0	13	0	

卒業要件及び履修方法

(卒業要件)
次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。
○共通科目
以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。
人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上
自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上
産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上
グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上
健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上
○専門教育科目
以下の要件を満たす74単位以上を学部の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。
学科学習科目 すべての必修科目
基盤科目 選択したコースのすべての必修科目
展開科目 選択したコースのすべての必修科目
実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目
実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位
ただし、履修に必要な場合は他のコース及び他の学部の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)
(履修方法)
入学後、共通科目の履修と共に学科学習科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。

産業論		2後	2			1			5	
産業・経営リテラシー	金融学	3前	2		1				5	
	法工学	3前・後	2		3	1			7	
	知的財産権	3前・後	2						2	
	マーケティング	3前・後	2		1				1	
	経営戦略	3前・後	2			1			1	
	政策科学	3前・後	2						2	
	会計学	3前・後	2						1	
	工学倫理	3前・後	2						1	
	管理工学	3前・後	2		7	4		2	4	
	労働者管理基礎論	3前	2						3	
産業社会	ものづくりとデザイン	2前	2		5	6		2	4	
	自治体行政	2後	2						1	
	コミュニティと技術	2後・3前	2		2				10	
	男女共同参画社会論	2後・3前	2						2	
	企業経営	2後・3前	2		1				1	
	キャリア・コミュニケーション論	2後・3前	2						1	
	食糧工学	3前	2						12	
	キャリアデザイン	3前	2						1	
	グローバルコミュニケーション	Academic English I	1前	2						14
		Academic English II	1後	2						14
English Seminar I		1前	1						14	
English Seminar II		1後	1						14	
Academic English III		2前	2						14	
Academic English IV		2後	2						9	
Global English I		3前	1						2	
Global English II		3後	1						2	
健康運動科学	体育実技 I	1前	1						6	
	体育実技 II	1後	1						6	
	健康運動科学演習A	1前	1		1				12	
	健康運動科学演習B	1後	1						8	
留学生科目	専門基礎科学 I	1前	2						1	
	専門基礎科学 II	1後	2						1	
	日本語表現法	1前	2						1	
	日本語日本文化	1前	2						1	
日本語日本社会	1後	2						1		
小計 (75科目)	-	23	119	0	18	16	0	6	0	
合計 (204科目)	-	140	241	0	18	16	0	13	0	

卒業要件及び履修方法

(卒業要件)
次の要件を満たし、総数124単位以上を修得すること。
○共通科目
以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。
人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上
自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上
産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上
グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上
健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上
○専門教育科目
以下の要件を満たす74単位以上を学部の共通科目及び選択したコースの基盤科目、展開科目、実験・演習科目から修得すること。
学科学習科目 すべての必修科目
基盤科目 選択したコースのすべての必修科目
展開科目 選択したコースのすべての必修科目
実験・演習科目 選択したコースのすべての必修科目
実践研究セミナー2単位、卒業研究8単位
ただし、履修に必要な場合は他のコース及び他の学部の専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究を除く。)を20単位まで履修し、これを専門教育科目の単位として認める(自己設計科目)
(履修方法)
入学後、共通科目の履修と共に学科学習科目を学ばせ、2年開始時までに分野を決定させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。分野決定後は、各分野の必修科目、選択科目、実験・演習科目を順に学び、専門性を身に付けさせる。また、幅広い工学分野に触れるため、自己設計科目として工学部の全専門教育科目から自由選択させる。3年の履修の後、所定の単位要件を満たした学生は卒業研究を履修する。

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科共通科目	社会学概論	1前	2			10	12			1		1
	社会学基礎Ⅰ	1前	2			1	2			2		2
	社会学基礎Ⅱ	1後	2			2	2					2
	社会学基礎Ⅲ	1後	2			1	1					2
	社会学基礎Ⅳ	1後	2			1	3			1		1
建築・デザイン	構造デザインⅠ	1後	2									1
	建築・デザイン史Ⅰ	2前	2			2						
	建築・デザイン計画学	2前	2				2					
	環境デザインⅠ	2前	2				3					
	構造デザインⅡ	2前	2			1						1
	建築構法学	2前	2				1					
	建築材料デザイン学	2前	2			1	1					1
	平面・立体構成	2後	2	2								
	都市デザイン学	2後	2									1
	環境デザインⅡ	2後	2				2					
	建築・デザイン史Ⅱ	2後	2	2		2						
	構造デザインⅢ	2後	2	2		1	1					
	ビジュアルデザイン	3前	2	2			1			1		
環境都市	測量学	1前	2									1
	環境水理学Ⅰ	2前	2			1						
	環境生態学	2前	2									1
	構造力学Ⅰ	2前	2									1
	構築材質学	2前	2				1					
	地盤力学	2前	2			1						
	社会基盤計画学	2前	2				1					
	環境水理学Ⅱ	2後	2			1						
	構造力学Ⅱ	2後	2			1						
	コンクリート構造学	2後	2			1	1					
	地盤解析学	2後	2			1						
	環境都市技術者倫理	3前	2			2						
	構造シミュレーション	3前	2			1				1		
交通環境計画学	3前	2			1							
経営システム	経営環境	2前	2				1					1
	システムマネジメント論	2前	2									1
	数理計画	2前	2			1						
	プログラムデザイン	2前	2			1						
	確率・統計	2前	2			1	1					
	経営心理行動科学	2前	2			1	1					
	社会セキュリティ・マネジメント	2前	2									2
	生産管理	2後	2				2					
	マーケティング戦略	2後	2			2	2					
	品質管理	2後	2				1					
建築・デザイン	コンクリート材料学	2後	2			1						
	建築法規・行政	2後	2				1					1
	建築空間計画学	3前	2			1						
	現代建築論	3前	2									1
	建築歴史意匠学	3前	2			1	1					1
	荷重・振動学	3前	2			1	1					1
	鉄筋コンクリート構造学	3前	2			1	1					
	耐用設計論	3前	2			1	2					
	建築設備学	3前	2			1	1					
	ユニバーサルデザイン論	3前	2			1	2			1		
	住文化論	3前	2			1						
	建築保存修復学	3後	2			1						
	耐震設計学	3後	2				1					
	鉄骨構造学	3後	2									1
	都市環境学	3後	2				1					
	建築設備設計論	3後	2				1					
	建築施工学	3後	2			1						2
環境デザインⅢ	3後	2									1	
メディアデザイン論	3後	2				1			1			
ランドスケープデザイン論	3後	2									1	
環境都市	維持管理工学	3前	2				1					
	環境地盤工学	3前	2			1						
	構造設計学	3前	2			1						
	都市・地域計画学	3前	2									1
	防災地質学	3前	2			1						
	水域防災工学	3前	2			2						
	建設マネジメント	3後	2									1
	交通システム工学	3後	2			1						1
	地震リスク工学	3後	2									1
	耐震工学	3後	2			3						
橋工学	3後	2				1						
流域環境工学	3後	2				1						
経営システム	人間工学	2後	2				1					
	プロジェクトマネジメント	2後	2			1						
	モデリング	2後	2			1						
	確率モデル	2後	2			1						
	グローバル経営戦略	3前	2				1					
	経営分析	3前	2									1
	組織行動論	3前	2			1						
	ヒューマンファクターズ	3前	2				1					
	工場管理	3前	2				1					
	社会インフラマネジメント	3前	2									1
	最適化アルゴリズム	3前	2			1						
	制御工学	3前	2			1						
	創造的問題解決論	3後	2			1	2					1
サービスマネジメント	3後	2			1							
経済性工学	3後	2				1						
ダイバーシティ・マネジメント	3後	2			1							
データサイエンス	3後	2			1				1			

建築・デザイン	建築設計・デザイン制作Ⅰ	2後	4			2	4		1		1			
	建築設計・デザイン制作Ⅱ	3前	4			2	3		1		5			
	建築設計・デザイン制作Ⅲ	3後	2			2	4		1		8			
	建築設計Ⅳ	3後		2		1	2				1			
	建築情報技術	2前		3			1		1		1			
	表現製図	2前		2		1								
	構造・デザイン演習Ⅰ	2前		1			2		1		1			
	構造・デザイン演習Ⅱ	2後		1			2							
	建築環境実験	2後		1			2		1					
	意匠計画学演習	2後		1		1								
	実務設計デザイン実習	2後		1		6	8		2		4			
	建築材料実験	3前		1		2	3		1					
	建築構造実験	3前		1		2	3		1					
	建築史実習	3後		1		1								
	建築・デザイン制作	4前		1		6	8		2		4			
	実験・演習科目	環境都市	測量実習	1前			7	6		5		3		
			環境都市情報技術	2前			1	1						
			環境都市基礎製図	2前				1		1				
			構造力学Ⅰ演習	2前									1	
構造力学Ⅱ演習			2後							1				
環境水理学演習			2後			1	1							
地盤力学演習			2後			1				2				
社会基盤計画学演習			2後					1						
コンクリート構造学演習			3前					1		1				
環境都市工学実験Ⅰ			3前			3	1	1		1				
環境都市工学実験Ⅱ			3後					1		1		1		
環境都市設計製図	3後					1				1				
経営システム	経営システム工学演習ⅠA	2前	1			5	6		2		4			
	経営システム工学演習ⅠB	2前	1			5	6		2		4			
	経営システム工学演習Ⅱ	2後	1			5	6		2		4			
	経営システム工学演習ⅢA	3前	1			5	6		2		4			
	経営システム工学演習ⅢB	3前	1			5	6		2		4			
	経営システム工学演習Ⅳ	3後	1			5	6		2		4			
	経営システム工学応用演習	3後	1			5	6		2		4			
	経営システム工学総合演習Ⅰ	4前	1			5	6		2		4			
	経営システム工学総合演習Ⅱ	4後	1			5	6		2		4			
	実践研究セミナー	3後	2			18	20		9					
卒業研究	4通	8			18	20		9						
小計 (129科目)	-	117	122	0	18	20	0	9	0	24				
産学・経営リテラシー	フレッシュマンセミナー	フレッシュマンセミナー	1前	2			6	2					7	
		技術と人間・心理	異文化理解	1前～2後	2									2
			感性と社会	1前～2後	2									1
			心理学	1前～2後	2									1
			生物と環境	1前～2後	2									2
			対人コミュニケーション論	1前～2後	2									2
			日本文化論	1前～2後	2									1
			人間行動学	1前～2後	2									2
		人間社会ゼミナール	1前～2後	2									2	
		技術と歴史・哲学	アジア・太平洋史	1前～2後	2									2
	科学技術史		1前～2後	2									1	
	科学思想史		1前～2後	2									1	
	科学と哲学		1前～2後	2									1	
	共生社会論		1前～2後	2									2	
	近現代史		1前～2後	2									1	
	公共の哲学		1前～2後	2									1	
	宗教文化論	1前～2後	2									1		
	技術と社会・国際	経済学	1前～2後	2									1	
		現代社会論	1前～2後	2									1	
		現代政治論	1前～2後	2									1	
		公共政策論	1前～2後	2									1	
		生涯学習論	1前～2後	2									1	
		情報社会論	1前～2後	2									2	
		地域研究Ⅰ	1前～2後	2									3	
	地域研究Ⅱ	1前～2後	2									3		
	日本国憲法	1前～2後	2									1		
	自然科学基礎科目	線形代数Ⅰ	1前	2									3	
線形代数Ⅱ		1後	2									3		
微分積分Ⅰ及び演習		1前	3									3		
微分積分Ⅱ及び演習		1後		3								3		
力学		1前	2				3							
物理学演習Ⅰ		1前		1		1						2		
電磁気学		1後		2								2		
物理学実験		1後		2			1		3			2		
基礎化学		1後		2								3		
化学結合論		1前		2								2		
地球科学		2前		2		1								
地球科学実験		2後		1		1				1		1		
生体機能科学		2後		2								6		
産業論	2後	2			1	1					6			
経営リテラシー	金融学	3前		2				1						
	法工学	3前・後		2		1	1					7		
	知的財産権	3前・後		2								2		
	マーケティング	3前・後		2		1						2		
	経営戦略	3前・後		2			1					1		
	政策科学	3前・後		2								3		
	会計学	3前・後		2								1		
	工学倫理	3前・後		2								1		
	管理工学	3前・後		2		5	7		2			3		
	労働者管理基礎論	ものづくりとデザイン	3前		2								1	
自治体行政		2前		2		6	8		2			4		
		2後		2								1		

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成28年度】

・履修機会の拡充のため、「管理工学」の配当年次を「3後」から「3前・後」に変更。
 ・開講年次の適正化のため、「労働者管理基礎論」の配当年次を「2後」から「3前」に変更。
 ・教育課程の充実のため、「自治体行政」「キャリア・コミュニケーション論」を追加。

【平成29年度】

・担当教員の見直しのため、「社会学概論」「社会学基礎Ⅰ」「社会学基礎Ⅱ」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

【平成30年度】

・教育課程の充実のため、「価値創造論」を追加。
 ・担当教員の見直しのため、「基礎無機化学」「物理化学」「有機化学Ⅰ」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

【令和元年度】

・教育課程の充実のため、「価値創造論」を追加。
 ・担当教員の見直しのため、「社会学基礎Ⅲ」「社会学基礎Ⅳ」「耐用設計論」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
76 科目	126 科目	0 科目	202 科目	76 科目 [0]	129 科目 [3]	0 科目 [0]	205 科目 [3]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{202} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
	校舎敷地	159,206㎡	0㎡	0㎡	159,206㎡			
	運動場用地	44,982㎡	0㎡	0㎡	44,982㎡			
	小 計	204,188㎡	0㎡	0㎡	204,188㎡			
	そ の 他	14,182㎡	0㎡	0㎡	14,182㎡			
	合 計	218,370㎡	0㎡	0㎡	218,370㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	128,980㎡ (128,980㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	128,980㎡ (128,980㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	56室	170室	181室	7室 (補助職員 7人)	6室 (補助職員 3人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			人事異動等に伴い、研究室を整理したため。 (元)		
	工学部 社会工学科		160 145 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
		冊	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	工学部	461,783 [205,740] (461,783 [205,740])	12,933 [10,409] (12,933 [10,409])	7,343 [7,242] (7,343 [7,242])	1,311 (1,311)	0 (0)	0 (0)	
	計	461,783 [205,740] 461,783 [205,740]	12,933 [10,409] 12,933 [10,409]	7,343 [7,242] (7,343 [7,242])	1,311 (1,311)	0 (0)	0 (0)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	5,595㎡		472		528,000			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	2,479㎡		グラウンド、テニスコート、プール、弓道場、馬場、ボート艇庫、ヨット艇庫					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋工業大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
【工学部】 (第一部)						1.04				
生命・応用化学科	4	210	3年次 2	844	学士(工学) 学士(学術)	1.03	-	平成28	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
物理工学科	4	105	3年次 2	424	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
電気・機械工学科	4	200	3年次 2	804	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
情報工学科	4	145	3年次 2	584	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
社会工学科	4	150	3年次 2	604	学士(工学) 学士(学術)	1.06	-	平成28	同上	
創造工学教育課程	4	100	-	400	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
生命・物質工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
環境材料工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
機械工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
電気電子工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
建築・デザイン工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
都市社会工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
(開設年度H16共通)			-	-						平成30年より 学生募集停止
(第二部)						1.15				
物質工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.16	-			
機械工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-			
電気情報工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.24	-			
社会開発工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.16	-			

【工学研究科】										
(博士前期課程)										
生命・応用化学専攻	2	165	-	330	修士(工学) 修士(学術)	1.11	-	平成28	愛知県名古屋 昭和区御器所町	
物理学専攻	2	78	-	156	修士(工学) 修士(学術)	1.06	-	平成28	同上	
電気・機械工学専攻	2	138	-	276	修士(工学) 修士(学術)	1.56	-	平成28	同上	
情報工学専攻	2	110	-	220	修士(工学) 修士(学術)	1.21	-	平成28	同上	
社会工学専攻	2	95	-	180	修士(工学) 修士(学術)	1.25	-	平成28	同上	
物質工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
機能工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
社会工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
未来材料創成工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
創成シミュレーション工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
(博士後期課程)										
生命・応用化学専攻	3	9	-	27	博士(工学) 博士(学術)	1.10	-	平成28	愛知県名古屋 昭和区御器所町	
物理学専攻	3	5	-	15	博士(工学) 博士(学術)	1.20	-	平成28	同上	
電気・機械工学専攻	3	9	-	27	博士(工学) 博士(学術)	1.10	-	平成28	同上	
情報工学専攻	3	7	-	21	博士(工学) 博士(学術)	0.66	-	平成28	同上	
社会工学専攻	3	7	-	21	博士(工学) 博士(学術)	1.51	-	平成28	同上	
共同ナノメーション科学専攻	3	3	-	9	博士 (ナノメーション科 学)	0.99	-	平成25	同上	
名古屋工業大学・ウーロンゴン大 学国際連携情報学専攻	3	2	-	6	博士(学術)	0.33	-	平成29	同上	
物質工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
機能工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
社会工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
未来材料創成工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
創成シミュレーション工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成28年度】

特になし。

【平成29年度】

- ・水谷章夫教授退職に伴い、「環境デザイン学Ⅰ」について須藤美音准教授に変更。
- ・高橋之助教退職に伴い、「構造・デザイン演習Ⅰ」「建築材料実験」「建築構造実験」「物理学実験」について楠原文雄准教授に、「実務設計デザイン実習」について加茂紀和子教授に変更。
- ・喜岡渉教授退職に伴い、「環境水理学Ⅱ」について北野利一教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

【平成30年度】

- ・仁科健教授退職に伴い、「社会工学概論」についてSun Jing准教授に、「データサイエンス」について林篤裕教授に、「金融学」について川村大伸准教授に、「法工学」について渡辺研司教授に、「マーケティング」について藤田素弘教授に、「管理工学」について川村大伸准教授に変更。
- ・河田克博教授退職に伴い、「建築・デザイン史Ⅱ」について麗和善教授に変更。
- ・Wisetjindawat Wisinee助教退職に伴い、「測量実習」「実践研究セミナー」について中居楓子助教に変更。
- ・永淵康之教授退職に伴い、「人間社会ゼミナール」について川橋範子教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

【令和元年度】

- ・梅原秀哲教授退職に伴い、「コンクリート構造学」について吉田亮准教授に、「耐震工学」について野中哲也教授に変更。
- ・越島一郎教授退職に伴い、「プロジェクトマネジメント」「サービスマネジメント」について浜口孝司准教授に、「地球科学」については張鋒教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
11	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
14	14	0	13	41	18	22	0	9	49
(22)	(15)	(0)	(12)	(49)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
18	22	0	9	49	18	22	0	9	49
[4]	[8]	[0]	[△4]	[8]	[4]	[8]	[0]	[△4]	[8]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
63	6	6
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{49}{41} = \boxed{119.51} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{6}{49} = \boxed{12.24} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1		該当なし					
2							
合計 (D)			後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1		該当なし					
2							
合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{0}{41} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	水谷 章夫	必修	環境デザイン学 I	①	退職のため (29)
			必修	建築構法	③	
			選択	建築環境実験	③	
			選択	法工学	②	
2	助教	高橋 之	選択	構造・デザイン演習 I	①	退職のため (29)
			選択	構造・デザイン演習 II	③	
			選択	実務設計デザイン実習	①	
			選択	建築材料実験	①	
			選択	建築構造実験	①	
			選択	建築・デザイン制作	①	
			必修	実践研究セミナー	①	
			必修	卒業研究	①	
			選択	物理学実験	①	
			選択	ものづくりとデザイン	①	
3	教授	喜岡 渉	必修	環境水理学 II	①	退職のため (29)
			必修	環境都市工学実験 I	②	
4	教授	小竹 暢隆	必修	経営環境	③	退職のため (29)
			選択	創造的問題解決論	②	
			選択	管理工学	②	
5	教授	河田 克博	必修	社会工学基礎 IV	③	退職のため (30)
			必修	都市デザイン学	③	
			選択	建築・デザイン史 II	①	
			選択	建築歴史意匠学	③	
			選択	住文化論	③	
			選択	表現製図	③	
6	助教	Wisetjindawat Wisinee	必修	社会工学基礎 III	③	退職のため (30)
			必修	社会工学基礎 IV	③	
			必修	測量実習	①	
			必修	社会基盤計画学演習	③	
			必修	実践研究セミナー	①	
			必修	卒業研究	①	
			選択	物理学実験	③	
7	教授	仁科 健	必修	社会工学概論	①	退職のため (30)
			選択	データサイエンス	①	
			選択	金融学	①	
			選択	法工学	②	
			選択	マーケティング	①	
			選択	管理工学	①	
8	教授	梅原 秀哲	必修	コンクリート構造学	①	退職のため (令和元年)
			選択	耐震工学	①	

9	教授	越島 一郎	選択	プロジェクトマネジメント	①	退職のため（令和元年）							
			選択	サービスマネジメント	①								
			選択	地球科学	①								
合計			後任補充状況の集計										
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)					
9	人	必修	16	科目	必修	8	科目	必修	1	科目	必修	7	科目
		選択	28	科目	選択	17	科目	選択	4	科目	選択	7	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	44	科目	計	25	科目	計	5	科目	計	14	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>専任教員辞任等による学生の履修等への重大な影響は認められない。 各授業における担当教員情報についてはシラバスや授業時間割表にて周知している。</p>

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (28年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (30年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (31年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工学部 社会工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	1～6の項目に記入した事項以外の変更なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>工学教育総合センターの創造教育開発オフィスにおいて、工学教育の質的向上に資することを目的として、ファカルティ・ディベロップメントの推進及び授業評価を行う教育機能開発部門を設置している。また全学的な視点からファカルティ・ディベロップメント活動の推進を図ることを目的として、平成29年11月1日より名古屋工業大学ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置した。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>工学教育総合センター会議を3回、ファカルティ・ディベロップメント委員会を1回、ファカルティ・ディベロップメント委員会専門部会を1回実施した。（約40名の教員が参加）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>全学のFDに関する基本方針の策定及び活動の総括、企画・立案・実施及び評価の総括等。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院共通科目のあり方について ・ 高等学校新課程「物理」・「英語」の現状について ・ 理工系の授業を英語でおこなうための実務とポイント ・ アクティブラーニングを推進する学習活動の「見えます化」 ・ 工学系人材育成のためのアクティブラーニング <p>b 実施方法</p> <p>チラシを作成し事前アナウンスを行い、時に学外講師を招いて実施している。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>平成30年度は「a 実施内容」の通り開催し、参加人数はそれぞれ、41名、30名、20名、15名、30名であった。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>各教員において、授業改善に取り組んでいる。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>前期末及び後期末において実施している。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>一般的な集計結果についてはHPIにて公開し、授業科目ごとの詳細結果については個別に学内の授業評価システムにて公開している。</p>
--

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

現状把握と分析を行いつつ、全学評価室を中心に評価する予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成31年4月 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年6月28日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 名古屋工業大学

(2) 大学名

名古屋工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒466-8555
愛知県名古屋市昭和区御器所町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(カイヒロキ) 鵜飼 裕之 (平成26年4月)	—	—
学部長	—	—	—
学科長等	ニシヨウイチ 西野 洋一 (平成28年4月)	井戸田—秀樹猪股 克弘 (平成29年4月平成31年4月)	平成29年3月31日 任期満了 平成29年4月1日 就任(29) 平成31年3月31日 任期満了 平成31年4月1日 就任(元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
工学部 創造工学教育課程 学士(工学) 学士(学術)	工学関係	4年	100人	- 年次人	400人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	100 (-) [-]	-	100 (-) [-]	-	100 (-) [-]	-	100 (-) [-]	-	1.04倍		
志願者数	464 (-) [-]	-	265 (-) [-]	-	423 (-) [-]	-	356 (-) [-]	-			
受験者数	423 (-) [-]	-	219 (-) [-]	-	358 (-) [-]	-	304 (-) [-]	-			
合格者数	105 (-) [-]	-	106 (-) [-]	-	110 (-) [-]	-	102 (-) [-]	-			
B 入学者数	104 (-) [-]	-	103 (-) [-]	-	110 (-) [-]	-	101 (-) [-]	-			
入学定員超過率 B/A	1.04		1.03		1.10		1.01				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度				備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
1年次	104 [-] (-)	- [-] (-)	103 [-] (-)	- [-] (-)	110 [-] (-)	- [-] (-)	101 [-] (-)	- [-] (-)			
2年次	/		104 [-] (-)	- [-] (-)	101 [-] (-)	- [-] (-)	109 [-] (-)	- [-] (-)			
3年次	/		/		104 [-] (-)	- [-] (-)	99 [-] (-)	- [-] (-)			
4年次	/		/		/		104 [-] (-)	- [-] (-)			
計	104 [-] (-)		207 [-] (-)		315 [-] (-)		413 [-] (-)				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	104 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
平成29年度	207 人	2 人	平成28年度	0 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)、一身上の都合(1人)
			平成29年度	2 人	0 人	
平成30年度	315 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)、一身上の都合(1人)
			平成29年度	2 人	0 人	
			平成30年度	1 人	0 人	
令和元年度	413 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人	
			平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
合 計		2 人		5 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{104} = \boxed{0} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{207} = \boxed{0.96} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{315} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{413} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工学部 創造工学教育課程>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					※ 他 部 門	
			必修	選択	目由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
工学デザイン	創造工学概論	1前	1				3						
	クリティカルシンキング	1前	1				2						1
	創造方法論	1後	2				2	1					1
	システム理論	2前	2				1						1
	デザイン理論	2後	2				2						1
	イノベーション論	3前	2				1	1					
	PBL演習	3後	2				24	25		5			
	研究室ローテーションⅠ	1後	1				24	25		5			
	研究室ローテーションⅡ	2前	1				24	25		5			
	研究室ローテーションⅢ	2後	1				24	25		5			
	研究室ローテーションⅣ	3前	1				24	25		5			
	創造工学研究1	3後	2				24	25		5			
	創造工学研究2	4前	2				24	25		5			
	創造工学研究3	4後	2				24	25		5			
生命・物質化学	基礎有機化学Ⅰ	1後	2										1
	基礎無機化学	1後	2										1
	固体化学基礎	1後	2			1							1
	分析化学	2前	2										1
	基礎化学工学	2前	2										2
	高分子化学	2前	2										1
	物理化学	2前	2					1					1
	生化学	2前	2			1							1
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2										1
	無機化学	2前	2										1
	物理化学実験	3前	2			2		1					7
	有機化学実験	3前	2			2		1					2
	分析化学実験	3前	2			2		1					2
	無機化学実験	3後	2			2		1					3
化学工学実験	3後	2			2		1					2	
高分子化学実験	3後	2			2		1					1	
分離分析化学	2後		2									1	
構造分子化学	2後		2									1	
高分子基礎物性	2後		2									1	
有機化学Ⅰ	2後		2							1		1	
分子生物学	2後		2									2	
ソフトマテリアル	基礎有機化学Ⅰ	1後	2										1
	基礎無機化学	1後	2										1
	固体化学基礎	1後	2			1							1
	高分子合成化学Ⅰ	2前	2										1
	高分子物理化学Ⅰ	2前	2			1							1
	高分子科学Ⅰ	2前	2										1
	高分子材料物性Ⅰ	2前	2										1
	ソフトマテリアル化学Ⅰ	3前	2			2							6
	有機合成化学Ⅰ	2後	2										1
	高分子合成化学Ⅱ	2後		2									1
	高分子物理化学Ⅱ	2前	2										1
	高分子科学Ⅱ	2後	2										1
	高分子材料物性Ⅱ	2後	2			1							1
	高分子科学Ⅲ	2後	2			1							1
高分子材料分析化学	2後		2									1	
ソフトマテリアル化学Ⅱ	3後	2			2							6	
有機合成化学Ⅱ	3前		2									1	
ソフトマテリアル化学実験Ⅰ	3前	4			2			1				4	
ソフトマテリアル化学実験Ⅱ	3後	4			2			1				4	
環境セラミクス	基礎有機化学Ⅰ	1後	2										1
	基礎無機化学	1後	2										1
	固体化学基礎	1後	2			1							1
	無機構造化学Ⅰ	2前	2										1
	アモルファス構造化学	2前	2			1							1
	固体熱科学Ⅰ	2前	2										1
	物質科学Ⅰ	2前	2										1
	量子科学基礎	2前	2										1
	無機有機ハイブリッド化学Ⅰ	2前	2										1
	材料組織構造化学	2後	2			1							1
	固体熱科学Ⅱ	2後	2										1
	計算科学基礎	2後	2										1
	無機有機ハイブリッド化学Ⅱ	2後	2										1
	セラミクス応用学演習Ⅰ	2後	1					1					2
セラミクス応用学実験Ⅰ	3前	3			2		2					7	
セラミクス応用学演習Ⅱ	3前	1			1							6	
セラミクス応用学実験Ⅱ	3前	3			2		2					6	
材料機能	材料物性基礎	1後	2										3
	物理現象と微分方程式	1後	2			1							2
	物理・材料数学Ⅰ	1後	2			2	1						1
	熱力学	2前	2			1							1
	解析力学	2前		2									1
	回折結晶学	2前	2					1					1
	材料物理学	2前	2			1							1
	物理・材料数学Ⅱ	2前	2			2							1
	量子力学Ⅰ	2前	2										1
	材料平衡論	2後	2										1
	移動速度論	2後	2										1
	固体物理Ⅰ	2後	2			1							1
	材料組織学	2後	2							1			1
	力学物性論	2後	2										1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					※ 他 部 門	
			必修	選択	目由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
工学デザイン	創造工学概論	1前	1				2	1					
	クリティカルシンキング	1前	1				1	1					1
	創造方法論	1後	2				2	1					1
	システム理論	2前	2				3	1					1
	実践問題解決	2前		1			1						1
	デザイン理論	2後	2				3						1
	イノベーション論	3前	2				1						
	PBL演習	3後	2				31	23					3
	研究室ローテーションⅠ	1後	1				31	23					3
	研究室ローテーションⅡ	2前	1				31	23					3
	研究室ローテーションⅢ	2後	1				31	23					3
	研究室ローテーションⅣ	3前	1				31	23					3
	創造工学研究1	3後	2				31	23					3
	創造工学研究2	4前	2				31	23					3
創造工学研究3	4後	2				31	23					3	
生命・物質化学	基礎有機化学Ⅰ	1後	2										1
	基礎無機化学	1後	2										2
	固体化学基礎	1後	2			1							3
	分析化学	2前	2										1
	基礎化学工学	2前	2										2
	高分子化学	2前	2										1
	物理化学	2前	2					1					1
	生化学	2前	2			1							2
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2										1
	無機化学	2前	2										2
	物理化学実験	3前	2			2		1					6
	有機化学実験	3前	2			2		1					5
	分析化学実験	3前	2			2		1					6
	無機化学実験	3後	2			2		1					6
化学工学実験	3後	2			2		1					5	
高分子化学実験	3後	2			2		1					5	
分離分析化学	2後		2									1	
構造分子化学	2後		2									1	
高分子基礎物性	2後		2									1	
有機化学Ⅰ	2後		2						1			1	
分子生物学	2後		2									2	
ソフトマテリアル	基礎有機化学Ⅰ	1後	2										1
	基礎無機化学	1後	2										2
	固体化学基礎	1後	2			1							3
	高分子合成化学Ⅰ	2前	2										1
	高分子物理化学Ⅰ	2前	2			1							1
	高分子科学Ⅰ	2前	2										1
	高分子材料物性Ⅰ	2前	2										1
	ソフトマテリアル化学Ⅰ	3前	2			2							6
	有機合成化学Ⅰ	2後	2										1
	高分子合成化学Ⅱ	2後		2						1			1
	高分子物理化学Ⅱ	2前	2										1
	高分子科学Ⅱ	2後	2										1
	高分子材料物性Ⅱ	2後	2			1							1
	高分子科学Ⅲ	2後	2			1							1
高分子材料分析化学													

卒業要件及び履修方法

(卒業要件)
次の要件を満たし、総数130単位以上を修得すること。

○共通科目
以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。
人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上
自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上
産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上
グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上
健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上

○専門教育科目
以下の要件を満たす80単位以上を履修すること。
主軸専門科目 13の主軸科目群のうち1つの軸に含まれるすべての必修科目を含む34単位
工学デザイン科目 すべての必修科目を含む22単位以上
創造工学設計科目 工学部で開講されるすべての専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究は除く。)から、22単位以上

(履修方法)
共通科目の履修と共に創造工学概論によって専門分野を選択させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。1年後期開始までに13のうちから1つの主軸専門分野を選択し、選択した分野の主軸専門科目を履修する。このとき、専門分野に応じてメンター教員を配属し、創造工学設計科目の履修選択を含む学修指導を行う。俯瞰的知識、問題解決力を修得するため、工学デザイン科目を学ぶ。その中で、複数の研究室活動を経験する研究室ローテーションを履修し、創造工学教育課程として達成度の評価を受ける。十分な達成度を身につけたものは3年後期から修士研究の一部として研究を開始するため、創造工学研究1、2、3を履修し、創造工学研究においてリサーチペーパーとしてまとめ、これを提出する。

卒業要件及び履修方法

(卒業要件)
次の要件を満たし、総数130単位以上を修得すること。

○共通科目
以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。
人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上
自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上
産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上
グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上
健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上

○専門教育科目
以下の要件を満たす80単位以上を履修すること。
主軸専門科目 13の主軸科目群のうち1つの軸に含まれるすべての必修科目を含む34単位
工学デザイン科目 すべての必修科目を含む22単位以上
創造工学設計科目 工学部で開講されるすべての専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究は除く。)から、22単位以上

(履修方法)
共通科目の履修と共に創造工学概論によって専門分野を選択させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。1年後期開始までに13のうちから1つの主軸専門分野を選択し、選択した分野の主軸専門科目を履修する。このとき、専門分野に応じてメンター教員を配属し、創造工学設計科目の履修選択を含む学修指導を行う。俯瞰的知識、問題解決力を修得するため、工学デザイン科目を学ぶ。その中で、複数の研究室活動を経験する研究室ローテーションを履修し、創造工学教育課程として達成度の評価を受ける。十分な達成度を身につけたものは3年後期から修士研究の一部として研究を開始するため、創造工学研究1、2、3を履修し、創造工学研究においてリサーチペーパーとしてまとめ、これを提出する。

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
工学デザイン	創造工学概論	1前	1			3						1
	クリティカルシンキング	1前	1			2						
	創造方法論	1後	2			2	1					
	システム理論	2前	2			1						3
	実践問題解決	2前		1								1
	デザイン理論	2後	2			2		2				1
	イノベーション論	3前	2			1	1					
	PBL演習	3後	2			24	25		5			
	研究室ローテーションⅠ	1後	1			24	25		5			
	研究室ローテーションⅡ	2前	1			24	25		5			
	研究室ローテーションⅢ	2後	1			24	25		5			
	研究室ローテーションⅣ	3前	1			24	25		5			
	創造工学研究1	3後	2			24	25		5			
創造工学研究2	4前	2			24	25		5				
創造工学研究3	4後	2			24	25		5				
生命・物質化学	基礎有機化学Ⅰ	1後	2									1
	基礎無機化学	1後	2									1
	固体化学基礎	1後	2			1						1
	分析化学	2前	2									1
	基礎化学工学	2前	2									2
	高分子化学	2前	2									1
	物理化学	2前	2			1						1
	生化学	2前	2			1						2
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2							1		1
	無機化学	2前	2									1
	物理化学実験	3前	2			2		1			1	7
	有機化学実験	3前	2			2		1			1	2
	分析化学実験	3前	2			2		1			1	2
	無機化学実験	3後	2			2		1			1	3
	化学工学実験	3後	2			2		1			1	2
	高分子化学実験	3後	2			2		1			1	1
	分離分析化学	2後		2								1
	構造分子化学	2後		2								1
	高分子基礎物性	2後		2								1
	有機化学Ⅰ	2後		2								1
	分子生物学	2後		2								2
	ソフトマテリアル	基礎有機化学Ⅰ	1後	2								
基礎無機化学		1後	2									1
固体化学基礎		1後	2			1						1
高分子合成化学Ⅰ		2前	2									1
高分子物理化学Ⅰ		2前	2			1						1
高分子科学Ⅰ		2前	2									1
高分子材料物性Ⅰ		2前	2									1
ソフトマテリアル化学Ⅰ		3前	2			2						6
有機合成化学Ⅰ		2後		2								1
高分子合成化学Ⅱ		2後		2						1		1
高分子物理化学Ⅱ		2前		2								1
高分子科学Ⅱ		2後		2								1
高分子材料物性Ⅱ		2後		2		1						1
高分子科学Ⅲ	2後		2		1						1	
高分子材料分析化学	2後		2								1	
ソフトマテリアル化学Ⅱ	3後	2			2			2			6	
有機合成化学Ⅱ	3前		2								1	
ソフトマテリアル化学実験Ⅰ	3前	4			2			2			4	
ソフトマテリアル化学実験Ⅱ	3後	4			2			2			4	
環境セラミックス	基礎有機化学Ⅰ	1後	2									1
	基礎無機化学	1後	2									1
	固体化学基礎	1後	2			1						1
	無機構造化学Ⅰ	2前	2									1
	アモルファス構造化学	2前	2			1						1
	固体熱科学Ⅰ	2前	2							1		1
	物質科学Ⅰ	2前	2									1
	量子科学基礎	2前	2									1
	無機有機ハイブリッド化学Ⅰ	2前	2									1
	材料組織構造化学	2後		2		1						1
	固体熱科学Ⅱ	2後		2								1
	計算科学基礎	2後		2								1
	無機有機ハイブリッド化学Ⅱ	2後		2								1
セラミックス応用学演習Ⅰ	2後		1								2	
セラミックス応用学実験Ⅰ	3前	3			2		2				6	
セラミックス応用学演習Ⅱ	3前	1			1				1		7	
セラミックス応用学実験Ⅱ	3前	3			2		2		2		6	
材料機能	材料物性基礎	1後	2									3
	物理現象と微分方程式	1後	2			1						2
	物理・材料数学Ⅰ	1後	2			2	1					1
	熱力学	2前	2			1						1
	解析力学	2前		2								1
	回折結晶学	2前	2			1						1
	材料物理学	2前	2			1						1
	物理・材料数学Ⅱ	2前	2			2						1
	量子力学Ⅰ	2前	2									1
	材料平衡論	2後	2									1
	移動速度論	2後	2									1
	固体物理Ⅰ	2後	2			1						1
	材料組織学	2後	2			1				1		1
力学物性論	2後	2									1	
量子力学Ⅱ	2後		2								1	
固体物理Ⅱ	3前	2			1				1		1	
材料機能工学演習Ⅰ	3前	1			3						5	
材料機能工学実験Ⅰ	3前	3			2		3				3	
材料機能工学演習Ⅱ	3後		1		3				3		5	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手		
工学デザイン	創造工学概論	1前	1			2						
	クリティカルシンキング	1前	1			2						
	創造方法論	1後	2			2	1					
	システム理論	2前	2			3	1					
	実践問題解決	2前		1		2						
	デザイン理論	2後	2			2	1					1
	イノベーション論	3前	2			1						
	PBL演習	3後	2			29	22				6	
	研究室ローテーションⅠ	1後	1			29	22				6	
	研究室ローテーションⅡ	2前	1			29	22				6	
	研究室ローテーションⅢ	2後	1			29	22				6	
	研究室ローテーションⅣ	3前	1			29	22				6	
	創造工学研究1	3後	2			29	22				6	
創造工学研究2	4前	2			29	22				6		
創造工学研究3	4後	2			29	22				6		
生命・物質化学	基礎有機化学Ⅰ	1後	2									1
	基礎無機化学	1後	2									1
	固体化学基礎	1後	2									1
	分析化学	2前	2									1
	基礎化学工学	2前	2									2
	高分子化学	2前	2									1
	物理化学	2前	2						1			1
	生化学	2前	2									2
	基礎有機化学Ⅱ	2前	2									1
	無機化学	2前	2									1
	物理化学実験	3前	2			2			2		1	7
	有機化学実験	3前	2			2			2		1	2
	分析化学実験	3前	2			2			2		1	2
	無機化学実験	3後	2			2			2		1	3
	化学工学実験	3後	2			2			2		1	2
	高分子化学実験	3後	2			2			2		1	1
	分離分析化学	2後		2								1
	構造分子化学	2後		2								1
	高分子基礎物性	2後		2								1
	有機化学Ⅰ	2後		2								1
	分子生物学	2後		2								2
	ソフトマテリアル	基礎有機化学Ⅰ	1後	2								
基礎無機化学		1後	2									1
固体化学基礎		1後	2									1
高分子合成化学Ⅰ		2前	2									1
高分子物理化学Ⅰ		2前	2					1				1
高分子科学Ⅰ		2前	2									1
高分子材料物性Ⅰ		2前	2									1
ソフトマテリアル化学Ⅰ		3前	2			2						6
有機合成化学Ⅰ		2後		2								1
高分子合成化学Ⅱ		2後		2					1			1
高分子物理化学Ⅱ		2前		2								1
高分子科学Ⅱ		2後		2								1
高分子材料物性Ⅱ		2後		2					1			1
高分子科学Ⅲ	2後		2					1			1	
高分子材料分析化学	2後		2								1	
ソフトマテリアル化学Ⅱ	3後	2			2			2			6	
有機合成化学Ⅱ	3前		2								1	
ソフトマテリアル化学実験Ⅰ	3前	4			2			2			4	
ソフトマテリアル化学実験Ⅱ	3											

卒業要件及び履修方法

(卒業要件)
次の要件を満たし、総数130単位以上を修得すること。

○共通科目
以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。
人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上
自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上
産業・経営リテラシー科目 産学論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上
グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上
健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上

○専門教育科目
以下の要件を満たす80単位以上を履修すること。
主軸専門科目 13の主軸科目群のうち1つの軸に含まれるすべての必修科目を含む34単位
工学デザイン科目 すべての必修科目を含む22単位以上
創造工学設計科目 工学部で開講されるすべての専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究は除く。)から、22単位以上

(履修方法)
共通科目の履修と共に創造工学概論によって専門分野を選択させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。1年後期開始までに13のうちから1つの主軸専門分野を選択し、選択した分野の主軸専門科目を履修する。このとき、専門分野に応じてメンター教員を配属し、創造工学設計科目の履修選択を含む学修指導を行う。俯瞰的知識、問題解決力等を修得するため、工学デザイン科目を学ぶ。その中で、複数の研究活動を経験する研究室ローテーションを履修し、創造工学教育課程として達成度の評価を受ける。十分な達成度を身につけたものは3年後期から修士研究の一部として研究を開始するため、創造工学研究1.2.3を履修し、創造工学研究においてリサーチペーパーとしてまとめ、これを提出する。

卒業要件及び履修方法

(卒業要件)
次の要件を満たし、総数130単位以上を修得すること。

○共通科目
以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。
人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上
自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上
産業・経営リテラシー科目 産学論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上
グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上
健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上

○専門教育科目
以下の要件を満たす80単位以上を履修すること。
主軸専門科目 13の主軸科目群のうち1つの軸に含まれるすべての必修科目を含む34単位
工学デザイン科目 すべての必修科目を含む22単位以上
創造工学設計科目 工学部で開講されるすべての専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究は除く。)から、22単位以上

(履修方法)
共通科目の履修と共に創造工学概論によって専門分野を選択させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。1年後期開始までに13のうちから1つの主軸専門分野を選択し、選択した分野の主軸専門科目を履修する。このとき、専門分野に応じてメンター教員を配属し、創造工学設計科目の履修選択を含む学修指導を行う。俯瞰的知識、問題解決力等を修得するため、工学デザイン科目を学ぶ。その中で、複数の研究活動を経験する研究室ローテーションを履修し、創造工学教育課程として達成度の評価を受ける。十分な達成度を身につけたものは3年後期から修士研究の一部として研究を開始するため、創造工学研究1.2.3を履修し、創造工学研究においてリサーチペーパーとしてまとめ、これを提出する。

	材料機能工学実験Ⅱ	3後		3		3	2					3
応用物理	材料物性基礎	1後	2									3
	物理現象と微分方程式	1後	2			1						2
	物理・材料数学Ⅰ	1後	2				1					1
	応用電磁気学Ⅰ	2前	2			1						
	計測工学Ⅰ	2前	2			1						
	熱力学	2前	2									1
	物理数学Ⅰ	2前	2									1
	力学・電磁気学演習	2前	2									1
	応用物理学実験Ⅰ	2後	2				1					2
	統計熱力学演習	2後	2									2
	統計力学	2後	2				1					
	物理数学Ⅱ	2後	2	2								1
	量子力学Ⅰ	2後	2									1
	固体物理Ⅰ	3前	2				1					
	量子力学Ⅱ	3前	2									1
シミュレーション工学	3前	2				1					2	
量子力学演習	3前	2									2	
固体物理Ⅱ	3後	2									1	
機械工学	電気・機械工学入門	2前		2		6	6		1			60
	電気回路Ⅰ	1後	2									1
	プログラミングⅠ	1後	2				1					
	常微分方程式	1後	2									1
	熱力学Ⅰ	1後	2									1
	機械学	2前	2									1
	流体力学Ⅰ	2前	2			1						
	機械製図Ⅰ	2前	2									2
	工業力学	2前	2			1						
	材料力学Ⅰ	2前	2									1
	機械力学	2後	2									1
	材料科学	2後	2				1					1
	伝熱学Ⅰ	2後	2									1
	材料力学Ⅱ	2後	2									1
	制御工学Ⅰ	2後	2									1
流体力学Ⅱ	2後	2				1						
機械工学実験	3前	2			3	2		1			33	
材料加工の力学	3前	2									1	
電気電子	電気・機械工学入門	2前		2		6	6		1			60
	電気回路Ⅰ	1後	2			1						1
	プログラミングⅠ	1後	2				1					
	常微分方程式	1後	2									1
	熱力学Ⅰ	1後	2									1
	計算機基礎	2前	2			1						
	電気回路Ⅱ	2前	2									1
	電気磁気学Ⅰ	2前	2									1
	電気電子工学実験実習	2前	2									1
	電子回路Ⅰ	2前	2									1
	プログラミングⅡ	2前	2	2								1
	システム制御基礎	2後	2				1					
	情報理論	2後	2					1				
	電子回路Ⅱ	2後	2									1
	電気回路Ⅲ	2後	2				1					
電気磁気学Ⅱ	2後	2				1						
電気電子工学基礎実験	2後	2				3	4				27	
電子物性	2後	2									1	
電気電子工学応用実験	3前	2				3	4		1		27	
電気電子工学専門実験	3後	2	2			3	4		1		27	
ネットワーキング	コンピュータ入門	1後	2									1
	確率	1後	2									2
	情報数学Ⅰ	1後	2			1						
	プログラミングⅠ	1後	2									1
	情報数学Ⅱ	2前	2									1
	情報理論	2前	2									1
	データ構造とアルゴリズム	2前	2									1
	情報工学概論	2前	2									3
	デジタル回路	2前	2									1
	コンピュータアーキテクチャⅠ	2前	2									1
	フーリエ解析	2前	2	2								1
	プログラミングⅡ	2前	2									1
	形式言語とオートマトン	2後	2									1
	コンピュータアーキテクチャⅡ	2後	2									1
	信号処理	2後	2				1					
オペレーティングシステム	2後	2	2								1	
プログラミングⅢ	2後	2					1					
情報ネットワーク	3前	2	2								2	
ネットワーク系演習Ⅰ	3前	2						3			15	
データベース論	3後	2									2	
情報セキュリティ	3後	2									1	
ネットワーク系演習Ⅱ	3後	2						3			15	
知能情報	コンピュータ入門	1後	2									1
	確率	1後	2									2
	情報数学Ⅰ	1後	2			1						
	プログラミングⅠ	1後	2									1
	情報数学Ⅱ	2前	2									1
	情報理論	2前	2									1
	データ構造とアルゴリズム	2前	2									1
	情報工学概論	2前	2									3
	コンピュータアーキテクチャⅠ	2前	2					1				2
	デジタル回路	2前	2									1
	フーリエ解析	2前	2	2								1
	プログラミングⅡ	2前	2									1
	形式言語とオートマトン	2後	2									1
	コンピュータアーキテクチャⅡ	2後	2									1
	信号処理	2後	2				1					

経営システム工学総合演習Ⅱ		4後	1			4						13
小計 (281科目)			394	153	0	32	22	0	4	0	0	##
	フレッシュマンセミナー	1前	2			3						3
技術と人間・心理	異文化理解	1前~2後	2									2
	感性と社会	1前~2後	2									1
	心理学	1前~2後	2									1
	生物と環境	1前~2後	2			1						1
	対人コミュニケーション論	1前~2後	2									1
	日本文化論	1前~2後	2									1
	人間行動学	1前~2後	2									2
	人間社会ゼミナール	1前~2後	2									1
技術と歴史・哲学	アジア・太平洋史	1前~2後	2									2
	科学技術史	1前~2後	2									1
	科学思想史	1前~2後	2									1
	科学と哲学	1前~2後	2									1
	共生社会論	1前~2後	2									2
	近現代史	1前~2後	2									1
	公共の哲学	1前~2後	2									1
宗教文化論	1前~2後	2									1	
技術と社会・国際	経済学	1前~2後	2			1						1
	現代社会論	1前~2後	2									1
	現代政治論	1前~2後	2									1
	公共政策論	1前~2後	2									1
	生涯学習論	1前~2後	2									1
	情報社会論	1前~2後	2				1					1
	地域研究Ⅰ	1前~2後	2									3
	地域研究Ⅱ	1前~2後	2									3
日本国憲法	1前~2後	2									1	
自然科学基礎科目	線形代数Ⅰ	1前	2									2
	線形代数Ⅱ	1後	2									2
	微分積分Ⅰ及び演習	1前	3									2
	微分積分Ⅱ及び演習	1後	3									2
	力学	1前	2			1						1
	物理学演習Ⅰ	1前	1						1			1
	電磁気学	1後	2									1
	物理学演習Ⅱ	1後	1									2
	物理学実験	1後・2前	2				1			1		7
	基礎化学	1前	2									1
	化学結合論	1前	2				1					4
	化学実験	2後	2			4	4			2		4
	地球科学	2前	2									1
	生体機能科学	2後	2									10
産業・経営リテラシー	産業論	2後	2			1						5
	金融学	3前	2									1
	法工学	3前・後	2			3						6
	知的財産権	3前・後	2									2
	マーケティング	3前・後	2									3
	経営戦略	3前・後	2			1						1
	政策科学	3前・後	2			2						1
	会計学	3前・後	2									1
	工学倫理	3前・後	2									2
	管理工学	3前・後	2			3						14
	労働者管理基礎論	3前	2									1
	ものづくりとデザイン	2後	2			4						16
	自治体行政	2後	2			1						7
	コミュニティと技術	2後・3前	2			4	1					7
男女共同参画社会論	2後・3前	2									2	
企業経営	2後・3前	2									1	
キャリア・コミュニケーション論	2後・3前	2									1	
食糧工学	3前	2			3						2	
キャリアデザイン	3前	2									1	
グローバルスキルコンニキ	Academic English I	1前	2									14
	Academic English II	1後	2									14
	English Seminar I	1前	1									14
	English Seminar II	1後	1									14
	Academic English III	2前	2									15
	Academic English IV	2後	2									11
	Global English I	3前	1									2
	Global English II	3後	1									1
健康運動科学	体育実技Ⅰ	1前	1									6
	体育実技Ⅱ	1後	1									6
	健康運動科学演習A	1前	1			1	1					12
	健康運動科学演習B	1後	1									7
留学生科目	専門基礎科学Ⅰ	1前	2									1
	専門基礎科学Ⅱ	1後	2									1
	日本語表現法	1前	2									1
	日本語日本文化	1前	2									1
日本語日本社会	1後	2									1	
小計 (76科目)	-	29	115	0	32	9	0	4	0	0	37	
合計 (357科目)	-	423	268	0	32	22	0	4	0	0	##	

卒業要件及び履修方法

<p>(卒業要件) 次の要件を満たし、総数130単位以上を修得すること。</p> <p>○共通科目 以下の要件を満たす50単位以上を修得すること。 人間社会科目 フレッシュマンセミナー2単位(必修)及び「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」の3区分の中から2区分以上にわたり8単位以上 自然科学基礎科目 すべての必修科目を含む20単位以上 産業・経営リテラシー科目 産業論2単位(必修)及び経営リテラシー科目4単位を含む6単位以上 グローバル・コミュニケーション科目 すべての必修科目を含む8単位以上 健康運動科学科目 すべての必修科目を含む2単位以上</p> <p>○専門教育科目 以下の要件を満たす80単位以上を履修すること。 主軸専門科目 13の主軸科目群のうち1つの軸に含まれるすべての必修科目を含む34単位 工学デザイン科目 すべての必修科目を含む22単位以上 創造工学設計科目 工学部で開講されるすべての専門教育科目(ただし、実践研究セミナー及び卒業研究は除く。)から、22単位以上</p> <p>(履修方法) 共通科目の履修と共に創造工学概論によって専門分野を選択させる。共通科目においては教養や技術を社会に活かすための知識を学ぶ。1年後期開始までに13のうちから1つの主軸専門分野を選択し、選択した分野の主軸専門科目を履修する。このとき、専門分野に応じてメンター教員を配属し、創造工学設計科目の履修選択を含む学修指導を行う。俯瞰的知識、問題解決力を修得するため、工学デザイン科目を学ぶ。その中で、複数の研究室活動を体験する研究室ローテーションを履修し、創造工学教育課程として達成度の評価を受ける。十分な達成度を身につけたものは3年後期から修士研究の一部として研究を開始するため、創造工学研究1、2、3を履修し、創造工学研究においてリサーチペーパーとしてまとめ、これを提出する。</p>

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に依る届出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については科目名の上に「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの差を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成28年度】

- ・履修機会の拡充のため、「管理工学」の配当年次を「3後」から「3前・後」に変更。
- ・開講年次の適正化のため、「労働者管理基礎論」の配当年次を「2後」から「3前」に変更。
- ・教育課程の充実のため、「実践問題解決」「自治体行政」「キャリア・コミュニケーション論」を追加。

【平成29年度】

- ・担当教員の見直しのため、「システム理論」「デザイン理論」「PBL演習」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

【平成30年度】

- ・担当教員の見直しのため、「クリティカルシンキング」「デザイン理論」「PBL演習」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

【令和元年度】

- ・担当教員の見直しのため、「創造方法論」「実践問題解決」「PBL演習」等の科目について、専任教員等の配置人数、専任・専担の人数を変更。

- (注) ・ 2 (1) 一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
219 科目	135 科目	0 科目	354 科目	219 科目	138 科目	0 科目	357 科目	
				[0]	[3]	[0]	[3]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{354} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
	校舎敷地	159,206㎡	0㎡	0㎡	159,206㎡			
	運動場用地	44,982㎡	0㎡	0㎡	44,982㎡			
	小 計	204,188㎡	0㎡	0㎡	204,188㎡			
	そ の 他	14,182㎡	0㎡	0㎡	14,182㎡			
	合 計	218,370㎡	0㎡	0㎡	218,370㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	128,980㎡ (128,980㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	128,980㎡ (128,980㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	56室	170室	181室	7室 (補助職員 7人)	6室 (補助職員 3人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			人事異動等に伴い、研究室を整理したため。 (元)		
	工学部 創造工学教育課程		279 287 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
		冊	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	工学部	461,783 [205,740] (461,783 [205,740])	12,933 [10,409] (12,933 [10,409])	7,343 [7,242] (7,343 [7,242])	1,311 (1,311)	0 (0)	0 (0)	
	計	461,783 [205,740] 461,783 [205,740]	12,933 [10,409] 12,933 [10,409]	7,343 [7,242] (7,343 [7,242])	1,311 (1,311)	0 (0)	0 (0)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	5,595㎡		472		528,000			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	2,479㎡		グラウンド、テニスコート、プール、弓道場、馬場、ボート艇庫、ヨット艇庫					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋工業大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
【工学部】 (第一部)						1.04				
生命・応用化学科	4	210	3年次 2	844	学士(工学) 学士(学術)	1.03	-	平成28	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
物理工学科	4	105	3年次 2	424	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
電気・機械工学科	4	200	3年次 2	804	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
情報工学科	4	145	3年次 2	584	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
社会工学科	4	150	3年次 2	604	学士(工学) 学士(学術)	1.06	-	平成28	同上	
創造工学教育課程	4	100	-	400	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-	平成28	同上	
生命・物質工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
環境材料工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
機械工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
電気電子工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
建築・デザイン工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
都市社会工学科	4	-	-	-	学士(工学) 学士(学術)	-	-	平成16	同上	平成28年より 学生募集停止
(開設年度H16共通)			-	-						平成30年より 学生募集停止
(第二部)						1.15				
物質工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.16	-			
機械工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.04	-			
電気情報工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.24	-			
社会開発工学科	5	5	-	25	学士(工学) 学士(学術)	1.16	-			

【工学研究科】										
(博士前期課程)										
生命・応用化学専攻	2	165	-	330	修士(工学) 修士(学術)	1.11	-	平成28	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
物理学専攻	2	78	-	156	修士(工学) 修士(学術)	1.06	-	平成28	同上	
電気・機械工学専攻	2	138	-	276	修士(工学) 修士(学術)	1.56	-	平成28	同上	
情報工学専攻	2	110	-	220	修士(工学) 修士(学術)	1.21	-	平成28	同上	
社会工学専攻	2	95	-	180	修士(工学) 修士(学術)	1.25	-	平成28	同上	
物質工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
機能工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
社会工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
未来材料創成工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
創成シミュレーション工学専攻	2	-	-	-	修士(工学) 修士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
(博士後期課程)										
生命・応用化学専攻	3	9	-	27	博士(工学) 博士(学術)	1.10	-	平成28	愛知県名古屋市 昭和区御器所町	
物理学専攻	3	5	-	15	博士(工学) 博士(学術)	1.20	-	平成28	同上	
電気・機械工学専攻	3	9	-	27	博士(工学) 博士(学術)	1.10	-	平成28	同上	
情報工学専攻	3	7	-	21	博士(工学) 博士(学術)	0.66	-	平成28	同上	
社会工学専攻	3	7	-	21	博士(工学) 博士(学術)	1.51	-	平成28	同上	
共同ナノメーション科学専攻	3	3	-	9	博士 (ナノメーション科 学)	0.99	-	平成25	同上	
名古屋工業大学・ウーロンゴン大 学国際連携情報学専攻	3	2	-	6	博士(学術)	0.33	-	平成29	同上	
物質工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
機能工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
情報工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
社会工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成15	同上	平成28年より 学生募集停止
未来材料創成工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止
創成シミュレーション工学専攻	3	-	-	-	博士(工学) 博士(学術)	-	-	平成20	同上	平成28年より 学生募集停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成28年度】

特になし。

【平成29年度】

- ・尾崎芳昭准教授退職に伴い、「物理化学」について井上圭一准教授に変更。
- ・五味學教授退職に伴い、「固体化学基礎」について早川知克教授に変更。
- ・松本裕司助教退職に伴い、「物理学実験」について岩本悠宏助教に変更。
- ・松本健郎教授退職に伴い、「電気・機械工学入門」について前田佳弘准教授に、「生態機能科学」について小笠原理紀准教授に変更。
- ・出口真次准教授退職に伴い、「電気・機械工学入門」について若土弘樹准教授に変更。
- ・尾崎芳昭准教授退職に伴い、「物理化学」について井上圭一准教授に変更。
- ・横田社司准教授退職に伴い、「PBL演習」「研究室ローテーションI～IV」「創造工学研究1～3」について矢野隆弘准教授に変更。
- ・水谷章夫教授退職に伴い、「環境デザイン学I」について須藤美音准教授に変更。
- ・高橋之助教退職に伴い、「建築材料実験」「建築構造実験」について楠原文雄准教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

【平成30年度】

- ・土田陽一教授退職に伴い、「流体力学Ⅱ」について牛島達夫准教授に変更。
- ・仁科健教授退職に伴い、「社会工学概論」についてSun Jing准教授に、「データサイエンス」について林篤裕教授に、「金融学」について川村大伸准教授に、「法工学」について渡辺研司教授に、「マーケティング」について藤田素弘教授に、「管理工学」について川村大伸准教授に変更。
- ・河田克博教授退職に伴い、「建築・デザイン史Ⅱ」について麓和善教授に変更。
- ・Wisetjindawat Wisinee助教退職に伴い、「測量実習」について中居楓子助教に変更。
- ・永淵康之教授退職に伴い、「人間社会ゼミナール」について川橋範子教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

【令和元年度】

- ・梅崎大造教授退職に伴い、「メディア系演習Ⅰ」「メディア系演習Ⅱ」について橋本佳准教授に変更。
- ・上記の他、担当教員見直しによる変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
9	5
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
24	25	0	5	54	31	23	0	3	57
(26)	(25)	(0)	(6)	(34)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
31	23	0	3	57	31	23	0	3	57
[7]	[△2]	[0]	[△2]	[3]	[7]	[△2]	[0]	[△2]	[3]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
63	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{57}{54} = \boxed{105.55} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{57} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由								
1		該当なし												
2														
合計（D）			後任補充状況の集計（E）											
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)			②の合計数 (b)			③の合計数 (c)		
0 人			必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
			選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
			自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
			計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由								
1		該当なし												
2														
合計（F）			後任補充状況の集計（G）											
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)			②の合計数 (b)			③の合計数 (c)		
0 人			必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
			選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
			自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
			計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）			後任補充状況の集計（E）+（G）											
辞任等した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)			②の合計数 (b)			③の合計数 (c)		
0 人			必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
			選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
			自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
			計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{54} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
1	准教授	横田 壮司	必修	P B L 演習	①	死亡のため (29)							
			必修	研究室ローテーションⅠ	①								
			必修	研究室ローテーションⅡ	①								
			必修	研究室ローテーションⅢ	①								
			必修	研究室ローテーションⅣ	①								
			必修	創造工学研究1	①								
			必修	創造工学研究2	①								
			必修	創造工学研究3	①								
			必修	セラミックス応用学実験Ⅰ	③								
			必修	セラミックス応用学演習Ⅱ	③								
			必修	セラミックス応用学実験Ⅱ	③								
2	教授	梅崎 太造	必修	メディア系演習Ⅰ	②	退職のため (令和元年)							
			必修	化学実験	①								
			選択	メディア系演習Ⅱ	②								
合計			後任補充状況の集計										
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
2	人	必修	13	科目	必修	9	科目	必修	1	科目	必修	3	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	14	科目	計	9	科目	計	2	科目	計	3	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任担当教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員辞任等による学生の履修等への重大な影響は認められない。 各授業における担当教員情報についてはシラバスや授業時間割表にて周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (28年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (30年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (31年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工学部 創造工学教育課程>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	1～6の項目に記入した事項以外の変更なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>工学教育総合センターの創造教育開発オフィスにおいて、工学教育の質的向上に資することを目的として、ファカルティ・ディベロップメントの推進及び授業評価を行う教育機能開発部門を設置している。また全学的な視点からファカルティ・ディベロップメント活動の推進を図ることを目的として、平成29年11月1日より名古屋工業大学ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置した。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>工学教育総合センター会議を3回、ファカルティ・ディベロップメント委員会を1回、ファカルティ・ディベロップメント委員会専門部会を1回実施した。（約40名の教員が参加）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>全学のFDに関する基本方針の策定及び活動の総括、企画・立案・実施及び評価の総括等。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院共通科目のあり方について ・ 高等学校新課程「物理」・「英語」の現状について ・ 理工系の授業を英語でおこなうための実務とポイント ・ アクティブラーニングを推進する学習活動の「見てます化」 ・ 工学系人材育成のためのアクティブラーニング <p>b 実施方法</p> <p>チラシを作成し事前アナウンスを行い、時に学外講師を招いて実施している。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>平成30年度は「a 実施内容」の通り開催し、参加人数はそれぞれ、41名、30名、20名、15名、30名であった。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>各教員において、授業改善に取り組んでいる。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>前期末及び後期末において実施している。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>一般的な集計結果についてはHPにて公開し、授業科目ごとの詳細結果については個別に学内の授業評価システムにて公開している。</p>

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

現状把握と分析を行いつつ、全学評価室を中心に評価する予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成31年4月 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年6月28日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。